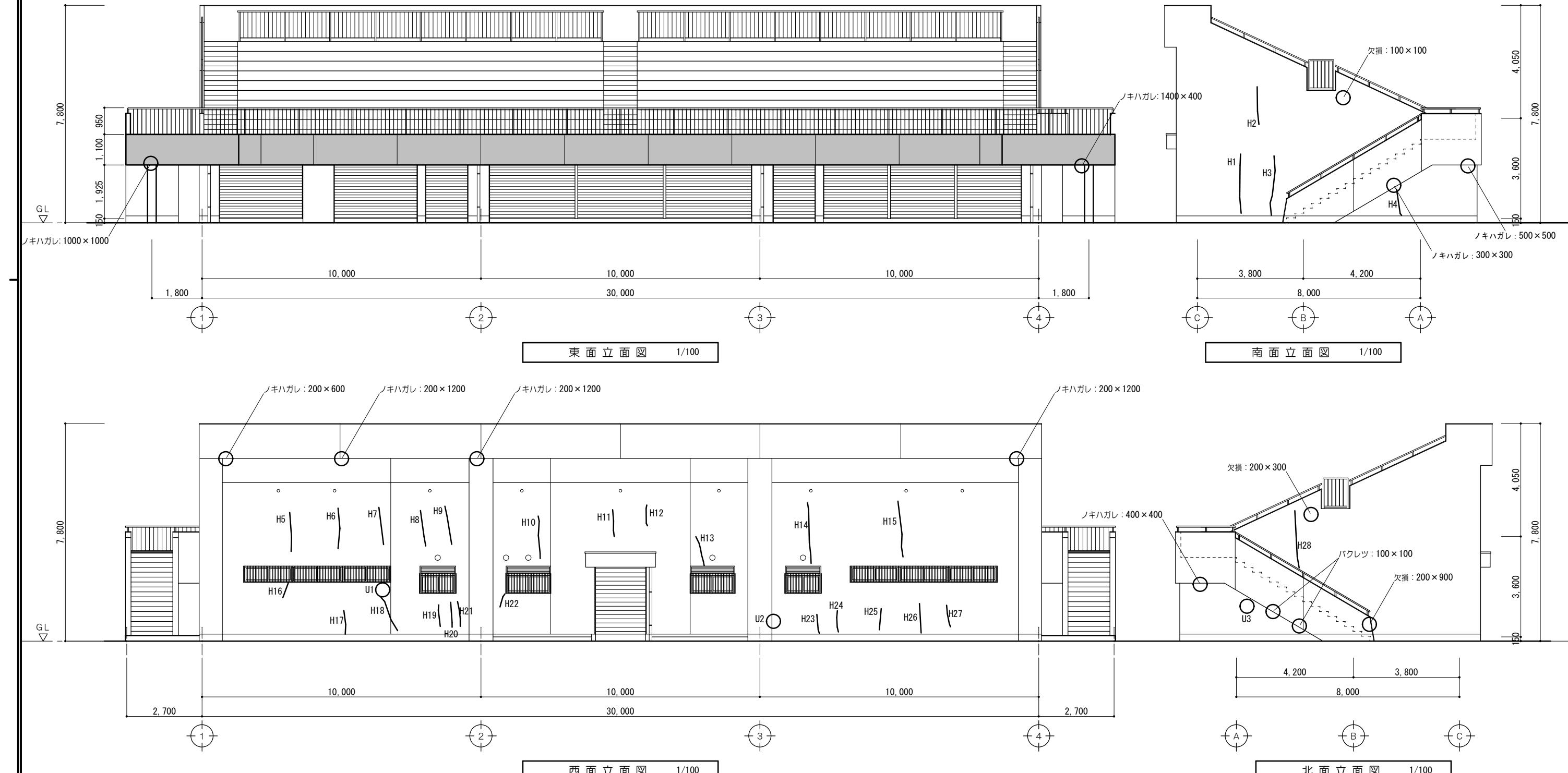
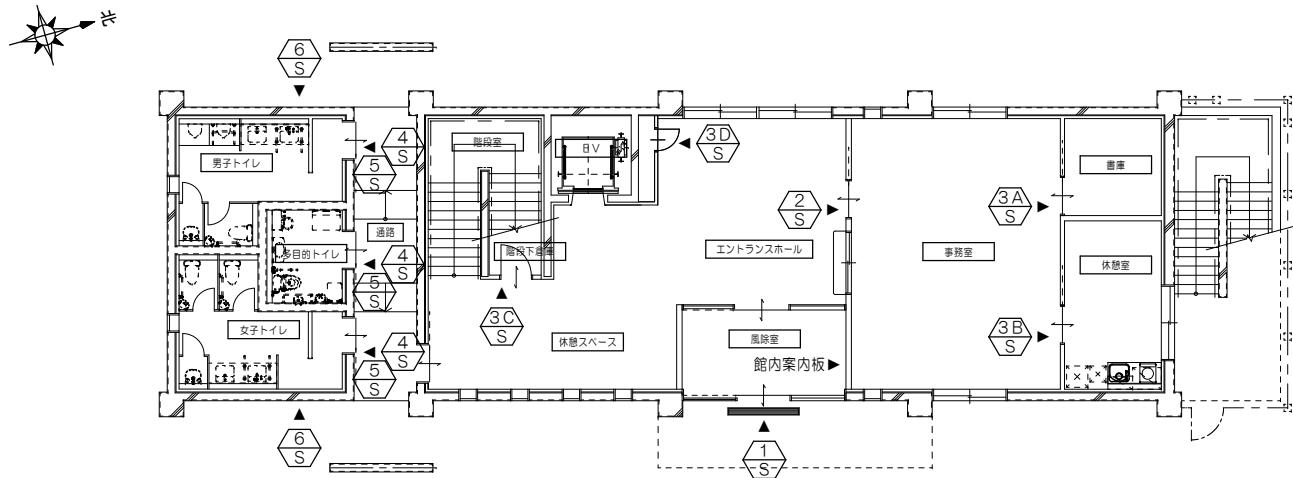


浮き【補修方法】 注入口付アンカーピンニング部分工ボキシ樹脂注入工法			
番号	縦(m)	横(m)	面積(m <sup>2</sup> )
U1	0.20	0.20	0.04
U2	0.30	0.30	0.09
U3	0.20	0.20	0.04
合計			0.17

## 改修前

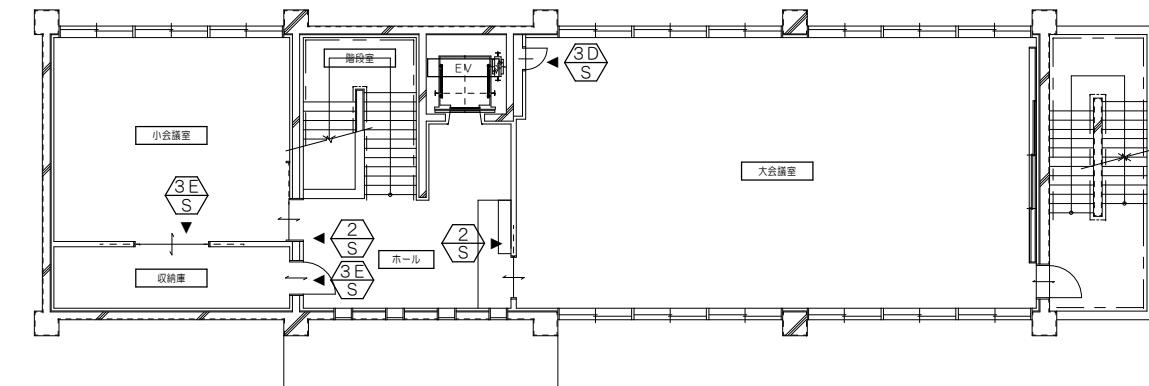


特 記 事 項			一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号   株式会社 前野建築設計 管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝	代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早妃	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当	法適合確認	作図 加藤 早妃 横圖 三橋 五百子	工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事	設計日  縮尺 A2:1/100 A3:1/141  図面番号 A123 (原図:A2)
	検査 横圖 【⑦スタンド棟】改修前 立面図											



1階サイン指示図 1/150

<管理棟>

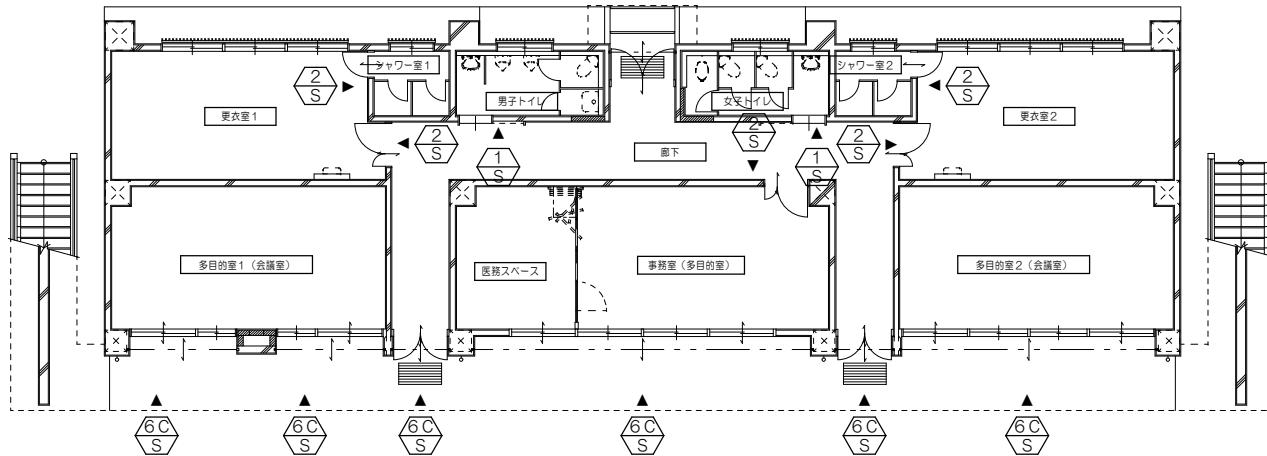


2階サイン指示図 1/150

<管理棟>

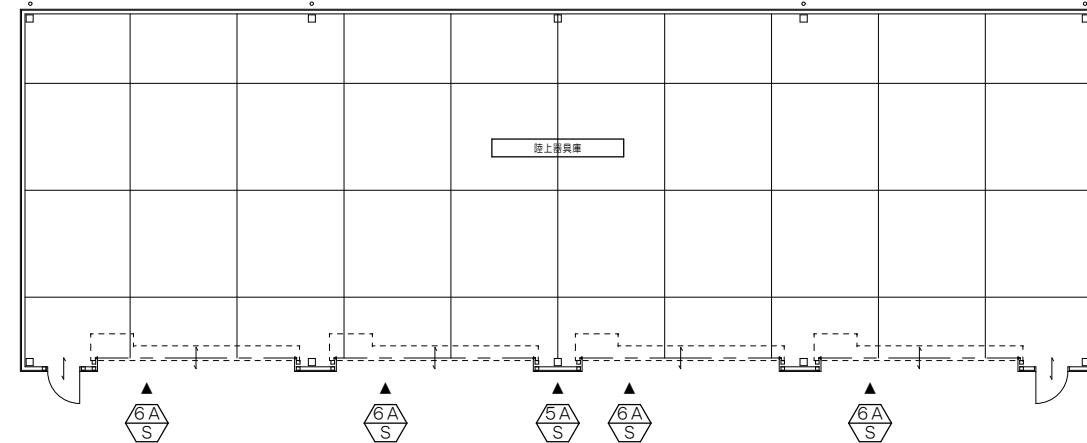
【共通】サイン詳細図 No. 1

1S 館名サイン 詳細図	1/30	2S 室名札(平付) 詳細図	1/10	3S 内部ドアサイン 詳細図	1/5	4S 外部ドアサイン 詳細図	1/50								
<p>※取付面: コンクリート打放シ+吹付仕上 ※SUS箱文字 (バイプレーション仕上) 取付下地材共 ※文字書体 (UD デジタル 教科書体 N) ※取付位置は監督員と協議の上決定すること</p>		<p>※本体: アクリルマット板A3 ※表示: カッティングシート張</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>室名</th> <th>か所</th> </tr> <tr> <td>事務室</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>小会議室</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>大会議室</td> <td>1</td> </tr> </thead></table>	室名	か所	事務室	1	小会議室	1	大会議室	1		<p>※取付面: ドア化粧板 ※表示: カッティングシート張 ※文字書体 (HG丸ゴシックM-PRO)</p>		<p>※取付面: アルミ ※表示: 屋外用カッティングシート張 ※デザインの詳細は監督員と相談の上決定すること</p>	
室名	か所														
事務室	1														
小会議室	1														
大会議室	1														
<p>※基材: SUS A0.5 ベース: アルミニウム 表示: 屋外用カッティングシート張 ※JIS Z 8210に準拠すること</p>		<p>※取付面: コンクリート打放シ+吹付仕上 ※SUS切文字A3 (焼付塗装) 取付下地材共 ※取付位置は監督員と協議の上決定すること</p>		<p>表示: インクジェット印刷 表示基板: ガラス調アクリル板A8 (脱着式)</p>											
				<p>表示: インクジェット印刷 表示基板: ガラス調アクリル板A8 (脱着式)</p>											



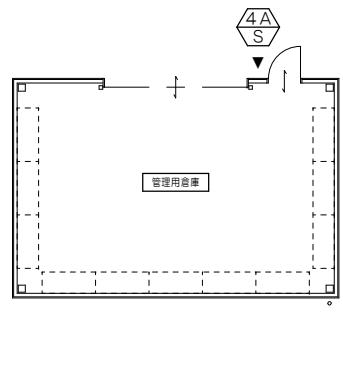
1階サイン指示図 1/150

<スタンド棟>



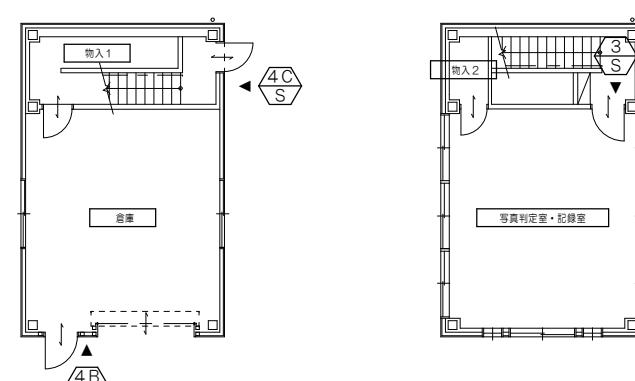
1階サイン指示図 1/150

<陸上器具庫>



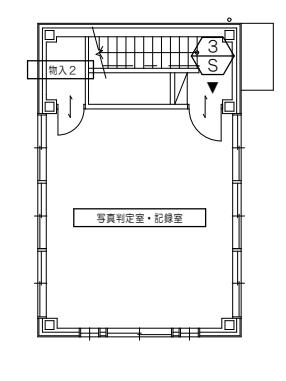
1階サイン指示図 1/150

<管理用倉庫>



1階サイン指示図 1/150

<写真判定棟>



2階サイン指示図 1/150

<写真判定棟>



1階サイン指示図 1/150

<サッカーゴール等収納庫>

【共通】サイン詳細図 No. 2

1S ピクトサイン(突出) 詳細図	1/10	2S 室名札(平付) 詳細図	1/10	3S 内部ドアサイン 詳細図	1/5	4S 外部サイン 詳細図	1/10
 ※本体: アクリルマット板A3 ※表示: カッティングシート張		 ※本体: アクリルマット板A3 ※表示: カッティングシート張		 ※取付面: ドア化粧鋼板 ※表示: カッティングシート張 ※文字書体 (UD デジタル 教科書体 N) ※文字書体 (HG丸ゴシックM-PRO)		 ※取付面: 金属サイディング ※盤面: アルミ樹脂複合板A3 小口処理 ※文字書体 (UD デジタル 教科書体 N) ※取付位置は監督員と協議の上決定すること	

## 【共通】サイン詳細図 No.3

5 S 館名サイン 詳細図		1/30	6 S 外部サイン詳細図		1/100、1/30																																
<p>※取付面: 金属系角波サイディングA0, 5張 ※SUS箱文字 (バイプレーション仕上) 取付下地材共 ※文字書体 (UD デジタル 教科書体 N) ※取付位置は監督員と協議の上決定すること</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>サイン室名</th> <th>か所</th> <th>棟名</th> </tr> <tr> <td>5A</td> <td>器具庫1</td> <td>1</td> <td>(陸上器具庫)</td> </tr> <tr> <td>5B</td> <td>器具庫2</td> <td>1</td> <td>(サッカーゴール等収納庫)</td> </tr> </table>			サイン室名	か所	棟名	5A	器具庫1	1	(陸上器具庫)	5B	器具庫2	1	(サッカーゴール等収納庫)		<p>※取付面: スチールシャッター ※表示: 屋外用カッティングシート張 ※文字書体 (UD デジタル 教科書体 N)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>サイン文字</th> <th>か所</th> <th>棟名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6A</td> <td>A~D</td> <td>4</td> <td>(陸上器具庫)</td> </tr> <tr> <td>6B</td> <td>A~D</td> <td>4</td> <td>(サッカーゴール等収納庫)</td> </tr> <tr> <td>6C</td> <td>A~F</td> <td>6</td> <td>(スタンド棟)</td> </tr> </tbody> </table>			サイン文字	か所	棟名	6A	A~D	4	(陸上器具庫)	6B	A~D	4	(サッカーゴール等収納庫)	6C	A~F	6	(スタンド棟)					
	サイン室名	か所	棟名																																		
5A	器具庫1	1	(陸上器具庫)																																		
5B	器具庫2	1	(サッカーゴール等収納庫)																																		
	サイン文字	か所	棟名																																		
6A	A~D	4	(陸上器具庫)																																		
6B	A~D	4	(サッカーゴール等収納庫)																																		
6C	A~F	6	(スタンド棟)																																		

特  
記  
事  
項

一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号  
株式会社 前野建築設計  
管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者

一級建築士

第320204号

前野 将輝

設計担当

一級建築士

第307846号

三橋 五百子

設計担当

一級建築士

第378328号

加藤 早妃

設計担当

一級建築士

第360917号

前田 祐作

法適合確認

査定

A126

検査

査定

(原図:A2)

工事名称

海浜公園内陸上競技場改修工事

A2:1/100, 30

図面名称

【共通】サイン詳細図No.3

A3:1/141, 42

設計日

A126



特記事項



一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号  
株式会社 前野建築設計

代表  
一級  
第320  
前野

設計者  
建築士  
0204号  
将輝

設  
一級  
第3  
三橋

計担当  
及建築二  
07846号  
五百一

詩一  
第一前

設計擔  
級建築  
360917  
町田 祐

當士  
7號  
作

設計擔

担当

設計

担当

法適

三合確認

筋圖

卷之三

卷之三

工事名称  
海浜公  
画面名称  
【共通】

公園內

陸上競  
造特記

競技場

改修工

事

1

1

1

縮  
A2  
A3

尺

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No.1

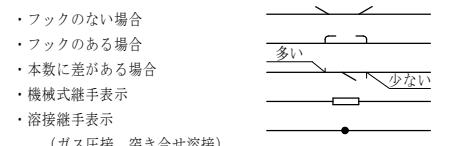
## 1 適用範囲

- (a) 本配筋標準図は、鉄筋コンクリート造における鉄筋の加工、組立の一般的な基準とする。  
 (b) 本配筋標準図以外についての設計図書及び監督職員の指示による。  
 (c) 本配筋標準図で「図示」とあるのは、設計図面記載事項を意味する。  
 (d) 本配筋標準図で「特記」とあるのは、「特記仕様書」の記載事項を意味する。  
 (e) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。  
 また、本標準図に明記なき場合、公共建築工事標準仕様書(平成31年度版)及び日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2020)」、特記仕様書に指定した共通仕様書による。  
 (f) 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。  
 (g) 本標準図に示す単位は特記なき限り全てmmとする。

## 2-1 鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	*	x	ø	•	○	◎	⊗	⊕	◆	⊗
呼び径d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
最外径D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43



## 2-2 加工及び組立（一般事項）

- (a) 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。  
 (b) 有害な曲がり又は損傷等のある鉄筋は、使用しない。  
 (c) コイル状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。  
 (d) 鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アクストライクを起こしてはならない。

## 2-3 加工

- (a) 鉄筋の切断は、シヤーカッター・直角切断機等によって行う。ただし、現場でやむを得ない場合は、ガス切断することができる。  
 (b) 异形鉄筋の末端部のフックは、2-7(フック)により、以下の部分にはフックをつける。  
 ①柱の四隅にある主筋の重ね維手及び最上階の柱頭  
 ②柱の出隅及び下端の両端にある梁主筋の重ね維手（基礎梁を除く）  
 ③煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）  
 ④杭基礎のベース筋  
 ⑤帶筋、あばら筋及び幅止メ筋  
 (c) 鉄筋の折曲げ形状及びその寸法は、2-8(鉄筋の折曲げ)による。

## 2-4 組立

- (a) 鉄筋の組立は、鉄筋維手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスベーザー、吊金物等を使用して行う。  
 なお、スベーザーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスベーザーは原則として、鋼製とする。また、鋼製のスベーザーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。

## 2-5 継手

- (a) 鉄筋の維手は、重ね維手、ガス圧接維手又は特殊な鉄筋維手（平成12年建設省告示1463号に適合したもの）とし、適用は特記による。  
 (b) 鉄筋の溶接はアーケ溶接とし、公共建築工事標準仕様書7.6.5〔部材の組立〕(4)及び7.6.7〔溶接施工〕(1)による。また、溶接技能者は、後述の通りとする。  
 (c) 重ね維手及び定着の長さは、2-9(重ね維手及び定着長さ)、隣り合う維手の位置は、2-10(隣り合う維手の位置)による。溶接金網、スパイラル筋の維手及び定着は、それぞれ2-11(溶接金網の維手及び定着)、2-12(スパイラル筋の維手及び定着)による。

## 2-6 溶接

- 2-6-1 溶接材料の種類  
 溶接棒、ワイヤ及びフラックスの種類は下表により、母材の種類、寸法及び溶接条件に相応したものを選定する。

種類	規格番号	規格名称
被覆アーク溶接棒	JIS Z 3211	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒
セルフシールドアーク溶接用鋼ワイヤ	JIS Z 3313	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ

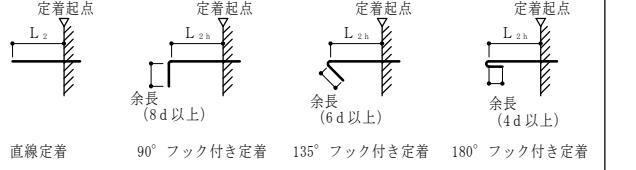
※注 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

## 2-9 重ね維手及び定着長さ

重ね維手及び定着の長さ、投影定着長さは下表による。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度F(N/mm²)	フックなし		フックあり		L <sub>a</sub>	L <sub>b</sub>
		L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>1h</sub>	L <sub>2h</sub>		
SD295A	18	45d	40d	35d	30d	20d	15d
	21	40d	35d	30d	25d	15d	15d
	24~27	35d	30d	25d	20d	15d	15d
	30~36	35d	30d	25d	20d	20d	20d
	39~45	30d	25d	35d	30d	20d	20d
	18	50d	40d	30d	25d	20d	20d
SD345	21	45d	35d	30d	25d	15d	15d
	24~27	40d	35d	30d	25d	20d	20d
	30~36	35d	30d	25d	20d	15d	15d
	39~45	35d	30d	35d	30d	20d	20d
	21	50d	40d	35d	30d	20d	20d
	24~27	45d	40d	30d	25d	20d	15d
SD390	30~36	40d	35d	30d	25d	20d	15d
	39~45	40d	35d	30d	25d	15d	15d
	18	45d	40d	35d	30d	20d	15d
	21	40d	35d	30d	25d	20d	20d
	24~27	35d	30d	25d	20d	20d	20d
	30~36	35d	30d	30d	25d	20d	15d

一般定着の直線L<sub>2</sub>またはフック付きL<sub>2h</sub>の図



※注(1) L<sub>1</sub>, L<sub>1h</sub>: 重ね維手の長さ及びフックあり重ね維手の長さ。

並びに下記(2)及び(3)以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。

(2) L<sub>2</sub>, L<sub>2h</sub>: 割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。

(3) L<sub>2</sub>: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。

(4) L<sub>3h</sub>: 小梁の下端部のフックあり定着の長さ。

(5) フックのある場合のL<sub>1h</sub>, L<sub>2h</sub>及びL<sub>3h</sub>は、次図に示すように鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、末端のフック部分L'は定着長さに含まない。また、中間部での折り曲げは行わない。



(6) 軽量コンクリートの場合は表の値に5dを加えたものとする。

(7) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋は、特記による。特記がなければ、40d(軽量コンクリートの場合は50d)と上表の定着長さのうち大きい値とする。

(7) なお、梁主筋の重ね維手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(基礎梁をのぞく)は、柱の四隅にある主筋で、重ね維手の場合及び最上階の柱頭にある場合

(5) 梁主筋の重ね維手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(基礎梁をのぞく)

(6) 杖基礎のベース筋

(7) 丸鋼

(8) 単純梁の支持端、片持梁及び片持スラブの先端

(9) 鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

(7) なお、梁主筋の柱内定着において、縦に折曲げて定着する場合は、下図に示すように柱せいの3/4倍以上のみ込まれた。ただし、折曲げた先の直線部の長さが8dに満たなくなる場合は、監督職員と協議する。

(8) 仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の長さがフックあり定着長さを確保できない場合は、全長を直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外までの投影定着長さを(かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上)をのみ込ませる。

(7) 仕上げありとは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上塗材、吹付け又は塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。

(3) スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。

(4) 軽量コンクリートの場合は、これに10倍加算する。

(5) 基礎の主筋のかぶり厚さは、杭天端からとする。

(6) 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

(7) 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は特記による。

(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

(d) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(b)による。

(a) 鉄筋のあきaは原則として下記による。

呼び名の数値dの1.5倍以上

粗骨材の最大寸法の1.25倍以上

かつ25mm以上

(b) 隣り合う鉄筋の平均径の1.5倍

(c) 二段筋のあきは1.5dとする。

(d) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(a)による。

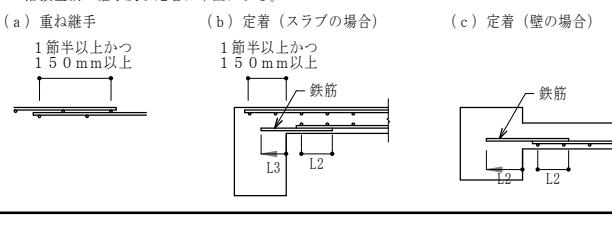
(d) D35以上の異形鉄筋には、原則として重ね維手は用いない。

(e) 溶接維手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、突き合せ溶接の場合は1サイズまでとする。

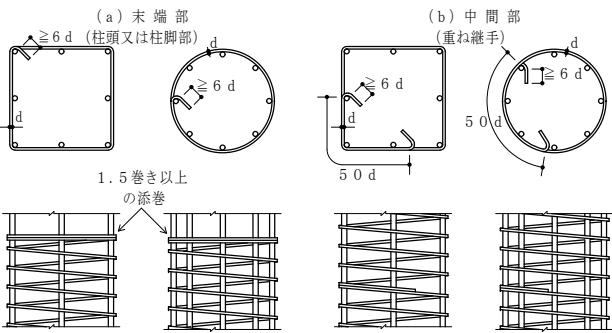
(f) なお、先組み工法等で柱、梁の主筋の維手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

## 2-11 溶接金網の維手及び定着

溶接金網の維手及び定着は下図による。



## 2-12 スパイラル筋の維手及び定着



## 2-13 鉄筋のかぶり厚さ

(a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、特記による。特記がなければ下表による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。

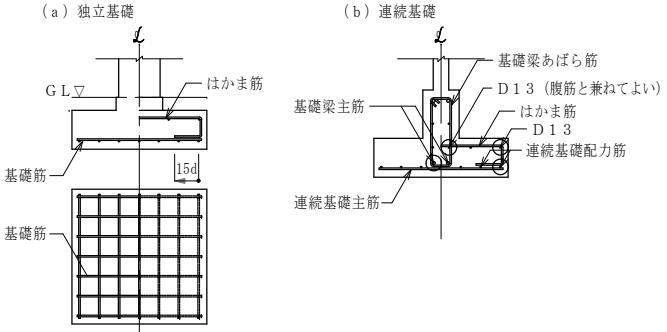
| 部位 |
<th
| --- |

## 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No.2

### 3-1 基礎の配筋及び杭頭補強の方法

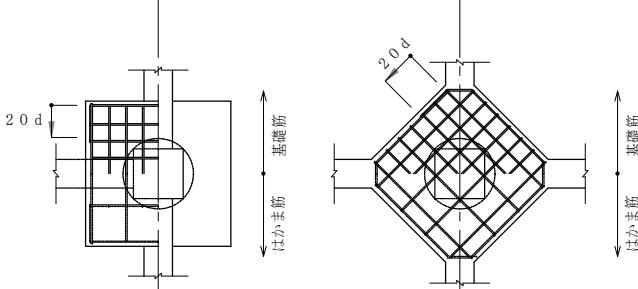
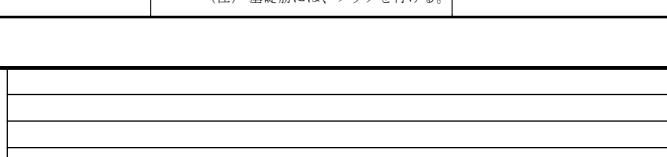
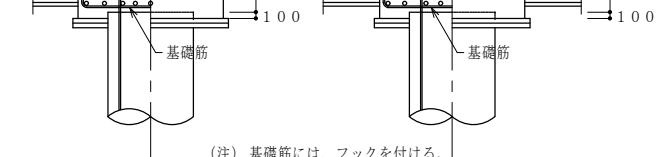
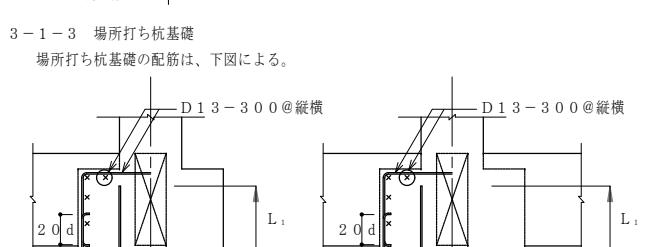
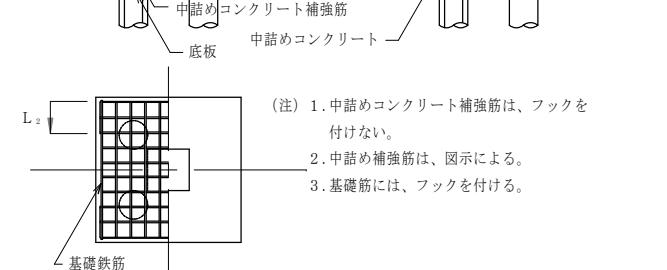
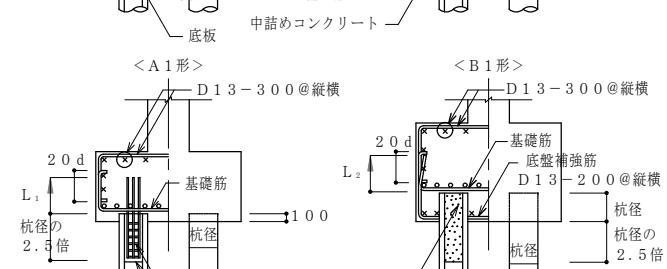
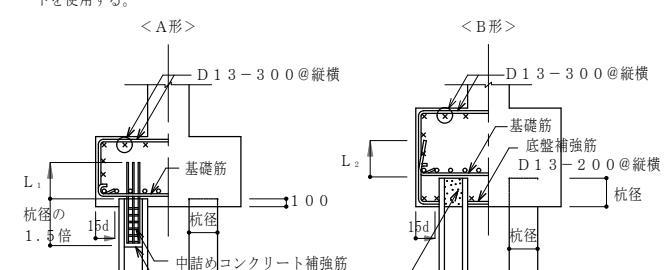
#### 3-1-1 直接基礎

直接基礎の場合の配筋は下図による。



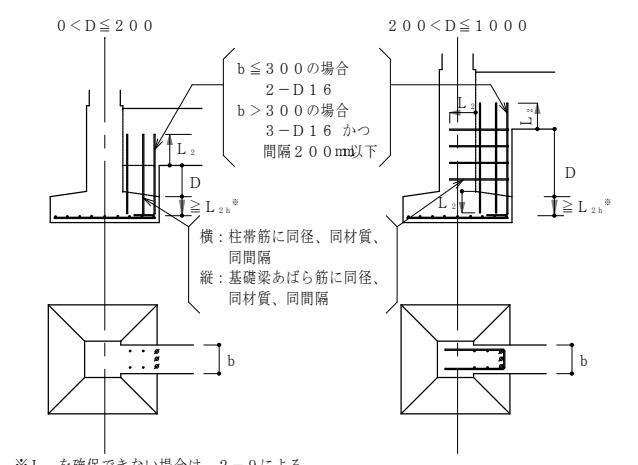
#### 3-1-2 既製コンクリート杭の杭頭補強

既製コンクリート杭の杭頭補強の方法は、下図のA形、B形又は、A1形又はB1形とし、適用は特記による。なお、中詰めコンクリートは基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。



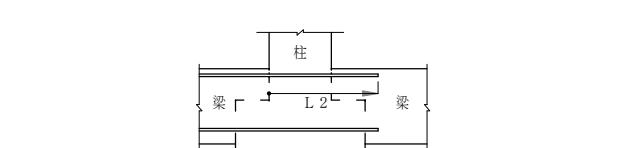
### 3-2 基礎接合部の補強

基礎接合部の補強筋は下図による。



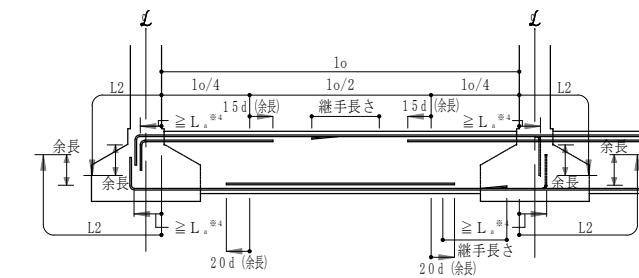
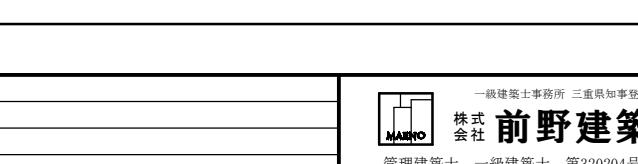
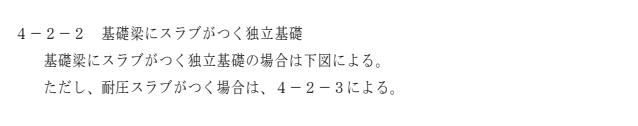
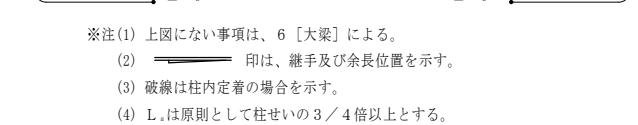
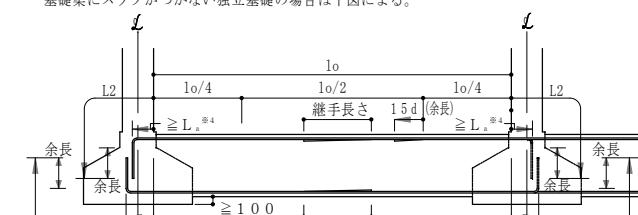
### 4-1 基礎梁主筋の継手及び定着

- (a) 上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。
- (b) 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
- (c) 梁筋を柱内に定着する場合は、柱の中心軸を越えてから定着させる。



### 4-2 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

#### 4-2-1 基礎梁にスラブがつかない独立基礎

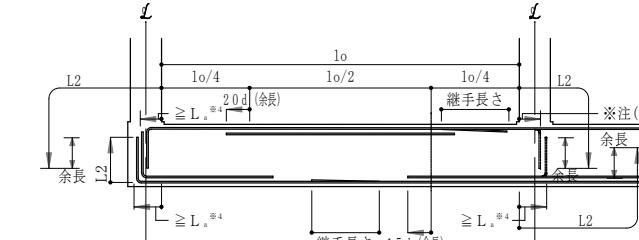


※注(1) 上図にない事項は、6【大梁】による。

- (2) 印は、継手及び余長位置を示す。
- (3) 破線は柱内定着の場合を示す。
- (4)  $L_s$ は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

### 4-2-3 連続基礎及びべた基礎

連続基礎及びべた基礎の場合は下図による。



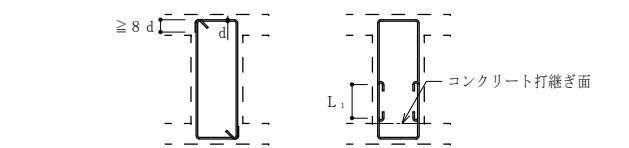
※注(1) 上図にない事項は、6【大梁】による。

- (2) 印は、継手及び余長位置を示す。
- (3) 破線は柱内定着の場合を示す。
- (4)  $L_s$ は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

### 4-3 基礎梁のあら筋、腹筋及び幅止め筋

#### 4-3-1 あら筋

- (a) あら筋の径及び間隔は図示による。
- (b) あら筋組立ての形及びフックの位置は、6-4による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ梁せいが1.5m以上の場合は下図による。



#### 4-3-2 あら筋の割付け

あら筋の割り付けは、6-6による。

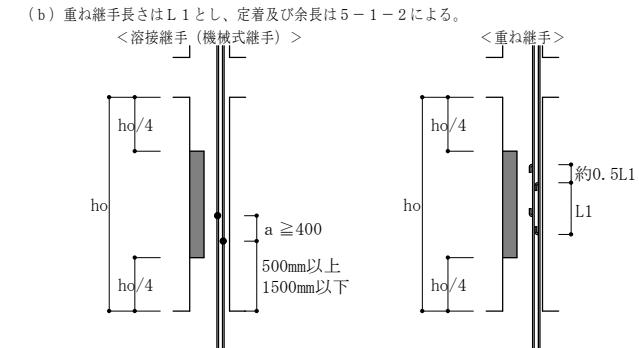
#### 4-3-3 腹筋及び巾止め筋

腹筋及び巾止め筋は、6-3及び6-5による。ただし、梁せいが1.5mを超える場合は特記による。

### 5-1 柱主筋の継手、定着及び余長

#### 5-1-1 柱主筋の継手

- (a) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下、かつ3/4ho(hoは柱の内法高さ)以下とする。
- (b) 重ね継手長さはL1とし、定着及び余長は5-1-2による。



※注(1) 印内に継手中心部を設けることを原則とする。

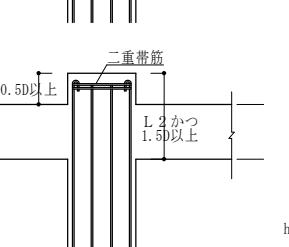
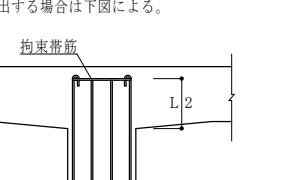
- (2) 2-5で定めた鉄筋には、フックをつける。
- (3) 隣合う継手の位置は2-1-0による。
- (4) 継手はすべての階に適用する。

#### 5-1-2 柱主筋の定着及び余長

柱主筋の定着及び余長は右図による。

ただし、柱頭定着長さL2が確保できき場合は5-1-3による。

その他、梁ハーナチがある場合、柱頭が突出する場合は下図による。

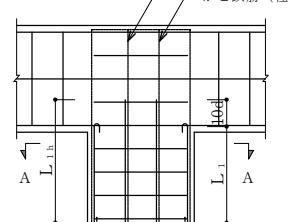


※注(1) 2-5で定めた鉄筋には、フックをつける。

- (2) 定着はすべての階に適用する。

#### 5-1-3 柱頭定着長さL2が確保できない場合

かご鉄筋(柱筋と同径、同材質とする)



#### 5-1-4 柱上下の断面寸法が異なる場合

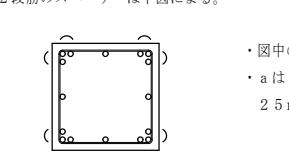


折り曲げてもよい場合

$e/D \leq 1/6$

#### 5-1-5 柱2段配筋

2段筋のスペーサーは下図による。



- ・図中の印のあるものは2段配筋とする。
- ・aは1.5dかつ粗骨材の最大寸法の1.25倍かつ25mmの最大のものとする。

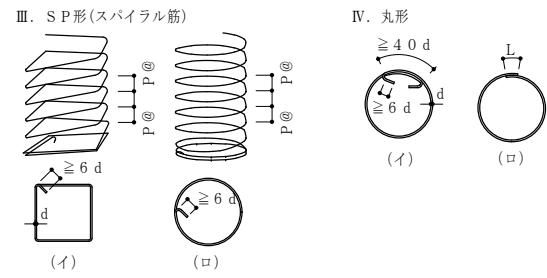
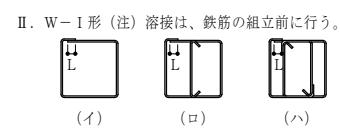
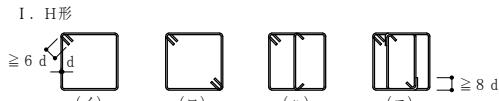
6φ @ 750千鳥

かつ、各階2カ所以上

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No.3

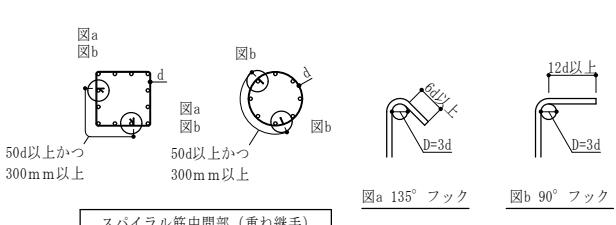
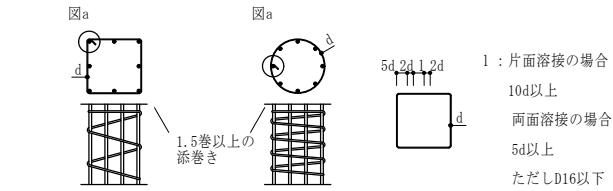
## 5-2 帯筋

- (a) 帯筋の種類及び間隔は、図示による。  
 (b) 帯筋立ての形は、下図とし、適用は特記による。特記がなければ下記による。  
 (1) H形を標準とする。  
 (2) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。  
 (3) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。フレア溶接要領は2-5【溶接】による。



※注 S-P形において柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻を行う。(d)参照。

- (c) フック及び継手の位置は、交互とする。  
 (d) スパイラル筋の末端処理及び継手は下記のとおりとする。  
 (1) 末端は1.5巻以上の添巻をし、図aのフックをつける。  
 (2) 重ね継手は重ね長さ50d以上とし、図a又は図bのフックをつける。

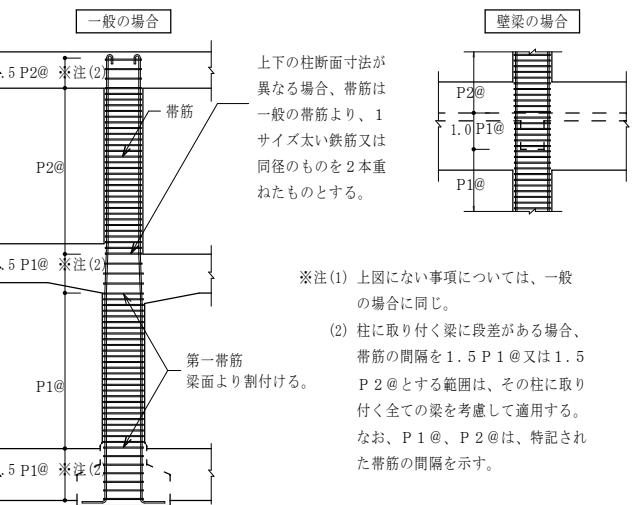


- (e) 補助筋は下図の通りとする。  
 4d以上  
 4d以上  
 4d以上  
 二段配筋  
 形成筋  
 二段配筋の場合  
 巾止め筋  
 巾止め筋

※注 補助筋はD10をピッチ600以内割り付ける。

## 5-3 帯筋の割り付け

帯筋の割り付けは設計図による。設計図に指示がなければ、下図による。

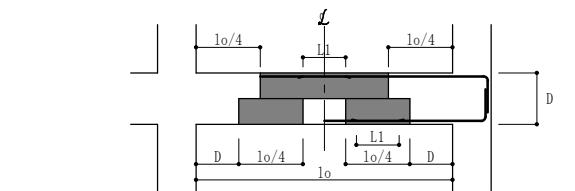


※注(1) 上図にない事項については、一般の場合に同じ。

- (2) 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1@又は1.5P2@とする範囲は、その柱に取り付く全ての梁を考慮して適用する。  
 なお、P1@、P2@は、特記された帯筋の間隔を示す。

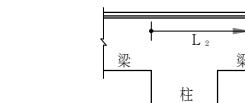
## 6-1 大梁主筋の継手及び定着 (一般事項)

- (a) 継手中心位置は下記による。



- ※注(1) ■印内に継手中心部を設けることを原則とする。  
 (2) 継手長さはL1とし、定着長さ及び余長は6-2による。

- (b) 梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。



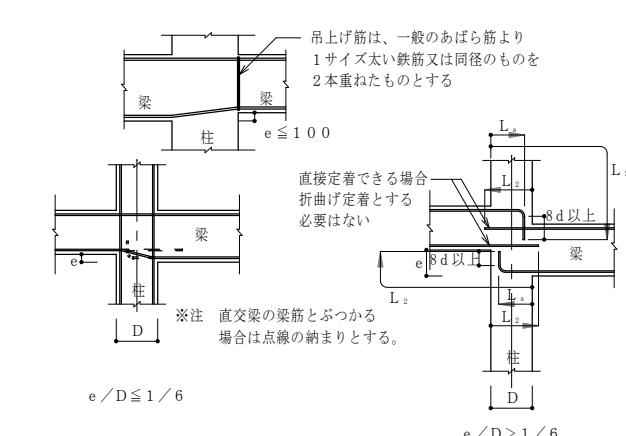
- (c) 前項(b)の梁主筋を柱内に定着する場合は、次による。

- なお、定着の方法は、2-9【重ね継手及び定着長さ】による。  
 上端筋：曲げ降ろす。

- 下端筋（一般）：曲げ上げる。ただし、やむを得ない場合は、監督職員の承諾を受けて、曲げ降ろすことができる。

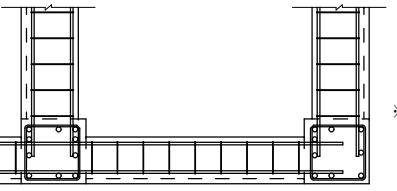
- (d) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は、特記による。特記がなければ、1:4とする。

- (e) 段違い梁は、監督職員の承諾を受けて、下図によることができる。



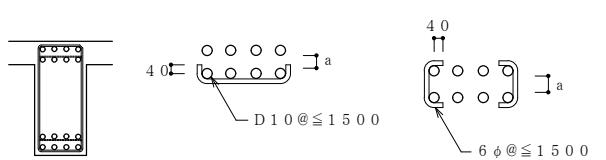
- (g) 柱と梁側面が同一の場合の配筋は下図による。

ただし、梁のフカシが発生する場合、フカシ量については設計図による。  
 設計図にない場合は、監督職員と協議する。



※注 梁の主筋は柱の主筋の内側に配筋する。この場合、スターラップの幅を狭めて加工する。

- (f) 2段筋のスペーサーは下図による。

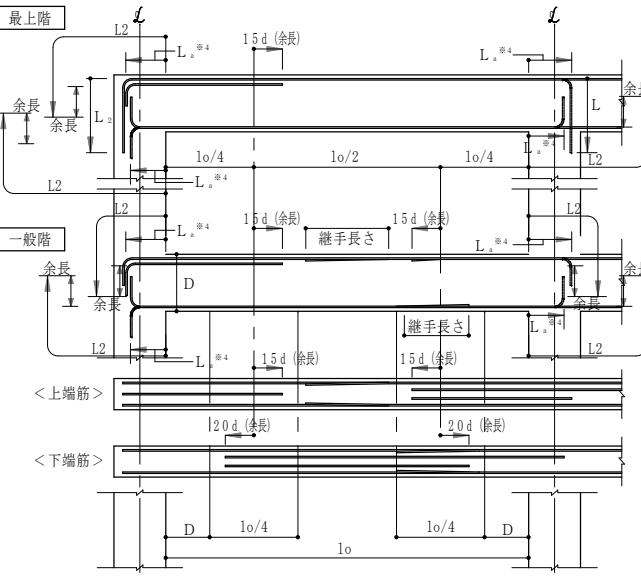


※注 aは1.5dかつ粗骨材の最大寸法の1.25倍かつ25mmの最大のものとする。

## 6-2 大梁筋の継手、定着及び余長

### 6-2-1 ハンチのない場合

ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は下図による。

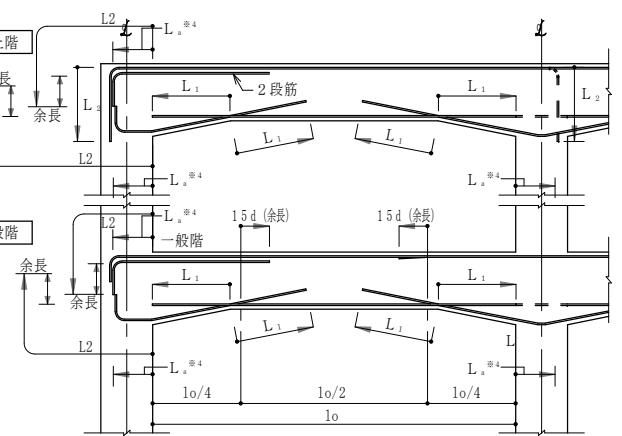


- ※注(1) 2-5で定めた鉄筋には、フックをつける。

- (2) ■印は、継手及び余長位置を示す。  
 (3) 破線は柱内定着の場合を示す。  
 (4) L<sub>s</sub>は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

### 6-2-2 ハンチのある場合

ハンチのある場合の定着及び余長は下図による。



- ※注(1) 2-5で定めた鉄筋には、フックをつける。  
 (2) ■印は、継手及び余長位置を示す。

- (3) 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、—のように引き通すことができる。

- (4) L<sub>s</sub>は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

- (5) 破線は柱内定着の場合を示す。

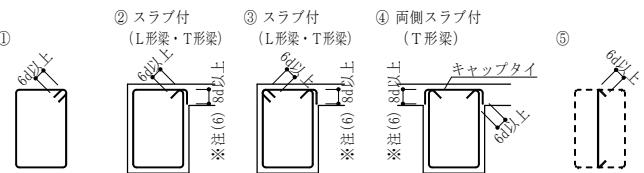
## 6-3 あばら筋、腹筋及び巾止め筋 (一般事項)

- (a) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。  
 (b) 巾止め筋及び受け用巾止め筋は、設計図による。設計図に指示がない場合はD10@100程度とする。

- (c) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。  
 (d) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければL2とする。

## 6-4 あばら筋の組立ての形及びフックの位置

- (a) あばら筋（副あばら筋を含む）の組立ての形及びフックの位置については下図の通りとする。



- ※注(1) あばら筋の加工は上図①による。なお、②③④⑥⑦⑨⑩は同時打込みのスラブ付の場合に限る。  
 (2) ⑩⑪は梁せいの大きい場合とする。  
 (3) ⑨はピッチ2pで交互配置とする。  
 (4) 接続継手は5-2【帯筋】を参照とする。  
 (5) ⑪は、接続継手又は重ね継手のどちらかとする。  
 (6) 柱面より梁せい1.5Dの範囲は、180°又は135°フックとする。

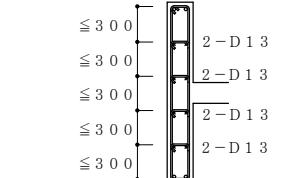
- (b) フックの位置は、①の場合は交互とし、②の場合はL形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、③の場合は、スラブの付く側を90°折曲げとする。

## 6-5 補助筋

- (a) 腹筋及び巾止め筋・その他補助筋は、設計図による。設計図に指示がない場合は下図の通りとする。



- (b) 壁梁の場合の腹筋及び巾止め筋は、設計図による。設計図に指示がない場合は下図の通りとする。



- ※注 300ピッチ以内に2-D13の腹筋を導入する。  
 巾止め筋は上記(a)と同様とする。

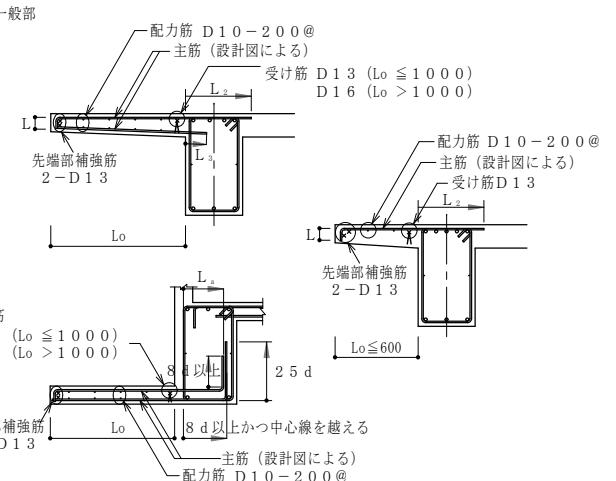


## 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No.5

### 9-5 片持ちスラブの配筋

片持ちスラブの配筋は下記による。

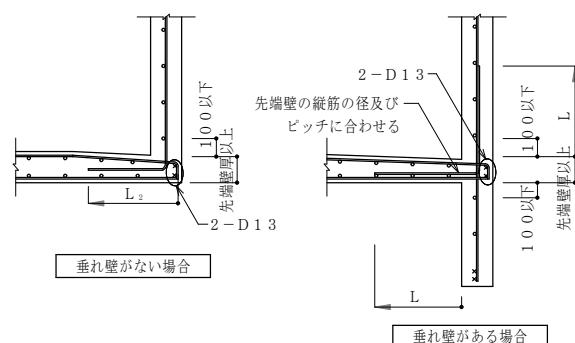
(a) 一般部



※注(1) 先端の折曲げ長さL<sub>1</sub>は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

(2) スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着長さとする。

(b) 先端に壁が付く場合

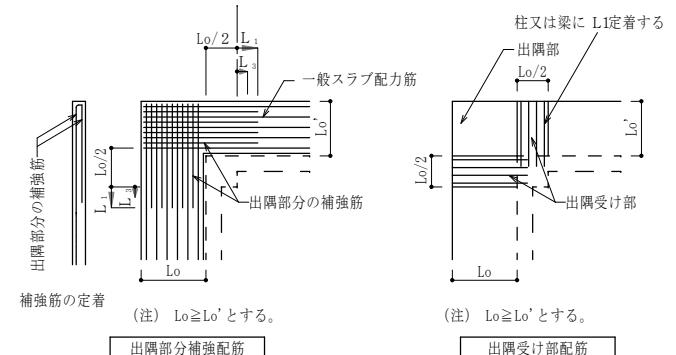


(c) 出隅部

(1) 補強の配筋は図示による。図示がなければD10@1000ダブルとする。

配筋方法は、下図による。

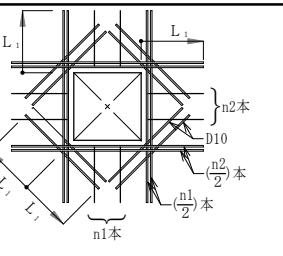
(2) 出隅受け部（下図のハッチ部分）の配筋は図示による。



### 9-6 スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強は図示による。図示がなければ下記による。

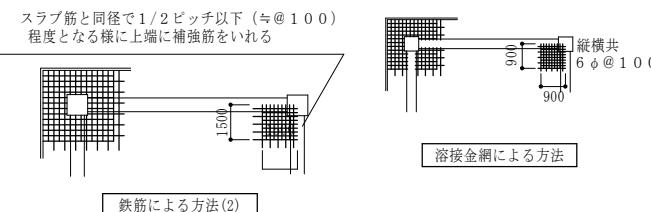
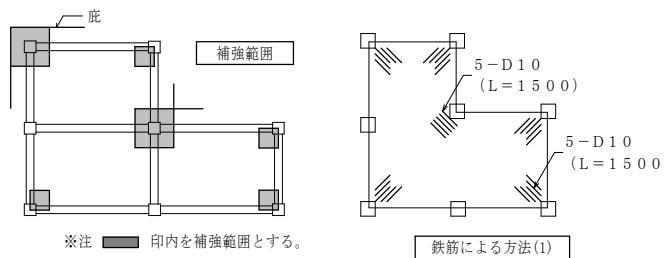
(a) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、下図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13（L=2L<sub>1</sub>）シングルを上下箭の内側に配筋する。



(b) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

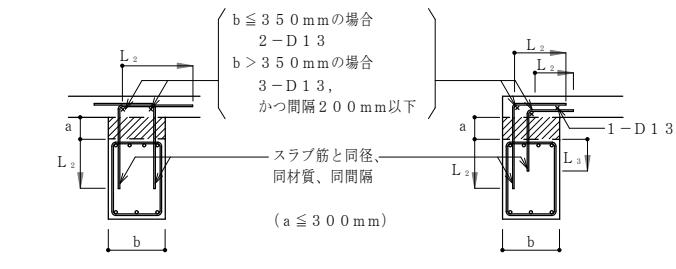
### 9-7 屋上スラブの補強筋

- (a) 屋上スラブの出隅及び入隅部分には、補強筋を配置する。
- (b) 下図鉄筋による方法(1)による場合、補強筋は上端筋の下側に配置する。
- (c) 鉄筋による方法(1)によると、スラブ筋が密となり施工が難しいと判断された場合は、下図の鉄筋による方法(2)とする。



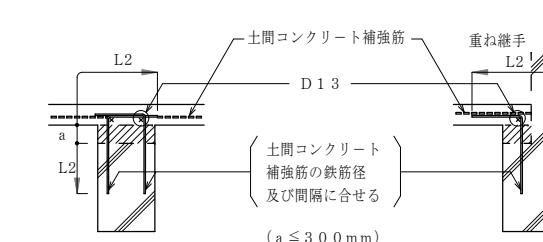
### 9-8 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、下記による。ただし、土間スラブとは、土（捨てコンクリート等の場合を含む）に接する構造スラブをいう。

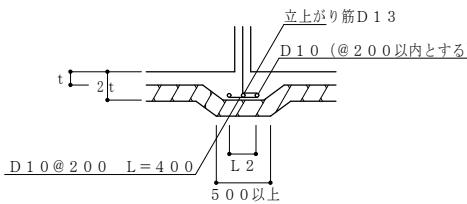


### 9-9 土間コンクリートの補強筋

- (a) 土間コンクリートの補強筋（土間配筋）は設計図による。
- (b) 基礎梁との接合部は下図による。



(c) 雜壁下に基礎梁（基礎小梁を含む）がない場合、特記なき限りは下図による。



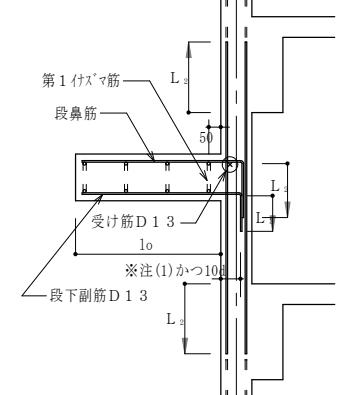
<階段配筋リスト（二辺固定床版形）>

符 号	スラブ厚(t)	手摺自重無視		スパンl <sub>0</sub> (mm)
		主筋	配筋（踊場）	
SSB1	180	D16-125@	D13-200@	4000 < l <sub>0</sub> ≤ 5000
SSB2	200	D16-100@	D13-200@	5000 < l <sub>0</sub> ≤ 6000

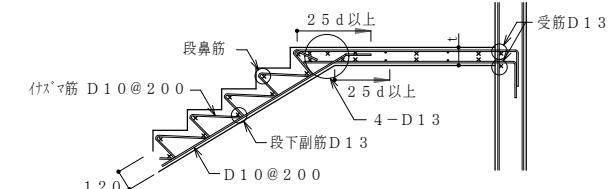
### 10-1 階段の配筋

階段の配筋は設計図による。設計図に指示がなければ下図に示す基準配筋及び下表による。

#### 10-1-1 片持ちスラブ形 (SS-A)



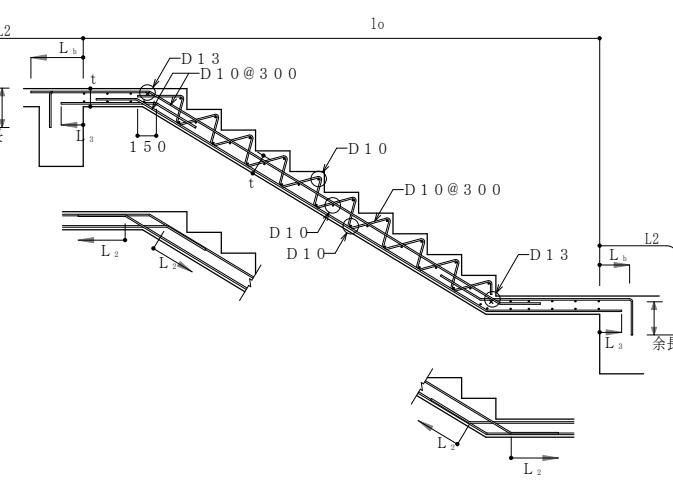
- ※注(1) 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降ろす。
- (2) 踊場主筋、配筋の縦手及び定着の長さは、9-2による。
- (3) 段鼻筋は設計図による。ただし、設計図に指示がなければ、下表による。



<階段配筋リスト（片持ちスラブ形）>

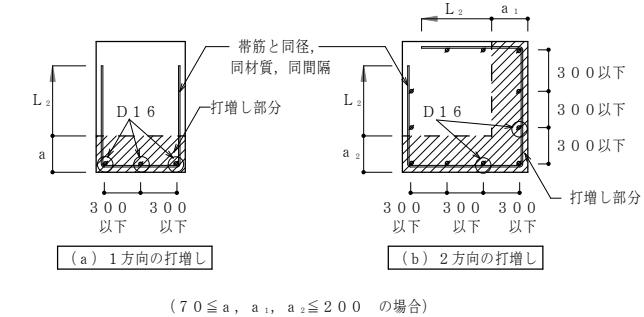
符 号	段鼻筋	踊場		スパンl <sub>0</sub> (mm)
		スラブ厚(t)	主筋・配筋（上、下端筋）	
SSA1	2-D13	150	D10 D13 交互@200	l <sub>0</sub> ≤ 1500
SSA2	2-D16	150	D13@200	1500 < l <sub>0</sub> ≤ 2000

#### 10-1-2 二辺固定スラブ形 (SS-B)



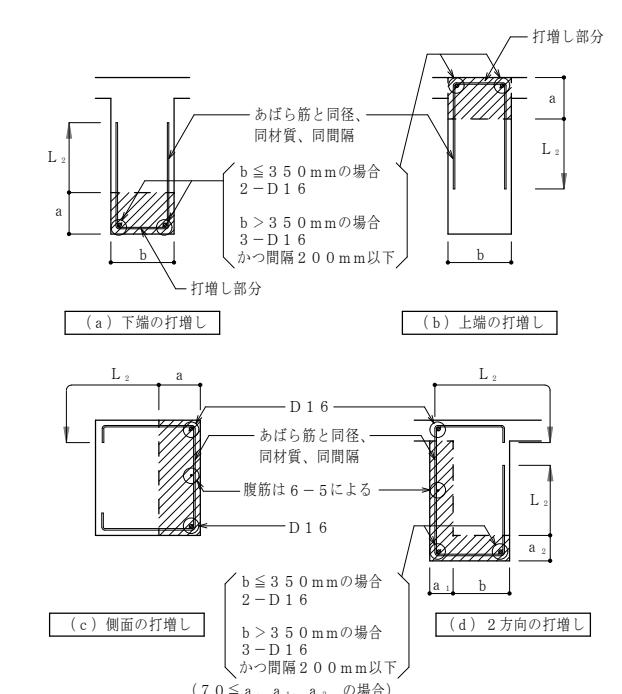
### 11-1 柱の打増し補強

柱の打増し補強は、下図により、打増し幅が70mm以上の場合に適用する。なお、梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



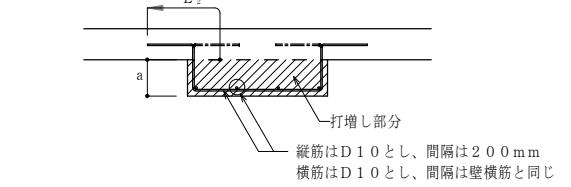
### 11-2 梁の打増し補強

梁の打増し補強は、下図により、打増し幅が70mm以上の場合に適用する。なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



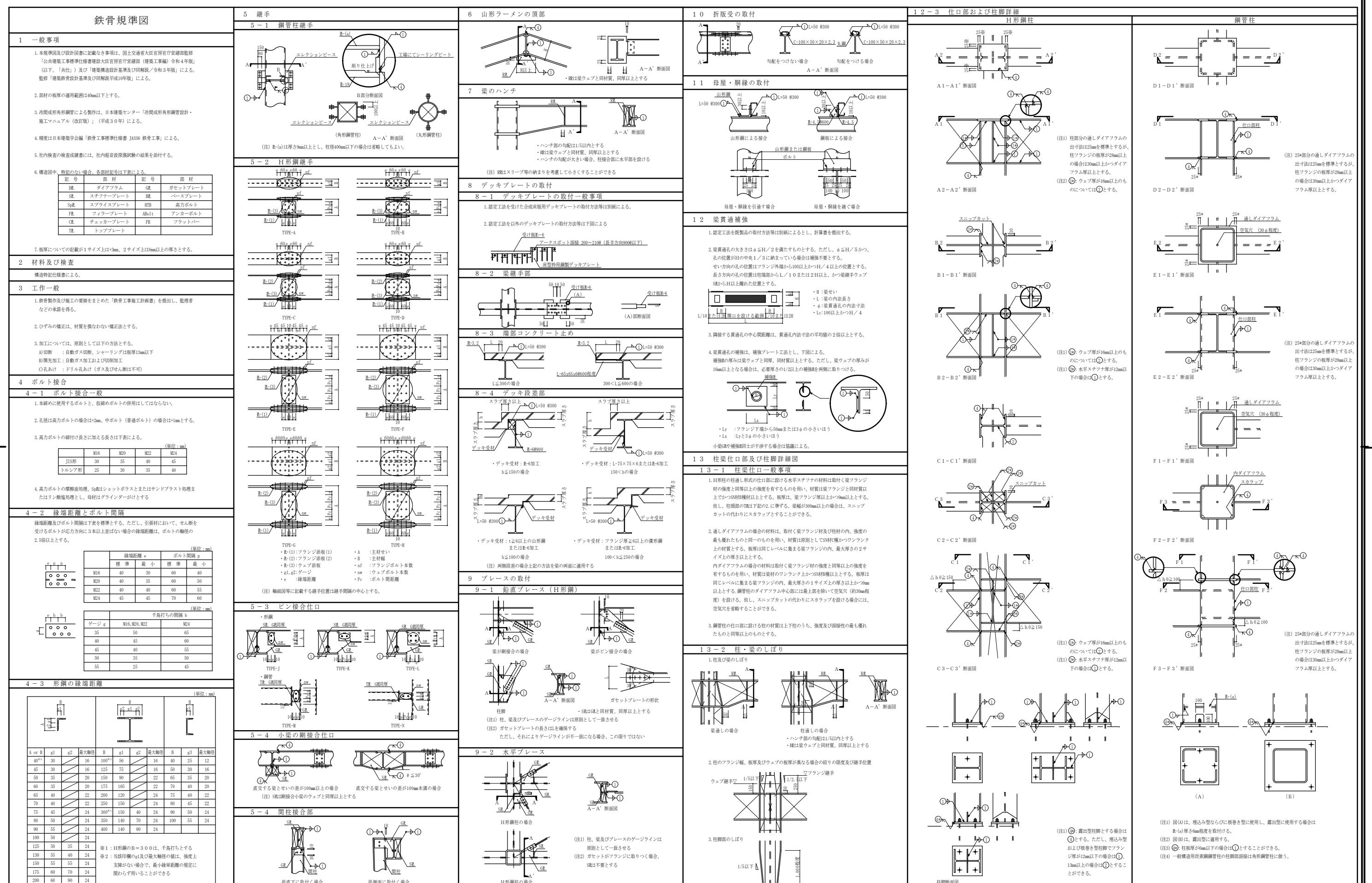
### 11-3 壁の打増し補強

壁の打増し補強配筋は下図により、打増し厚さaが50mm以上に適用する。











# QL デッキ合成スラブ設計・施工標準

## 耐火補強筋不要仕様

[耐火認定FP060FL-0099, 0100, 0101, 0102, 0126, FP120FL-0127用]

QL デッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS6 鉄筋コンクリート工事及び JASS6 鉄骨工事」、(社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工規格 2018」、QL デッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

### 設 計

材料／デッキプレート		[ISO 9001認証取得]	
デッキプレート種類	板厚(mm)	表面処理	
QL 99-50	1.0	口縫めっき QL 99-50-1 QL 99-50-12 QL 99-50-16	[口Z12 口Z27] [口Y18 口Y27] [その他( )]
QL 99-75	1.2	口縫めっき QL 99-75-1 QL 99-75-12 QL 99-75-16	[口Z12 口Z27] [口Y18 口Y27] [その他( )]
材質	JIS G 3352に定めるSDP1T, SDP2, SDP2G		

材料／コンクリート		[ISO 9001認証取得]	
種類	通コンクリート	材質基準強度	(N/mm <sup>2</sup> )
設計基準強度	□ 18 □ 21 □ 24 □ ( ) N/mm <sup>2</sup>	□ 60 □ 70 □ 80 □ 85 □ 90 □ 95 □ 100 □ ( ) mm	

材料／溶接金網・異形鉄筋		[ISO 9001認証取得]	
溶接金網	JIS G 3551	□ 6-7.5×7.5	□ 6-150×150
		□ 6-100×100	□ ( )

異形鉄筋		[ISO 9001認証取得]	
溶接金網	JIS G 3112, 3117	□ D10-150×150	□ D10-200×200
		□ ( )	□ ( )

\*3 線形6mm以上を用いたもの

接合		[ISO 9001認証取得]	
梁との接合	口縫付きスタッド QL 99-50 口縫抜き栓接合 口打込み板 口その他	JIS B 198 □ φ13 □ φ16 □ φ19 □ φ22 (各長さ、ピッチは特記による)	□ φ13 □ φ16 □ φ19 □ φ22 (各長さ、ピッチは特記による)

\*4 最小長さはデッキ高さ+30mm以上とする

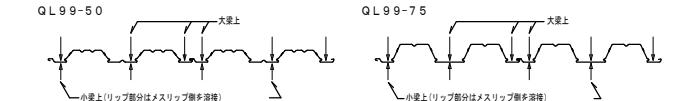
耐 火		[ISO 9001認証取得]	
デッキプレート	耐火区分	支持条件	コンクリート種別
QL99-50	床1時間	単純/連続	普通
			耐火補強筋
QL99-75	床2時間		
その他	□ 指定なし	□ ( )	□ ( )

注) 床2時間は床1時間耐火を含む

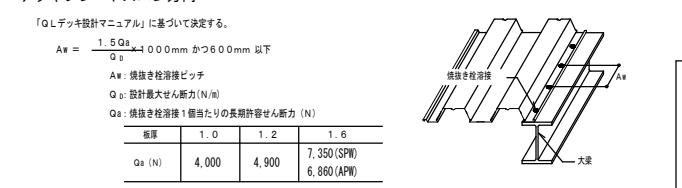
特 記	支 保 有 無	そ の 他 :
	□ 有	

上欄内の採用項目に □ を印して下さい。

焼抜き栓溶接



デッキプレート幅方向



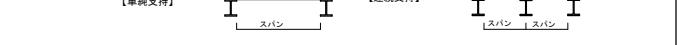
(注) 接合に縫付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要です。

施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)		単位(m)	
コンクリート厚(mm)		80	90
基準厚	1.0	1.6	1.6
支承条件	単純 (内接)	1.0	1.6
2階	2.42 (2.42)	2.64 (2.64)	2.26 (2.39)
3階	3.24 (3.24)	3.54 (3.54)	3.03 (3.20)
4階	3.96 (3.96)	4.34 (4.34)	3.80 (3.80)
支承条件	単純 (内接)	2.82 (2.99)	3.18 (3.26)
2階	3.18 (3.18)	3.48 (3.48)	3.15 (3.15)
3階	3.58 (3.58)	3.89 (3.89)	3.46 (3.46)
4階	4.00 (4.00)	4.34 (4.34)	3.96 (3.96)
支承条件	単純 (内接)	2.42 (2.42)	2.64 (2.64)
2階	2.42 (2.42)	2.64 (2.64)	2.26 (2.39)
3階	3.24 (3.24)	3.54 (3.54)	3.03 (3.20)
4階	3.96 (3.96)	4.34 (4.34)	3.80 (3.80)
支承条件	単純 (内接)	2.82 (2.99)	3.18 (3.26)
2階	3.18 (3.18)	3.48 (3.48)	3.15 (3.15)
3階	3.58 (3.58)	3.89 (3.89)	3.46 (3.46)
4階	4.00 (4.00)	4.34 (4.34)	3.96 (3.96)

注1: 常温コンクリート(単位重量2400kg/m<sup>3</sup>)、表面筋粗度が規範とされる場合

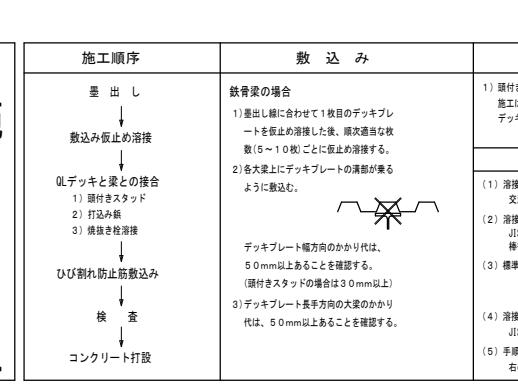
注2: □ 数値は表面筋粗度が規範とされる場合の許容スパンを示す。注3: 上表面を超える場合、別途支工が必要です。

S道・施工時のスパンの取り方



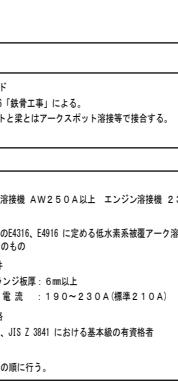
### 施 工

#### I



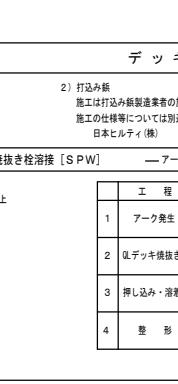
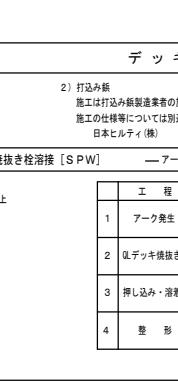
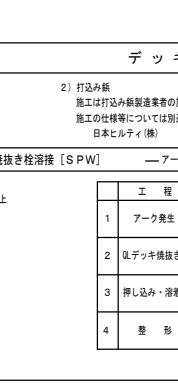
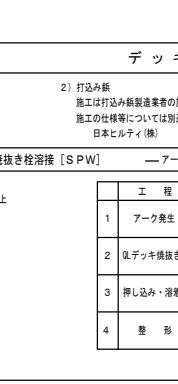
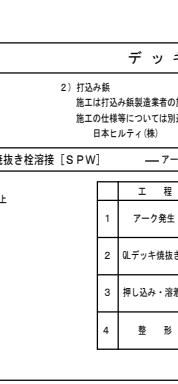
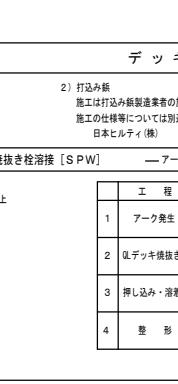
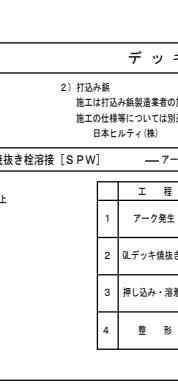
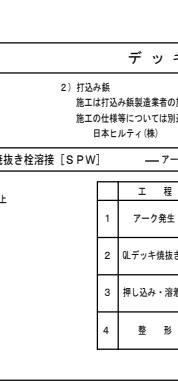
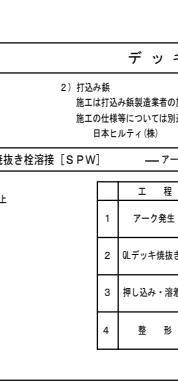
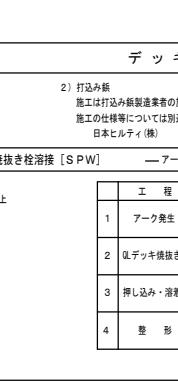
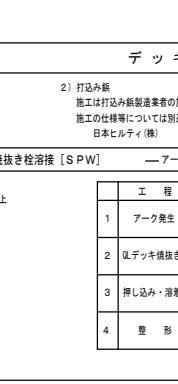
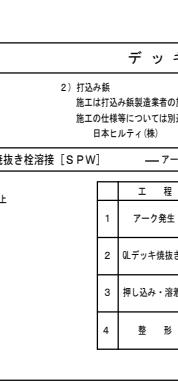
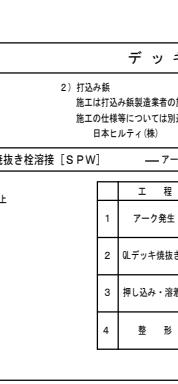
### 支 施

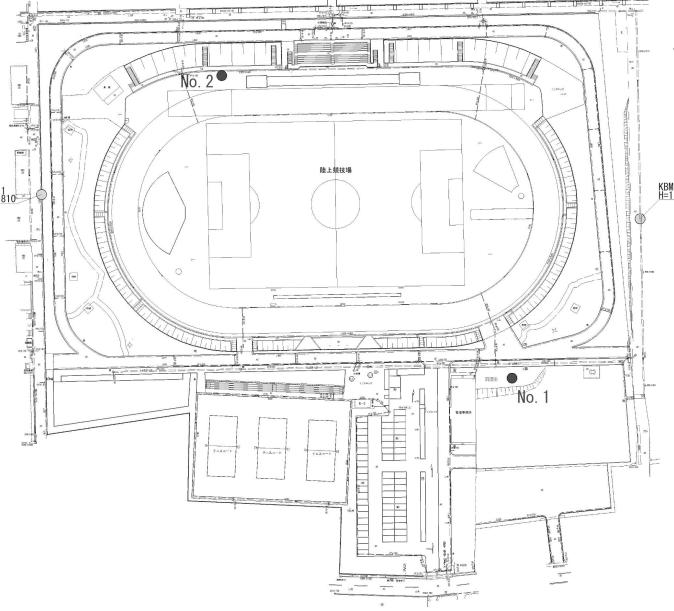
#### I



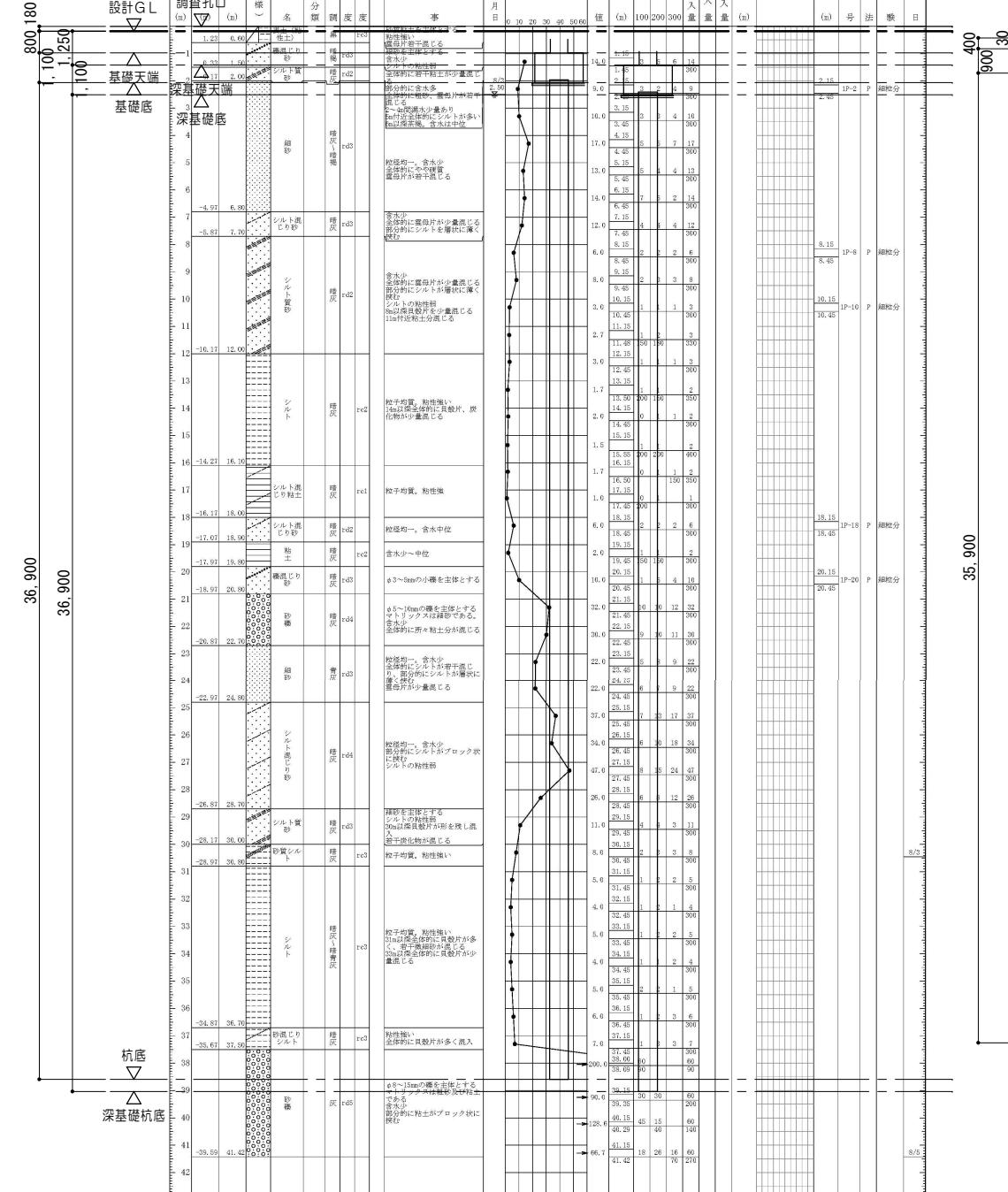
### 支 施

#### I

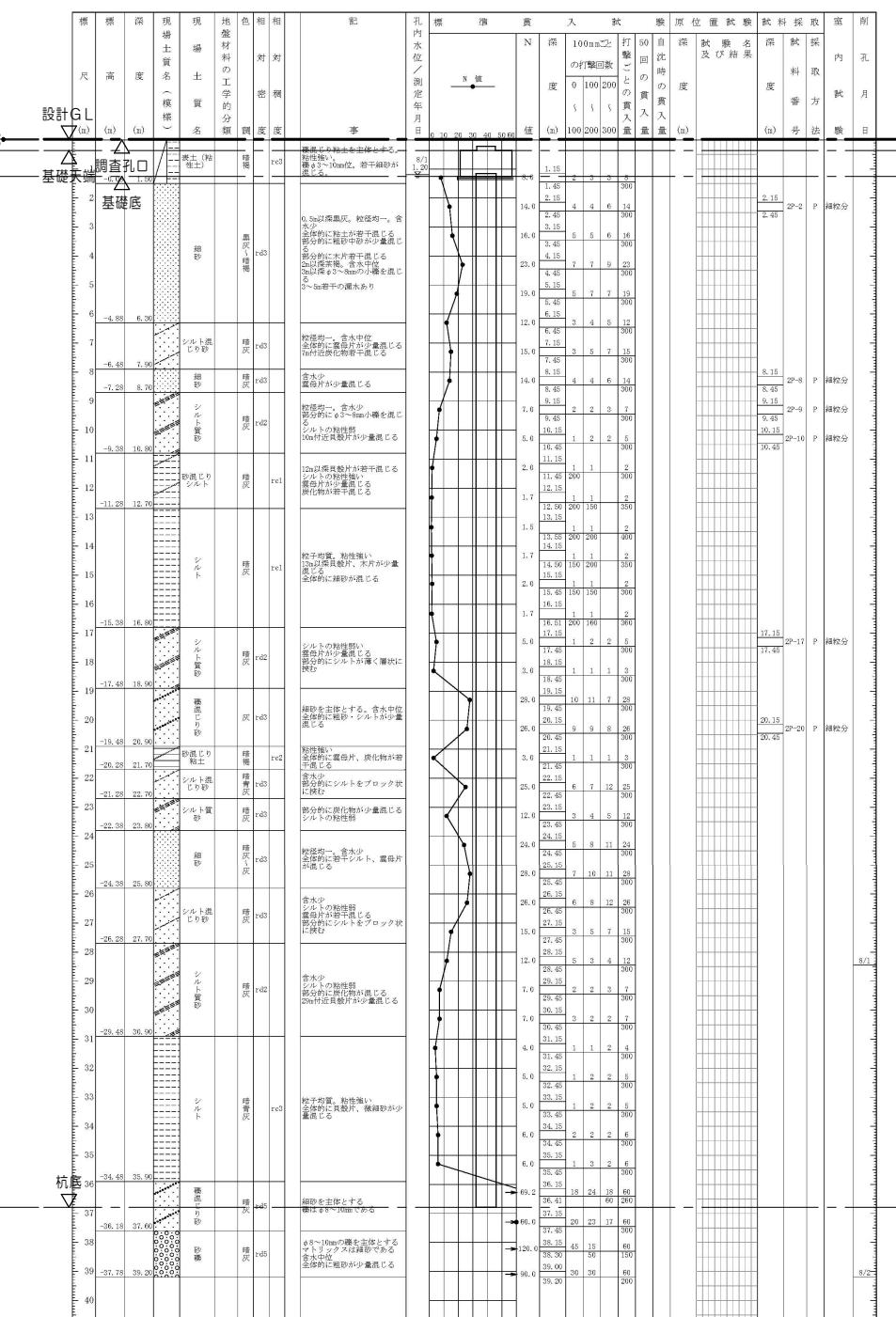




● 調査地点位置  
● 基準点位置



管理棟



柱状図

写真判定棟設計GL=TP1, 4.5m  
調査孔口高さ=TP1, 4.2m  
設計GLからの調査孔口高さ=1. 4.2m-1. 4.5m=-0. 03

土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

調査名 令和6年度営業報第1-26号 深市浜公園内陸上競技場等埋立その他の工事に係る地質調査業務委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象 建築・構造物基礎

ボーリング名	No.2	調査位置	三重県津市末広町 地内	北緯	34° 43' 18.16"
発注機関	三重県津市	調査期間	令和6年08月01日～令和6年08月02日	東経	136° 31' 25.68"
調査業者名		主任技師	コア 鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高 T.P. 1.42m		試験機	YEM05		
総削孔長 39.20m		使用機種	エンジン ヤンマーNDF9	ポンプ	カノ-V6

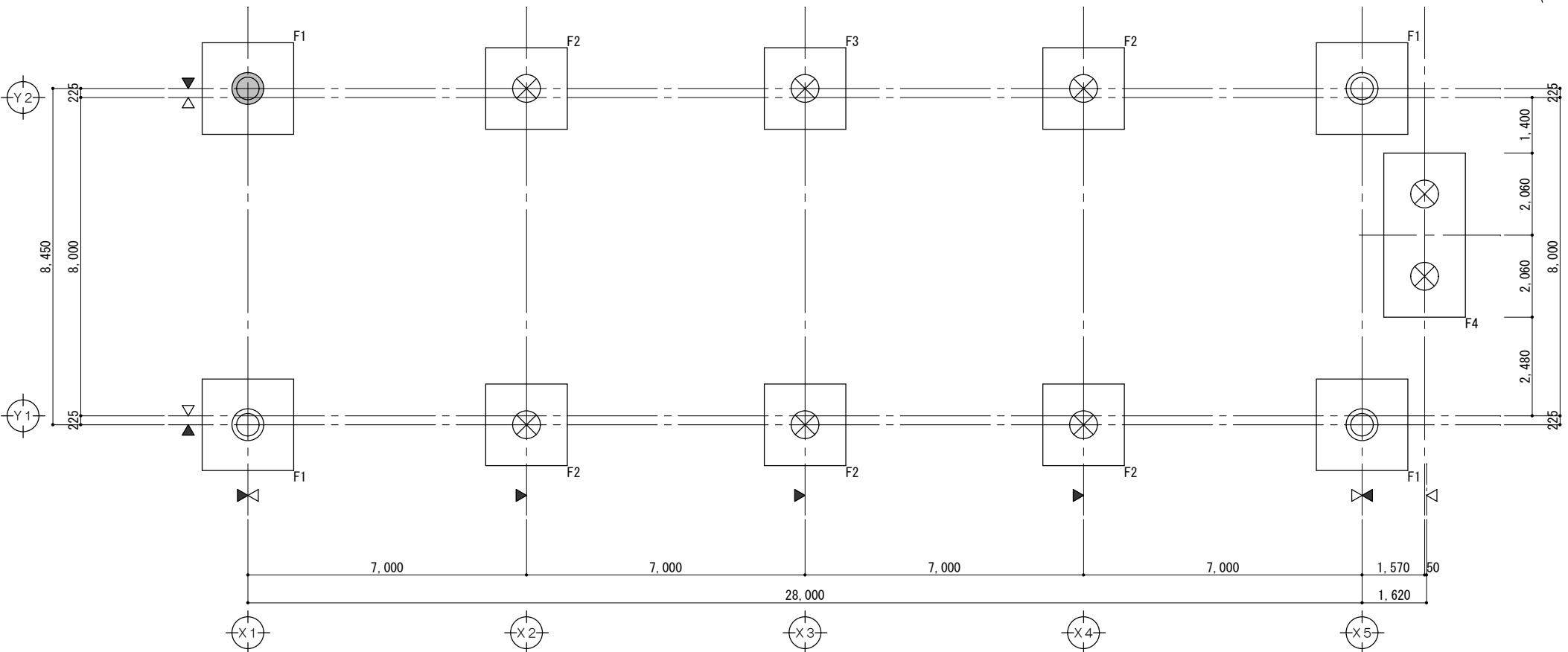
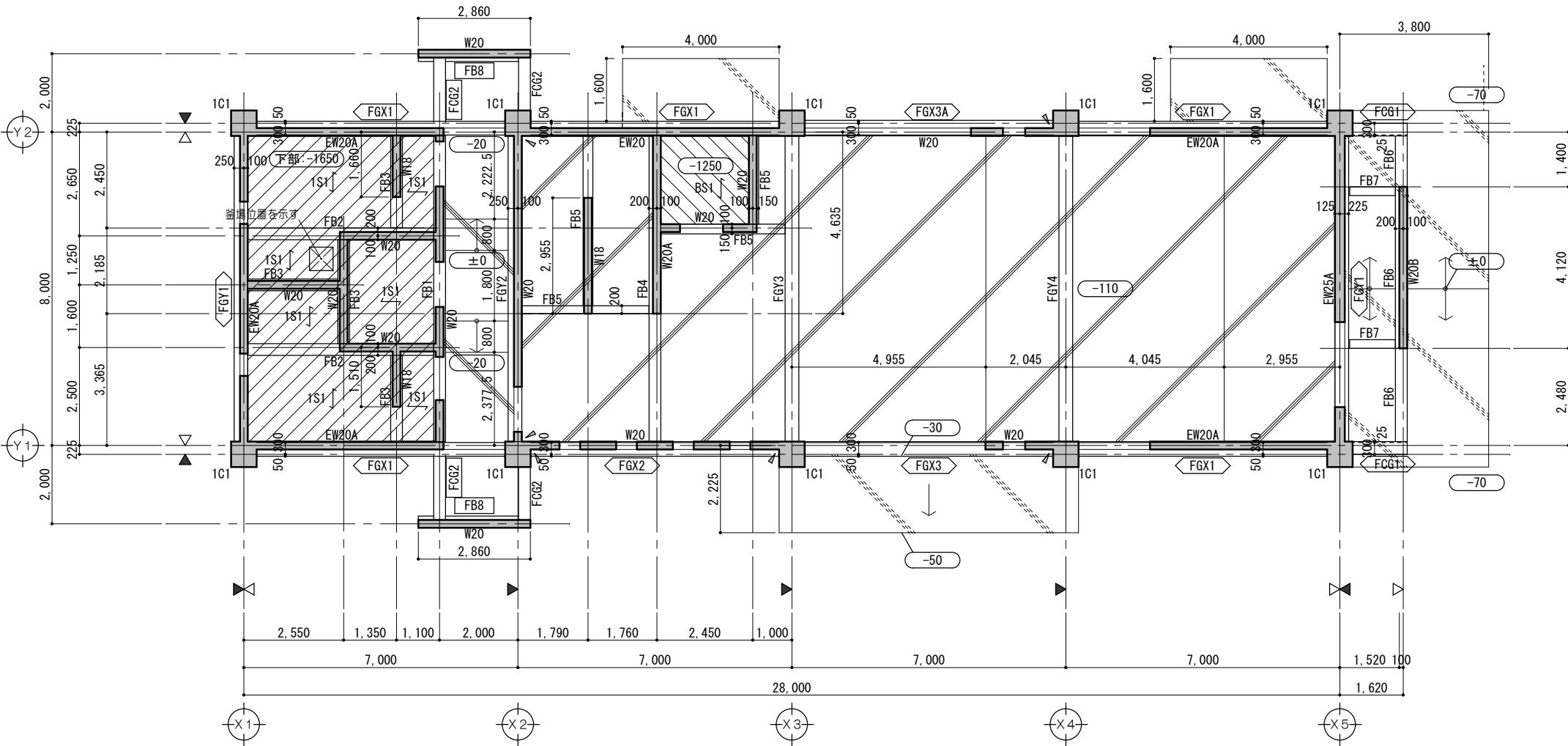
土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

調査名 令和6年度営業報第1-26号 深市浜公園内陸上競技場等埋立その他の工事に係る地質調査業務委託

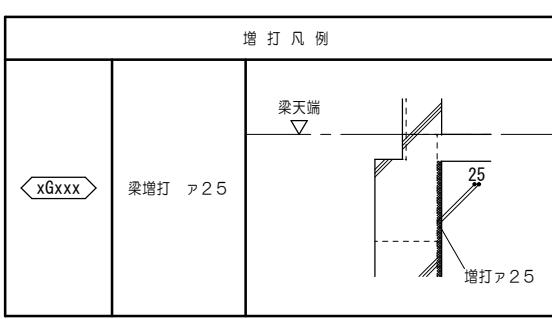
事業名または工事名

調査目的及び調査対象 建築・構造物基礎

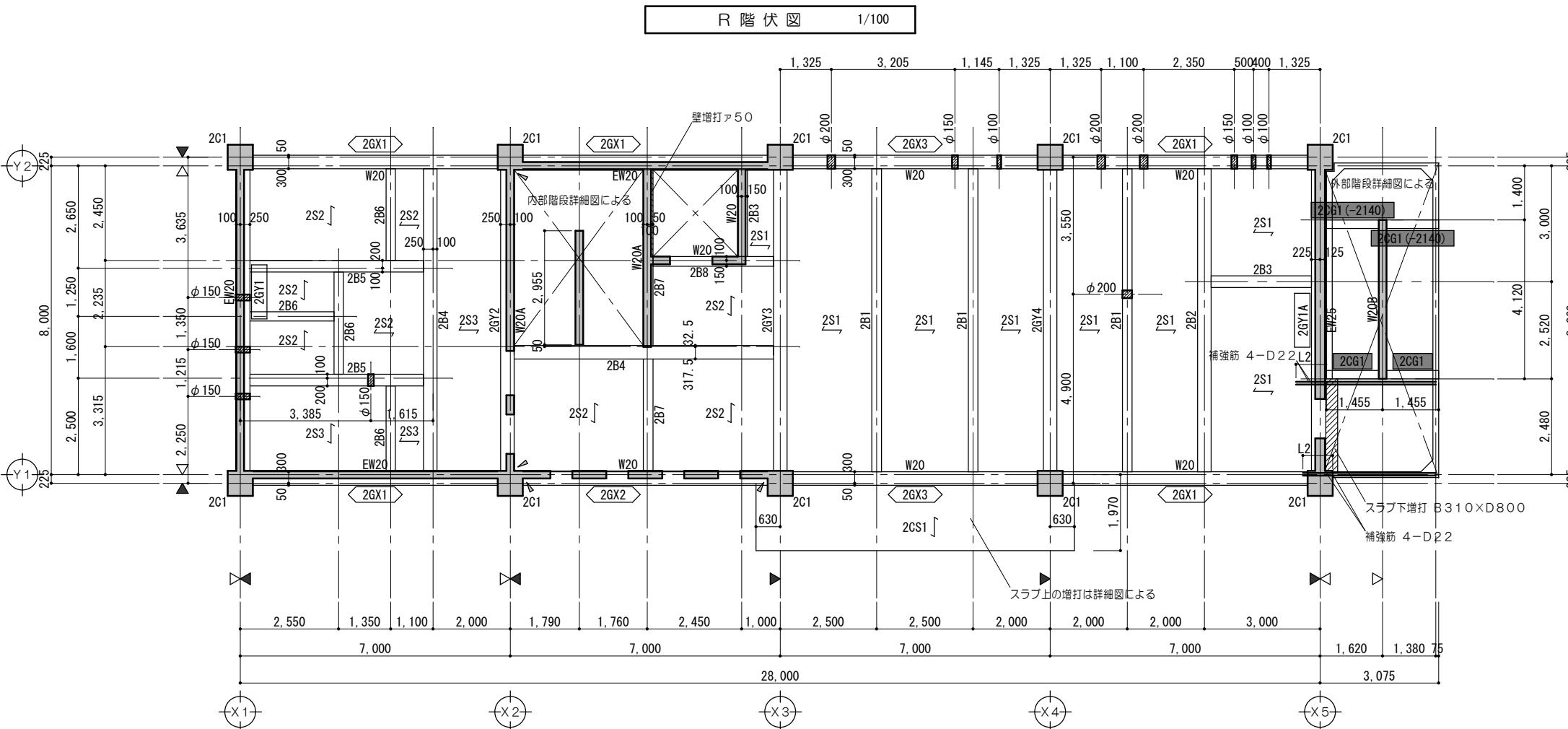
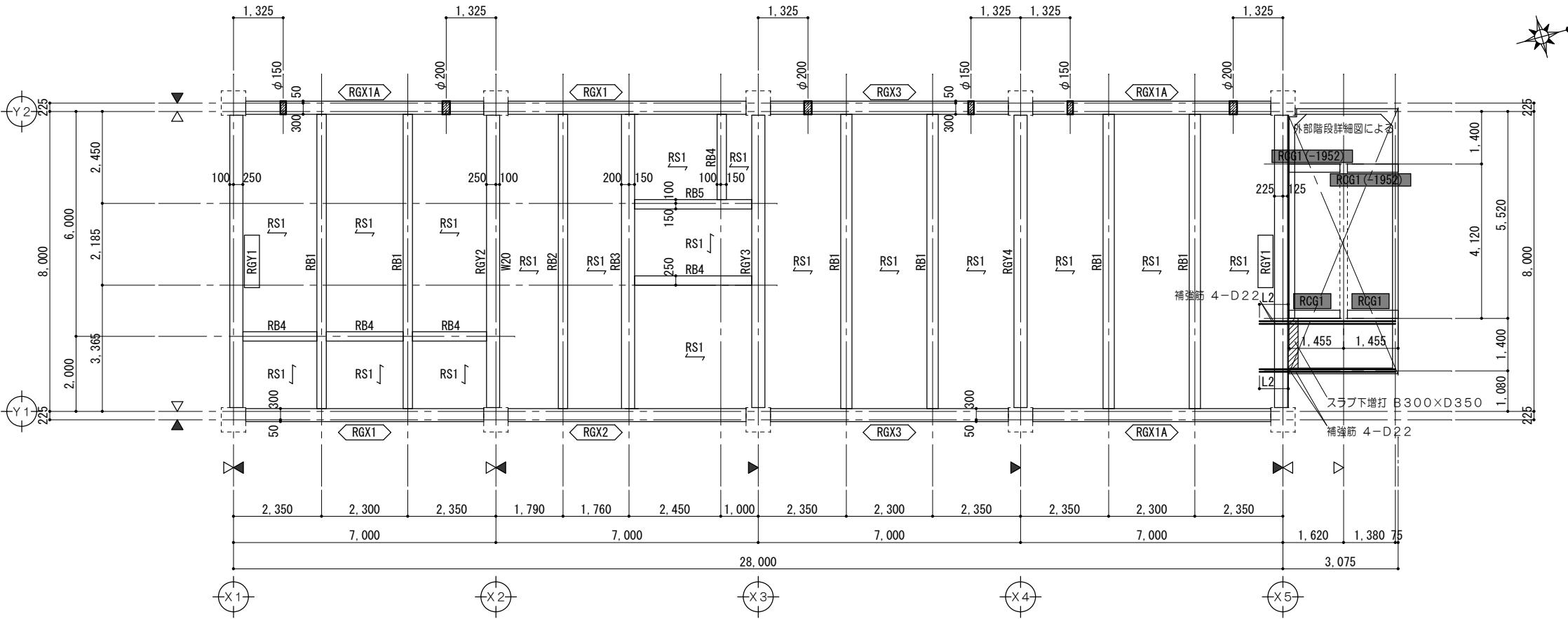
ボーリング名	No.1	調査位置	三重県津市末広町 地内	北緯	34° 43' 20.53"
発注機関	三重県津市	調査期間	令和6年08月03日～令和6年08月05日	東経	136° 31' 34.48"
調査業者名		主任技師	コア 鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高 T.P. 1.83m		試験機	YEM05		
総削孔長 41.42m		使用機種	エンジン ヤンマーNDF9	ポンプ	カノ-V6



凡 例			
▷	柱芯を示す	▷	壁芯を示す
▽	完全スリットW 25	└─┘	主筋方向を示す
(+000)	1 F Lからのレベル差を示す 特記なき限り1 F L - 30		
FGx	隣り合う小梁の主筋を通し配筋とする小梁・片持ち梁		
	上部：スラブ (配筋、厚みは床リストによる) 下部：土間コンクリートA 150 Fc 18 D 10@200 モチアミシングル 砕石A 100 ポリエチレンフィルムA 0.15 上部レベル：F L - 50 下部レベル：F L - 1650		
	スラブ(配筋、厚みは床リストによる) 砕石A 100 ポリエチレンフィルムA 0.15		
	土間コンクリートA 150 Fc 18 D 10@200 モチアミシングル 砕石A 100 ポリエチレンフィルムA 0.15 ボリスチレンフォームA 25		
	土間コンクリートA 150 Fc 18 D 10@200 モチアミシングル 砕石A 100		
	犬走コンクリートA 150 Fc 18 D 10@200 モチアミシングル 差筋 D 10@200 砕石A 100		

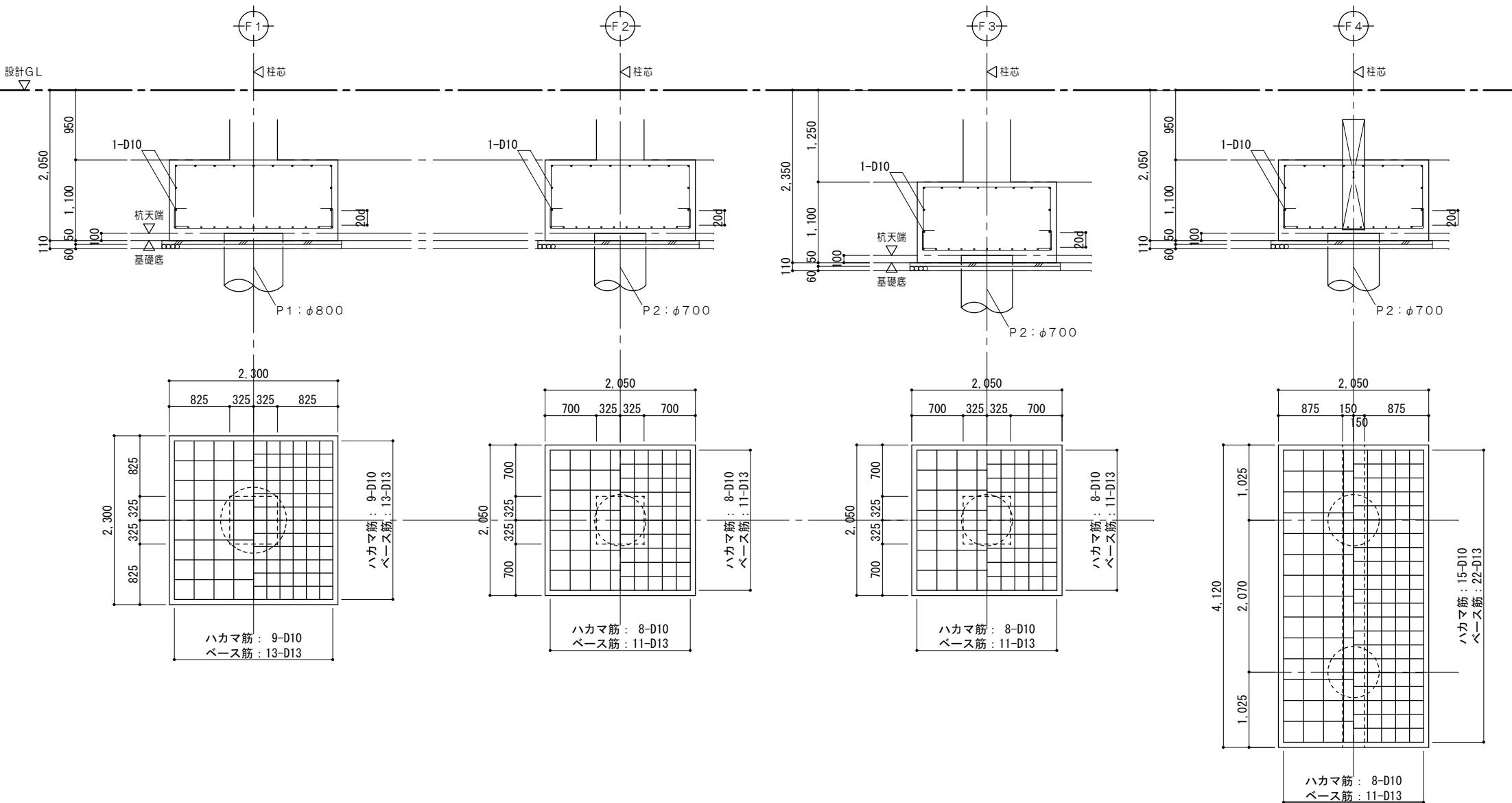


凡 例			
(○)	P 1 : φ 800 L = 37 m 上杭 : CPRC杭 Ⅲ種 9m 中杭1 : PHC杭 A種 9m 中杭2 : PHC杭 A種 9m 下杭 : PHC杭 A種 10m プレボーリング拡大根固め工法 (各係数は特記による) 杭支持力 5000 kN /本 (長期) 10000 kN /本 (短期) 継手 機械式継手 杭頭接合部 スタッド溶接 : 23-D 22 支持層 土質柱状図による 許容施工誤差 ± 150 mm		
(○)	P 2 : φ 700 L = 37 m 上杭 : CPRC杭 Ⅲ種 9m 中杭1 : PHC杭 A種 9m 中杭2 : PHC杭 A種 9m 下杭 : PHC杭 A種 10m プレボーリング拡大根固め工法 (各係数は特記による) 杭支持力 4000 kN /本 (長期) 8000 kN /本 (短期) 継手 機械式継手 杭頭接合部 スタッド溶接 : 13-D 22 支持層 土質柱状図による 許容施工誤差 ± 150 mm		
(●)	試験杭位置を示す		
▷	壁芯を示す		
▶	柱芯を示す		



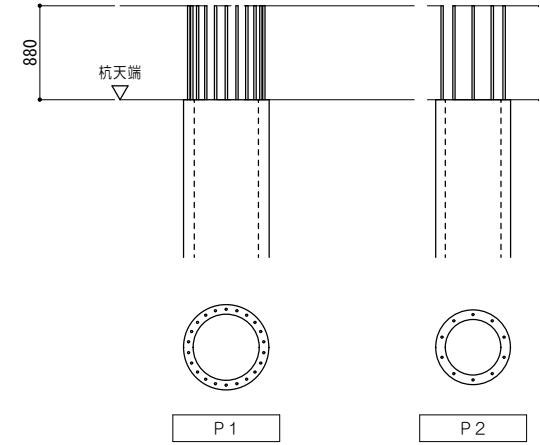
凡例	
▽	柱芯を示す
▽	壁芯を示す
▽	完全スリットW 25
▽	差筋は壁リストによる
±0	一般FLからのレベル差を示す
	特記なき場合FL-30とする
FGx	隣り合う小梁の主筋を通し配筋する小梁・片持ち梁
xGxx (-xxx)	( )内の数値はスラブからの高さを示す
	特記なき場合、スラブ天端=梁天端とする
▽	梁天端
▽	増打ア 20
▽	増打ア 25
▽	増打ア 20
▽	増打ア 25
xGxx	梁増打ア 25 梁増打ア 20を示す
xGxx	梁増打ア 20を示す

基礎 詳細図 1/50



杭頭補強筋 詳細図 1/50

杭符号	杭サイズ 外径	L	主筋材種		
			主筋径	主筋本数	主筋材種
P1	800	40d	D22	23	KSW490
P2	700	40d	D22	13	KSW490



## 基礎梁リスト 1/50

符号	FGX1	FGX2	FGX3	FGX3A	FGY1	FGY2	FGY3	FGY4
B × D	350×1500	350×1500	350×1500	350×1500	350×1500	350×1500	350×1500	350×1500
位置	全断面	両端	中央	X3通端	中央 X4通端	全断面	全断面	全断面
△ 設計GL 400								
断面図								
主筋	上端筋 3-D22	3-D22 2-D22	3-D22 2-D22	3-D22 3-D22	3-D22 3-D22	3-D19 4-D25 4-D25	4-D25 3-D25	4-D25 2-D25
	下端筋 3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19 4-D25 4-D25	2-D25 4-D25	2-D25 4-D25
S T P	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹筋	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10
巾止メ筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000
カットオフ筋	上端筋 2750	2750	2750	2750	2750	3400	3100	2750
	下端筋 2750	2750	2750	2750	2750	2750	2750	2750

## 基礎小梁リスト 1/50

符号	FB1	FB2	FB3	FB4	FB5
B × D	300×1300	300×500	300×500	300×1300	250×1000
位置	両端	中央	両端	中央	全断面
△ 設計GL 40					
断面図					
主筋	上端筋 3-D25	3-D25	3-D22	3-D22	2-D19 3-D22
	下端筋 3-D25	3-D25 2-D25	3-D22	2-D22 3-D22	2-D19 3-D22
S T P	□-D10@200	□-D13@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹筋	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	4-D10
巾止メ筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000

## 階段・突出部基礎小梁リスト 1/50

符号	FB6	FB7	FB8	FCG1	FCG2
B × D	300×1500	220×1500	300×1300	300×1500	300×1300
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
△ 設計GL 40					
断面図					
主筋	上端筋 3-D22 2-D22	2-D19	2-D19	2-D19	2-D22
	下端筋 2-D22 3-D22	2-D19	2-D19	2-D19	2-D22
S T P	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹筋	8-D10	8-D10	6-D10	8-D10	6-D10
巾止メ筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000

特記事項



一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号  
株式会社 前野建築設計  
管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者  
一級建築士  
第320204号  
前野 将輝

設計担当  
一級建築士  
第307846号  
三橋 五百子

設計担当  
一級建築士  
第360917号  
前田 祐作

設計担当  
一級建築士  
第360917号  
前田 祐作

設計担当  
一級建築士  
第360917号  
前田 祐作

法適合認証  
計  
検査  
三橋 五百子

工事名称  
海浜公園内陸上競技場改修工事  
図面名称  
【①管理棟】基礎梁リスト、基礎小梁リスト

設計日  
縮尺  
A2:1/50  
図面番号  
S017  
(原図:A2)

柱リスト 1/50

符 号	1C1	符 号	2C1
B × D	650×650	B × D	650×650
位 置	全断面	位 置	全断面
断面図		断面図	
主 筋	12-D22	主 筋	12-D22
H O O P	□-D13@100	H O O P	□-D13@100

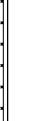
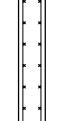
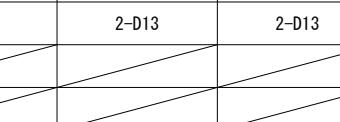
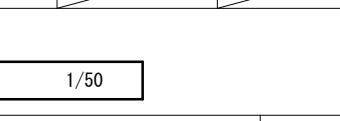
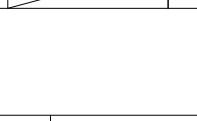
大梁リスト 1/50

符 号	RGX1	RGX1A	RGX2	RGX3	RGY1	RGY2	RGY3	RGY4								
B × D	350×900	350×900	350×900	350×900	350×900	350×900	350×900	350×900								
位 置	全断面	X2通端 X4通端	中央	X1通端 X5通端	X2通端	中央 X3通端	X3通端 中央	X4通端	全断面	両端	中央	Y1通端	中央	Y2通端	両端	中央
断面図																
主 筋	上 端 筋	3-D25	4-D25 2-D25	4-D25	4-D25	4-D25 2-D25	4-D25	4-D25 2-D25	3-D19	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
	下 端 筋	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	2-D25 4-D25	4-D25	3-D25	3-D19	4-D22	2-D22 4-D22	3-D22	2-D22 3-D22	3-D22	3-D22	4-D22
S T P		□-D10@200		□-D13@200		□-D13@200		□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200
腹 筋		4-D10		4-D10		4-D10		4-D10		4-D10		4-D10		4-D10		4-D10
巾止メ筋		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000
カットオフ筋	上 端 筋														2400	
	下 端 筋															
符 号	2GX1	2GX2	2GX3	2GY1	2GY1A	2GY2	2GY3	2GY4								
B × D	350×900	350×900	350×900	350×900	350×780	350×900	350×900	350×900								
位 置	全断面	両端	中央	X3通端 中央	X4通端	全断面	全断面	全断面	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断面	
断面図																
主 筋	上 端 筋	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22 2-D22	3-D19	3-D19	3-D19	3-D25	3-D25	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22
	下 端 筋	3-D22	3-D22	2-D22 3-D22	3-D22	2-D22 3-D22	3-D22	3-D19	3-D19	4-D25	2-D25 4-D25	3-D22	2-D22 3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
S T P		□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200		□-D13@200		□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200
腹 筋		4-D10		4-D10		4-D10		4-D10		2-D10		4-D10		4-D10		4-D10
巾止メ筋		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000		D10@1000
カットオフ筋	上 端 筋														2400	
	下 端 筋															



壁リスト 1/50

※註記：垂壁・腰壁・袖壁厚さが、垂壁・腰壁・袖壁長さの1/10を超える場合には、スリット部差筋（振止め筋）を設ける

符 号	EW25	EW25A	EW20	EW20A	W20	W20A	W20B	W18		
壁 厚	コンクリート壁 ア250	コンクリート壁 ア250	コンクリート壁 ア200	コンクリート壁 ア200	コンクリート壁 ア200	コンクリート壁 ア200	コンクリート壁 ア200	コンクリート壁 ア180		
断面図										
タテ筋	D13@200 W	D13@200 W	D10@200 W	D13@200 W	D10@200 W	D10D13交互@200 W	D13@200 W	D10@200 W		
ヨコ筋	D13@200 W	D13@200 W	D10@200 W	D13@200 W	D10@200 W	D10@200 W	D10@200 W	D10@200 W		
巾止メ筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000		
開口補強	タテ筋	2-D13	4-D16	2-D13	2-D16	2-D13	2-D13	2-D13		
	ヨコ筋	2-D13	4-D16	2-D13	2-D16	2-D13	2-D13	2-D13		
	斜め筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13		
スリット部 差筋	タテ筋					D10@200 S	D13@200 S			D10@200 S
	ヨコ筋					D13@200 S	D13@200 S			D10@200 S

床リスト

符 号	板 厚	位 置	主筋(短辺方向)		配力筋(長辺方向)		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
R S 1	150	上 端 筋	D10@200	＼———	D10@200	＼———	四辺固定版 (R階床)
		下 端 筋	D10@200	＼———	D10@200	＼———	
2S1 2S2 2S3	150	上 端 筋	D10@200	＼———	D10@200	＼———	四辺固定版 (2階内部床)
		下 端 筋	D10@200	＼———	D10@200	＼———	
2CS1	200	上 端 筋	D13@150	＼———	D10@200	＼———	片持ち床 (2階庇)
		下 端 筋	D10@150	＼———	D10@200	＼———	
1S1	150	上 端 筋	D10@200	＼———	D10@200	＼———	四辺固定版 (1階便所ピット)
		下 端 筋	D10@200	＼———	D10@200	＼———	
BS1	250	上 端 筋	D10@200	＼———	D10@200	＼———	四辺固定版 (E Vピット)
		下 端 筋	D10@200	＼———	D10@200	＼———	

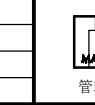
小 梁 リ ス ト 1/50

符 号	R B 1		R B 2		R B 3			R B 4		R B 5		R B 6		
B × D	300×800		300×800		350×800			250×500		250×500		220×800		
位 置	両 端	中 央	両 端	中 央	Y 1通端	中 央	Y 2通端	全 断 面		全 断 面		全 断 面		
断面図														
主 筋	上 端 筋	3-D22	3-D22	3-D19	3-D19	3-D25	3-D25	3-D25 2-D25	2-D19		2-D22		2-D22	
	下 端 筋	3-D22	2-D22 3-D22	3-D19	2-D19 3-D19	3-D25	2-D25 4-D25	3-D25	2-D19		2-D22		2-D22	
S T P	□-D10@200		□-D10@200		□-D13@150			□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200		
腹 筋	2-D10		2-D10		2-D10									
巾 止 × 筋	D10@1000		D10@1000		D10@900									
符 号	2 B 1		2 B 2		2 B 3			2 B 4		2 B 5		2 B 6		
B × D	300×800		350×800		250×500			350×900		300×600		300×500		
位 置	両 端	中 央	両 端	中 央	全 断 面			両 端	中 央	両 端	中 央	全 断 面		
断面図														
主 筋	上 端 筋	3-D19	3-D19	3-D25	3-D25	2-D19		3-D25	3-D25	3-D22	3-D22	2-D19		
	下 端 筋	3-D19	2-D19 3-D19	3-D25	2-D25 3-D25	2-D19		3-D25	2-D25 4-D25	3-D22	2-D22 3-D22	2-D19		
S T P	□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200			□-D13@200		□-D10@200		□-D10@200		
腹 筋	2-D10		2-D10					4-D10		2-D10				
巾 止 × 筋	D10@1000		D10@1000					D10@1000		D10@1000				

階段小梁リスト 1/50

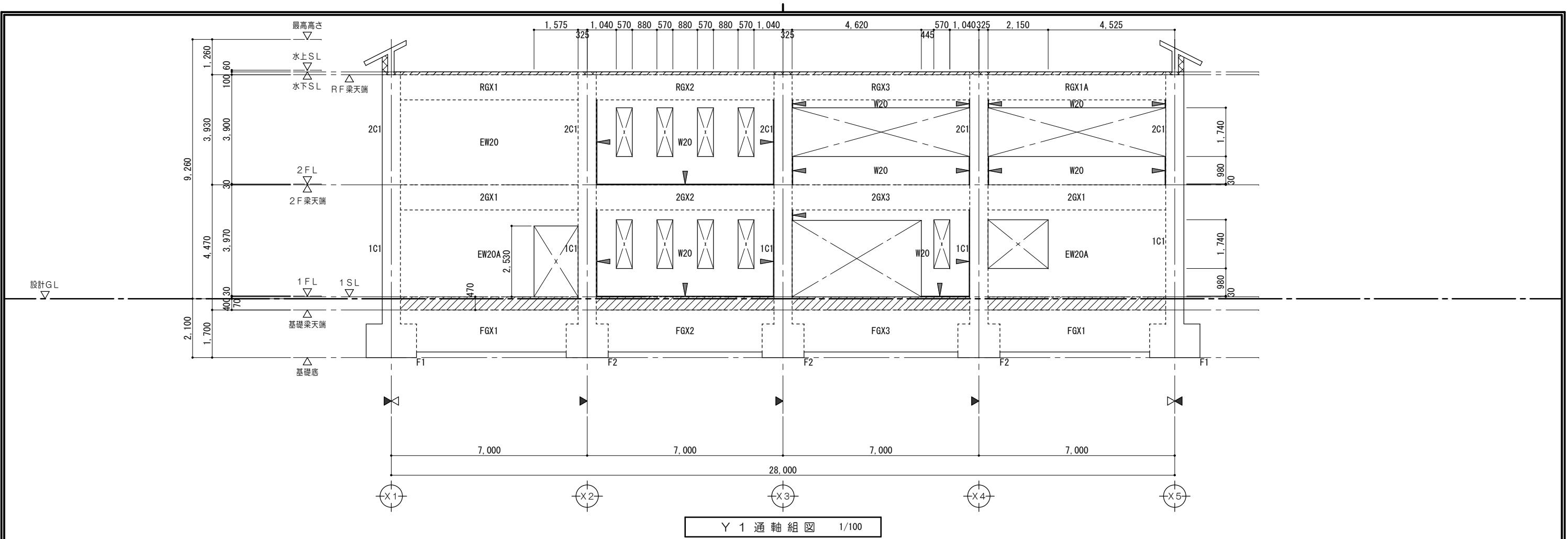
符 号	2CG1	RCG1
B × D	220×800	220×800
位 置	全 断 面	全 断 面
断 面 図		
主 筋	上 端 筋 2-D22	2-D22
	下 端 筋 2-D22	2-D22
S T P	□-D10@200	□-D10@200
腹 筋	2-D10	2-D10
巾 止 × 筋	D10@1000	D10@1000
B 7	2 B 8	
× 700	250 × 500	
断 面	全 断 面	
D22	2-D22	
D22	2-D22	
10@200	□-D10@200	
D10		
@1000		

特 記 事 項	

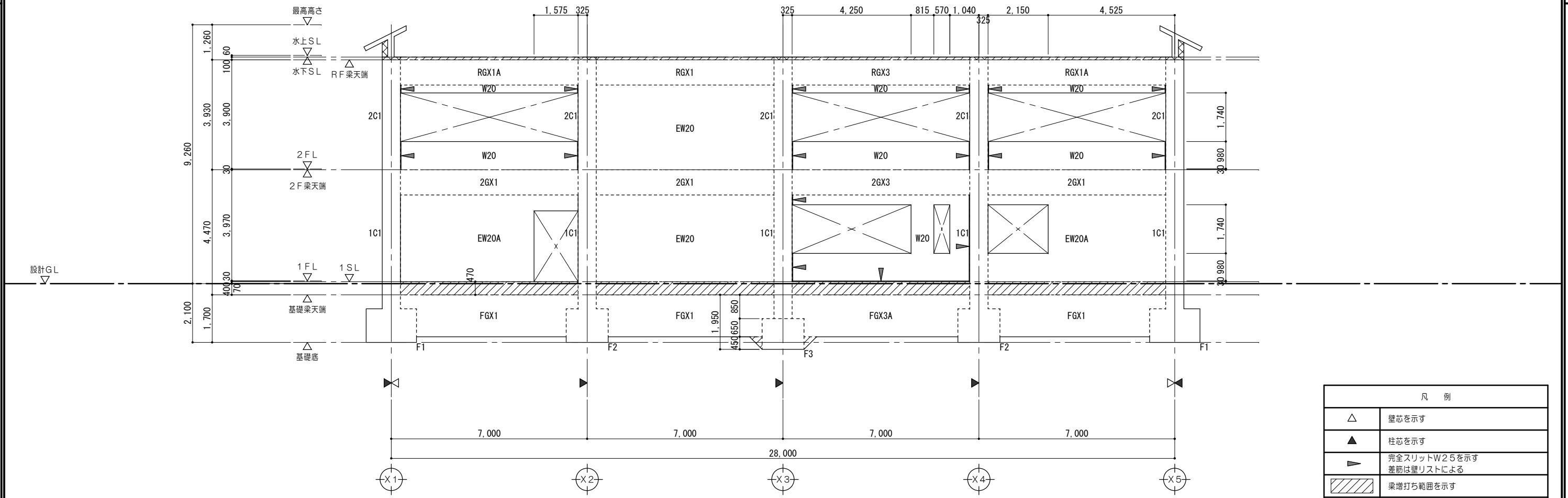


株式会社 前野建築設計 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号  
理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当	設計担当	法適合確認	作図  検図 	工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事	設計日
							縮 尺 A2:1/50 A3:1/71	図面番号 S019 (原図:A2)



Y 1 通 軸 組 図 1/100



Y2通軸組図 1/100

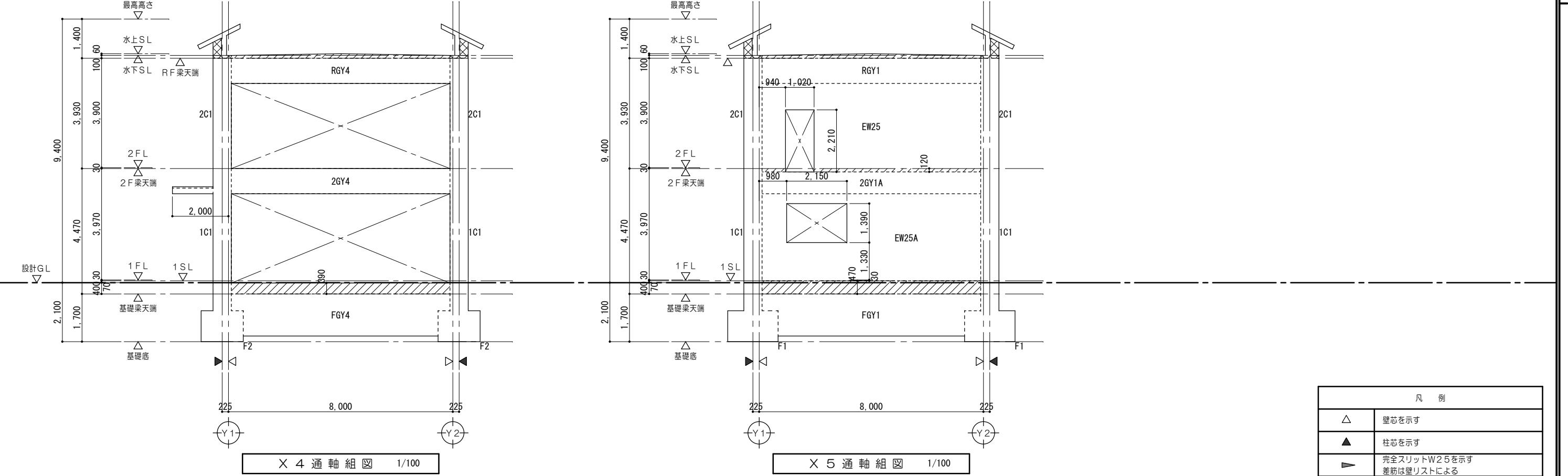
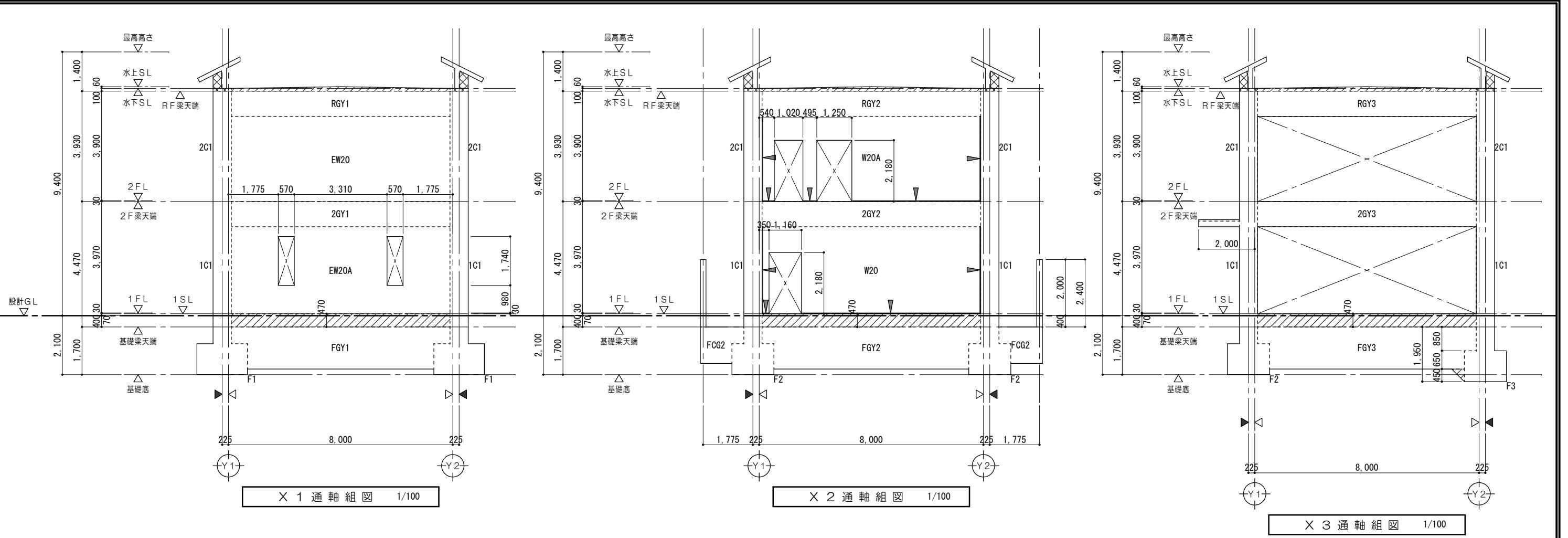
凡 例	
△	壁芯を示す
▲	柱芯を示す
▶	完全スリットW25を示す 差筋は壁リストによる
▨	梁増打ち範囲を示す
▨▨	柱増打ち範囲を示す

特 記 事 項	

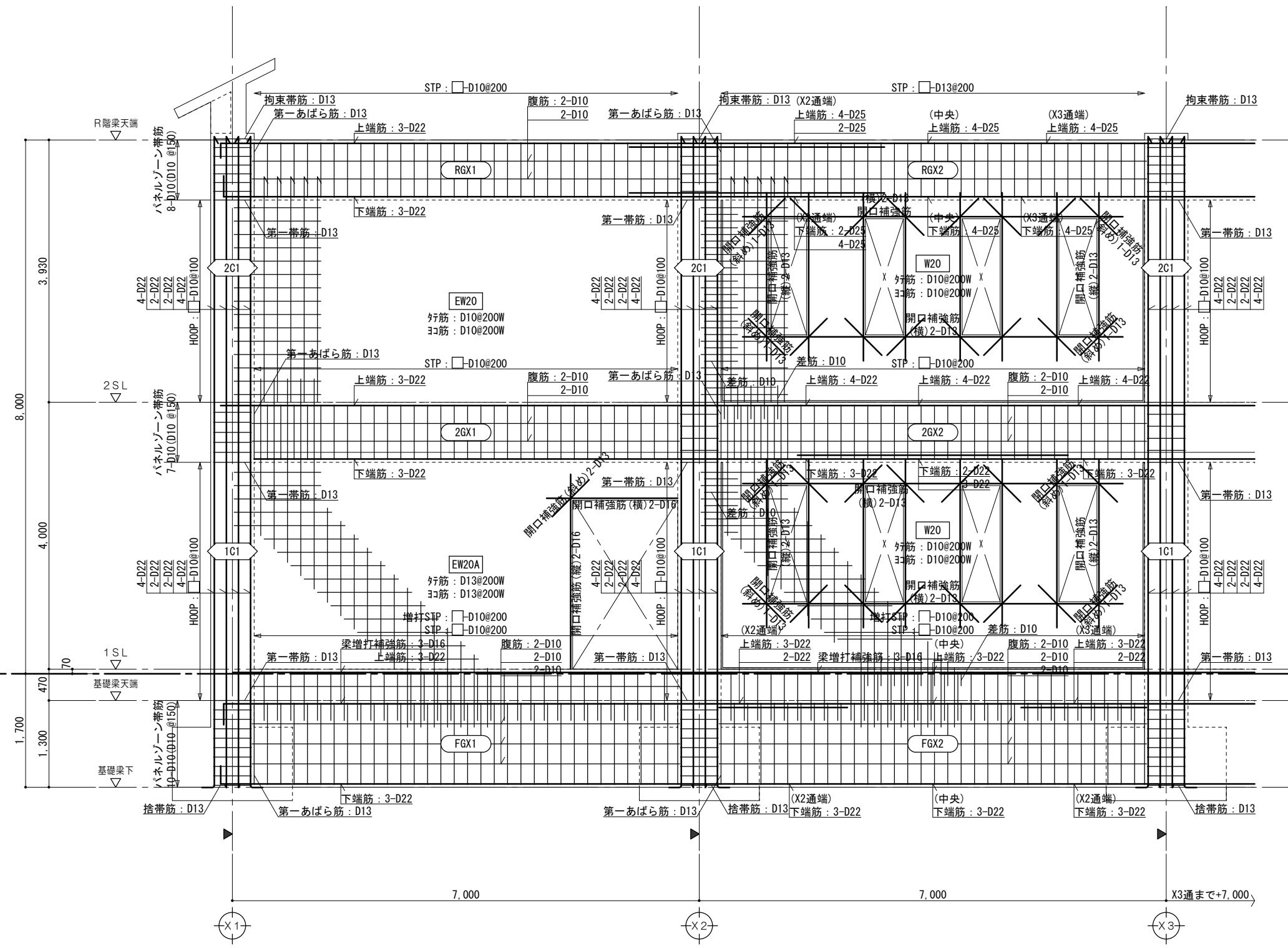


理建築士 一級建築士 第320204号 前野 栄  
 株式会社 前野建築設計

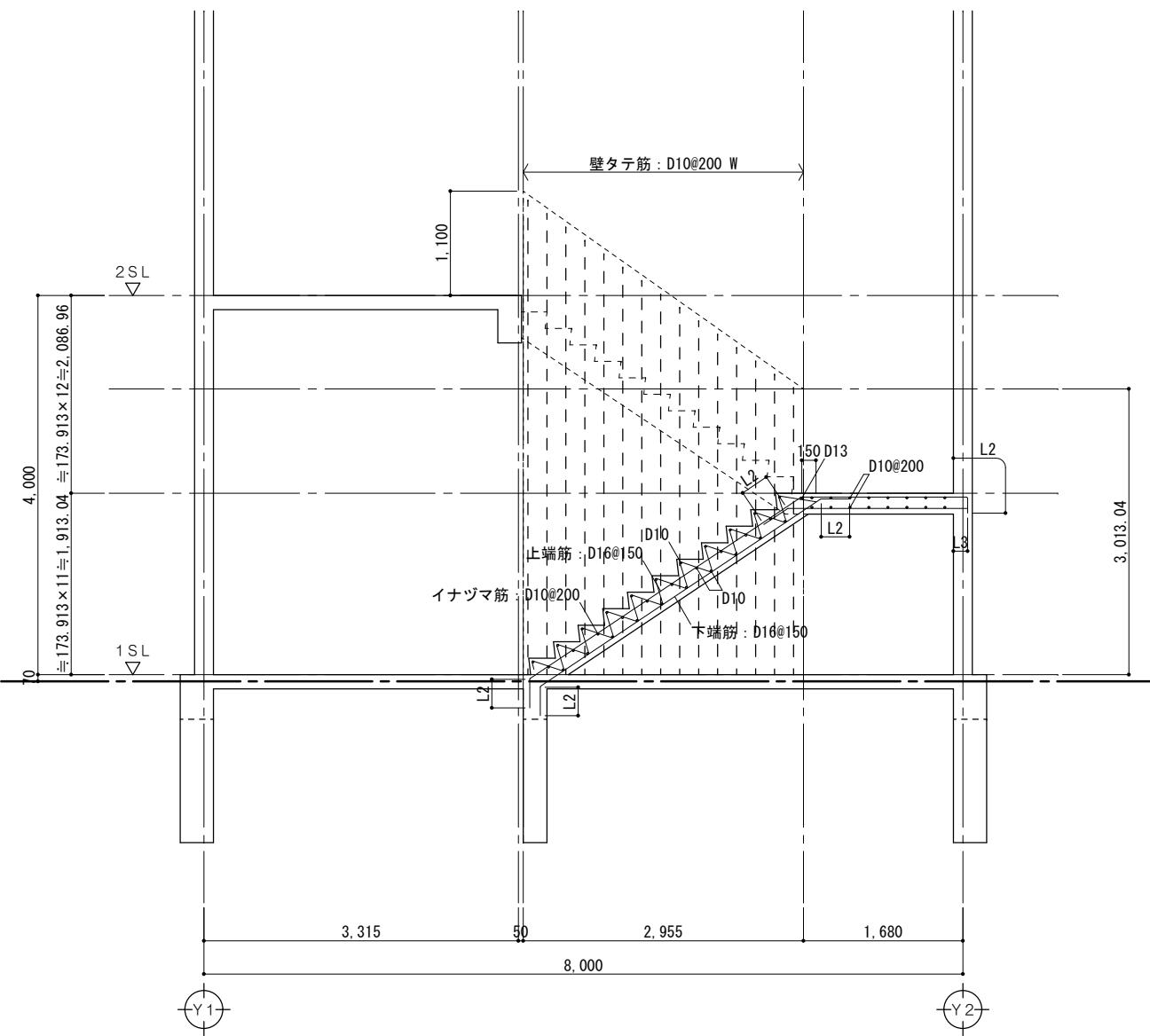
計 将輝	代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当	設計担当	法適合確認	作図 筋圖 軸圖 三點	工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事 図面名称 【①管理棟】軸組図No.1	設計日
								縮尺 A2:1/100 A3:1/141	図面番号 S020 (原図:A2)



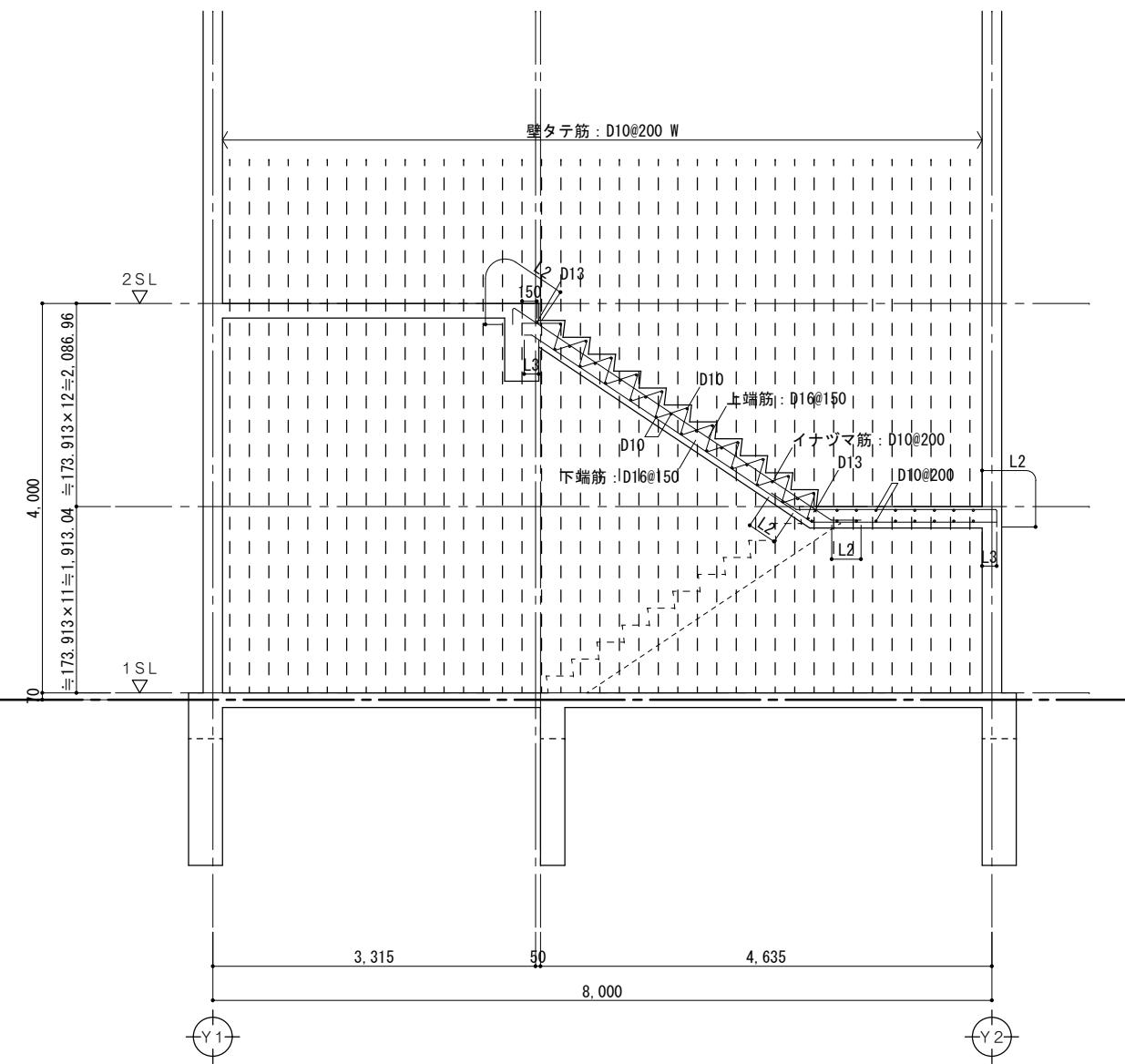
凡 例	
△	壁芯を示す
▲	柱芯を示す
▼	完全スリットW25を示す 差筋は壁リストによる
▨	梁増打ち範囲を示す
▨▨	柱増打ち範囲を示す



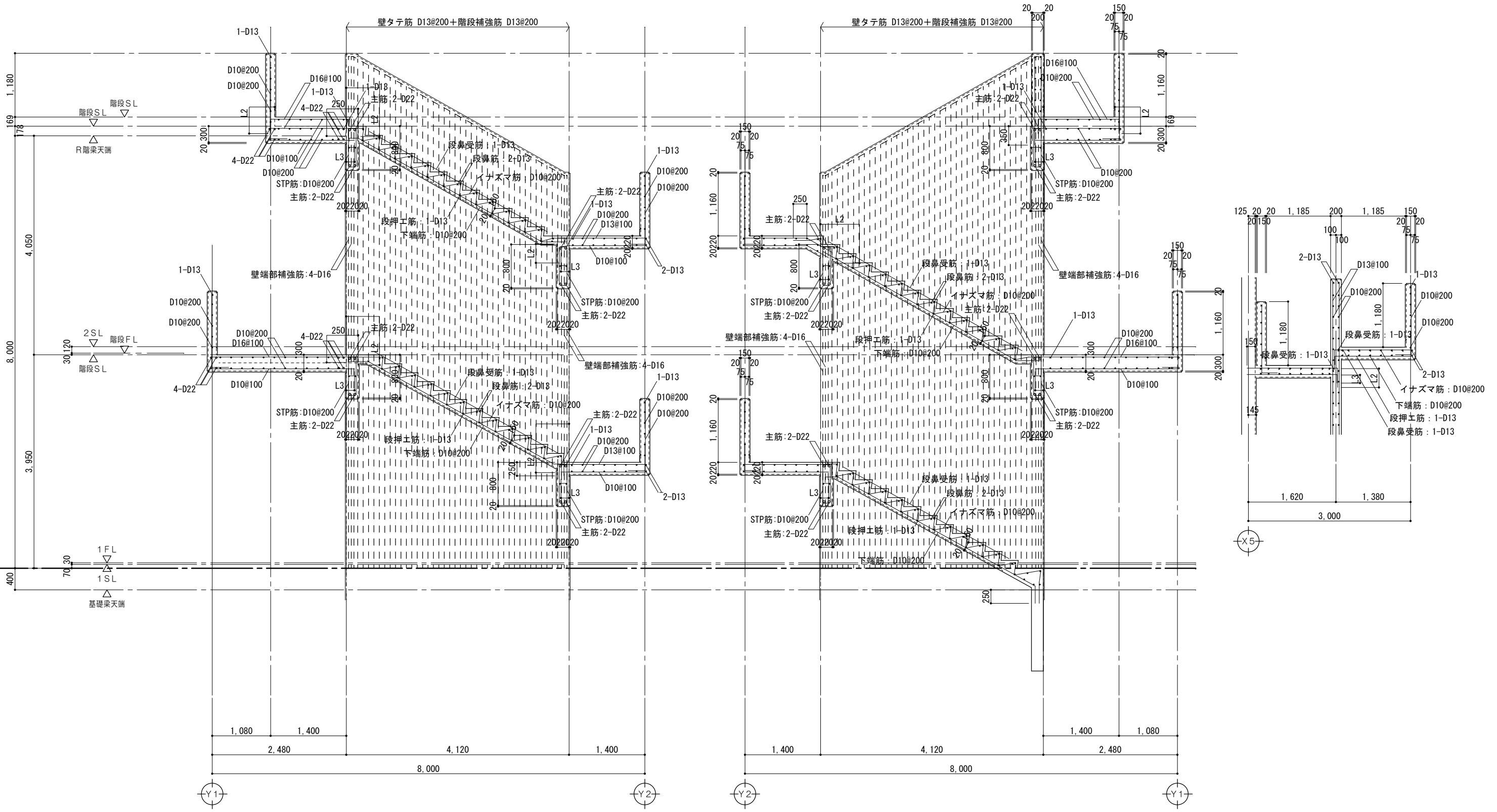
Y1 通架構図 1/50



内部階段詳細図 1/50



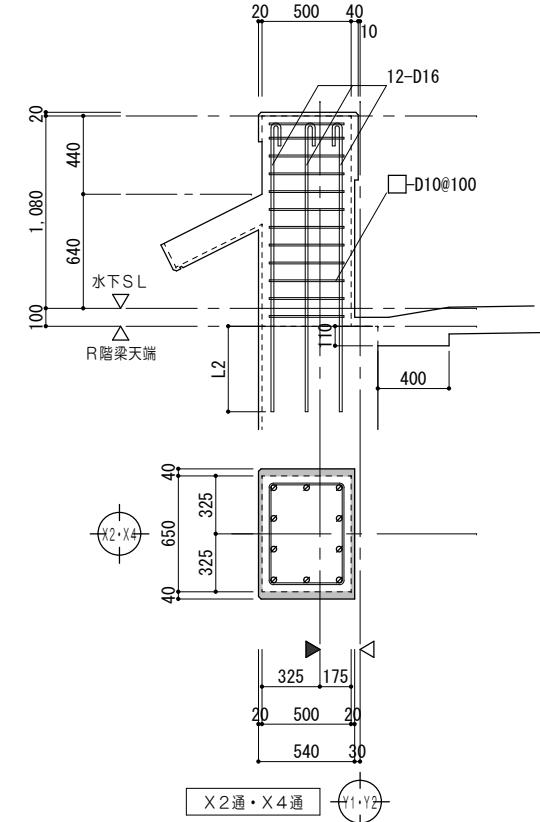
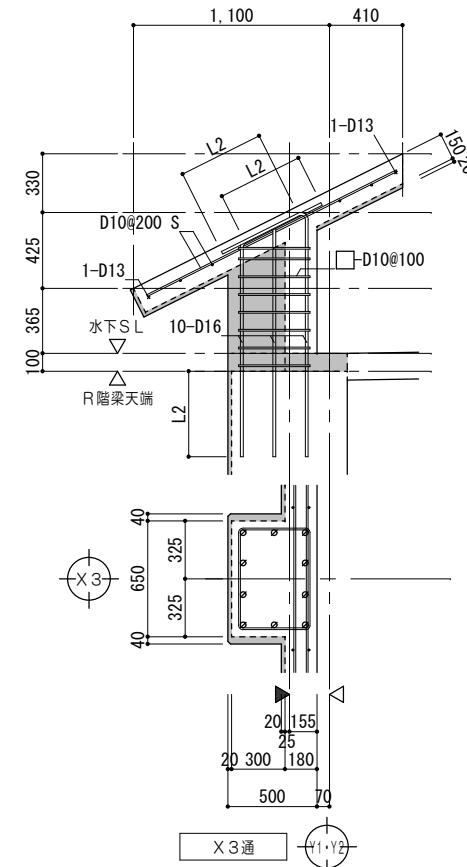
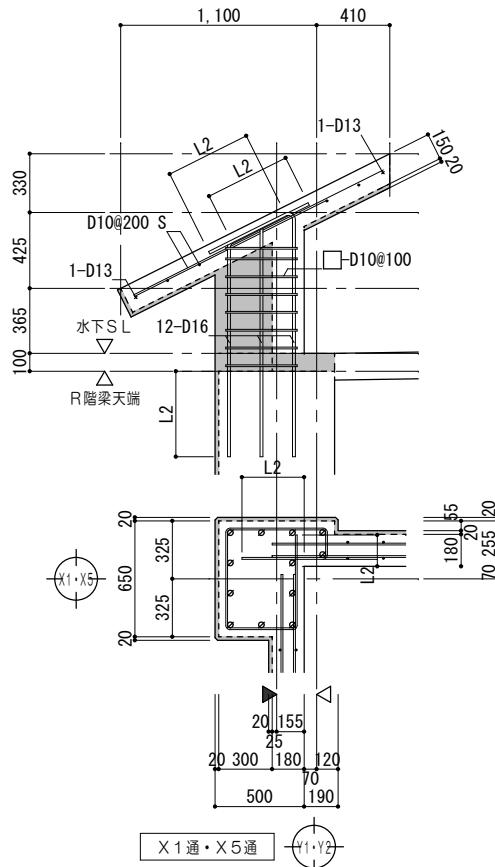
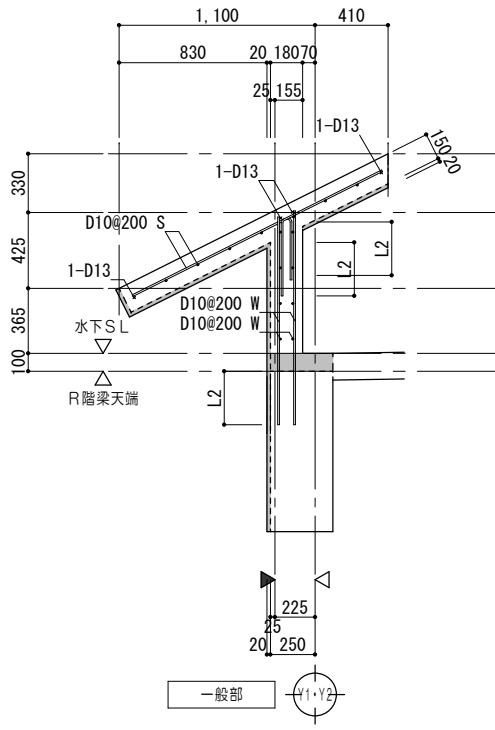
内部階段詳細図 1/50



各部詳細図

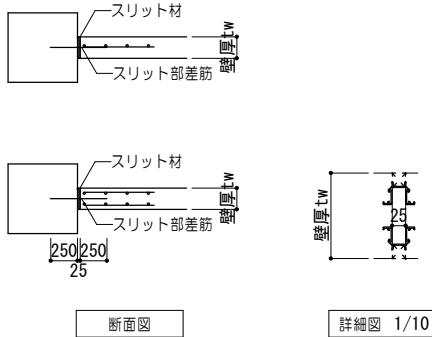
パラペット詳細図

1/30



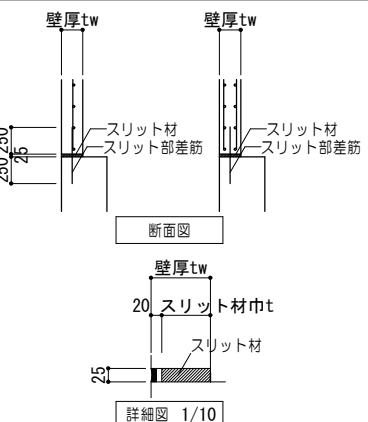
### 垂直スリット詳細図

1/10, 50



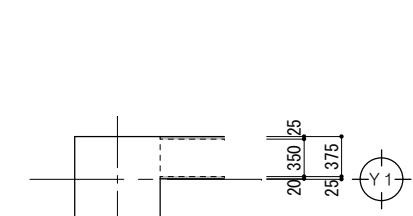
水平スリット詳細図

1/10, 50



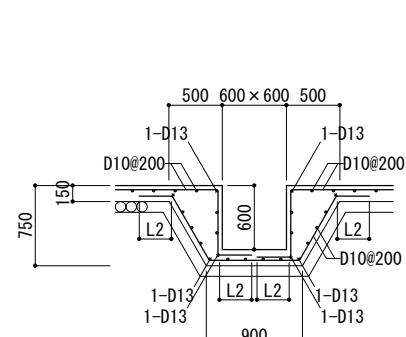
柱梁接合部詳細図

1 / 50



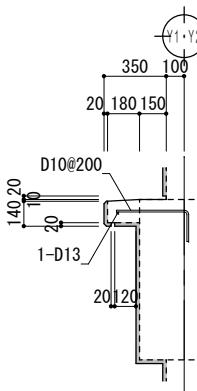
## 便所ピット釜場詳細図

1/50



2階小庇詳細図

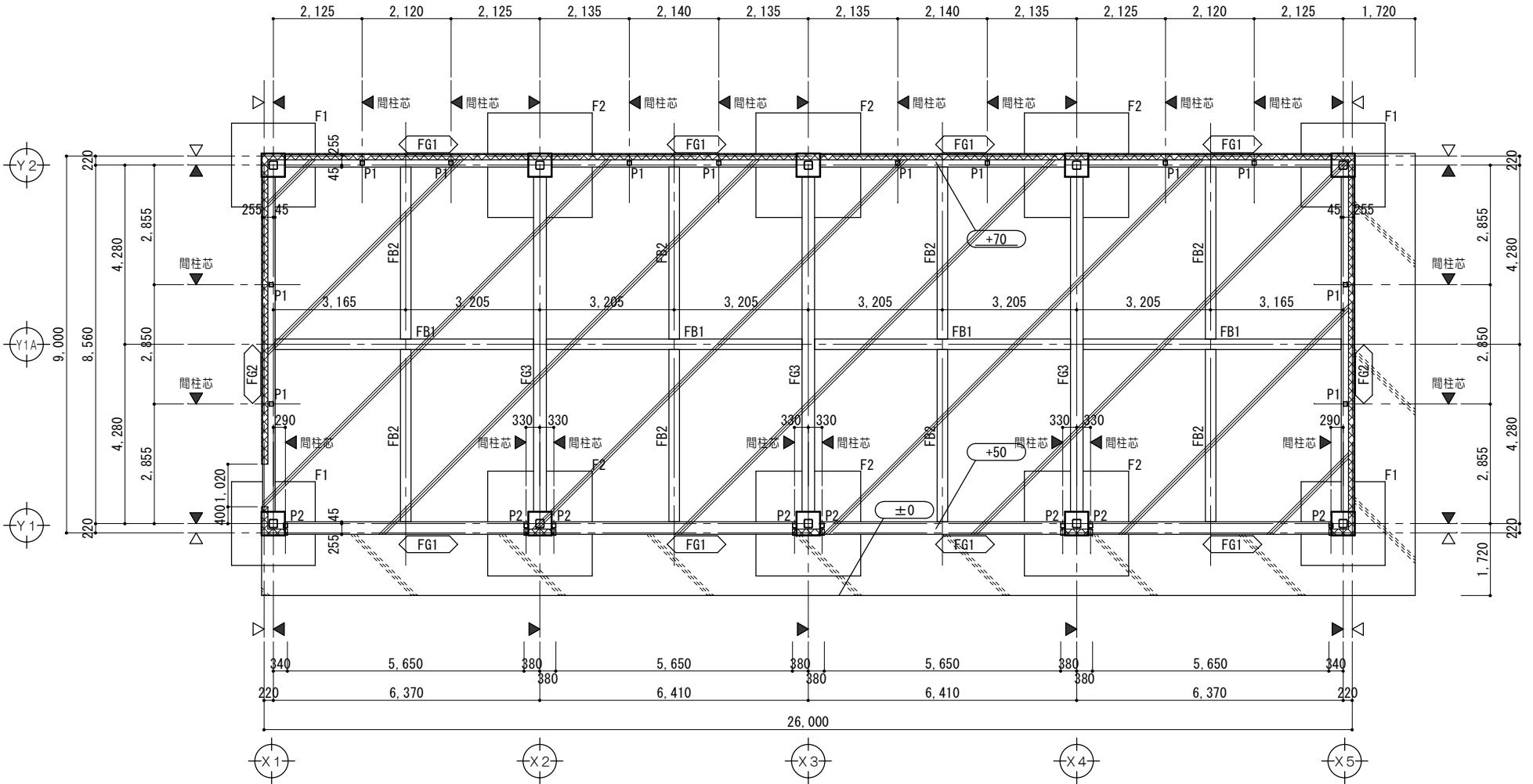
1/30



玄関庇詳細図

1/100, 1/30

特 記 事 項			一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号		代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第307846号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第360917号 三橋 五百子	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	法適合確認	作図	工事名称	設計日				
			 株式会社 前野建築設計							縮尺	面番号 S025 (原図:A2)					
			管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝							面図名 【①管理棟】各部詳細図						

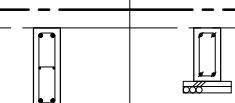


\*工事着手前に当該敷地内で平板載荷試験を行い、設計地耐力以上を確認すること。（試験位置はGL-2,000とし、監督員と協議すること）

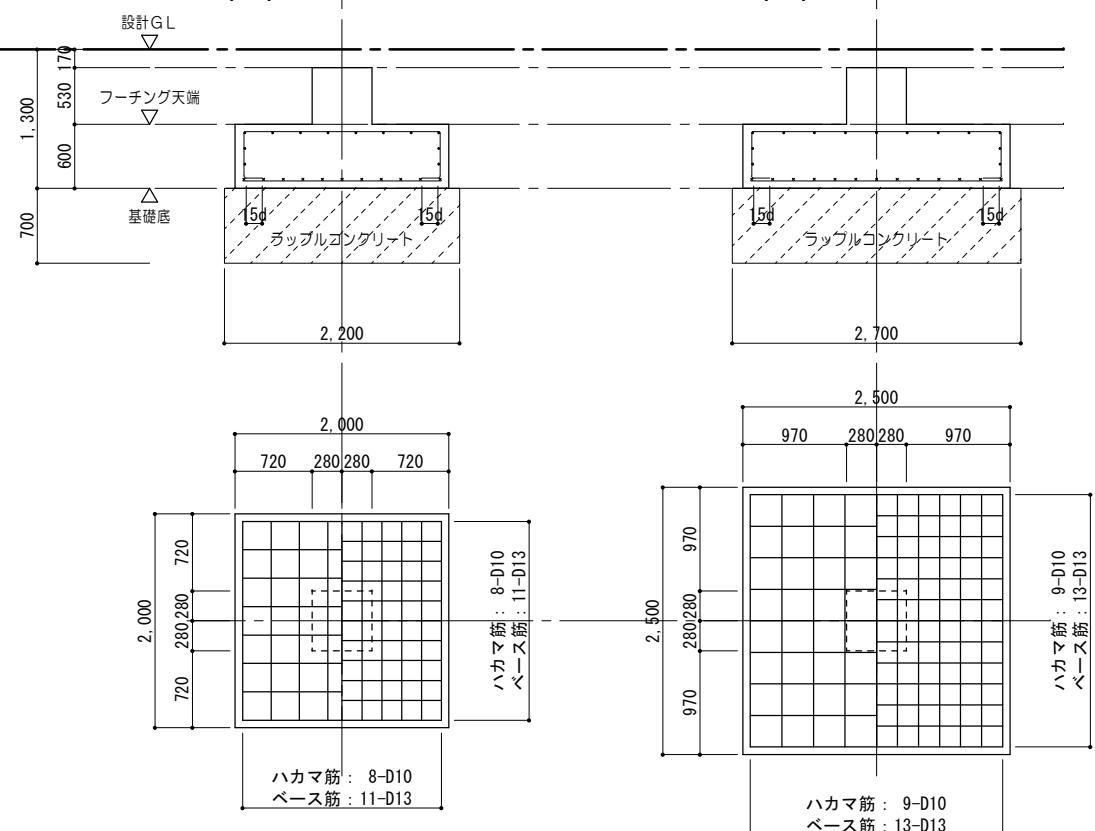
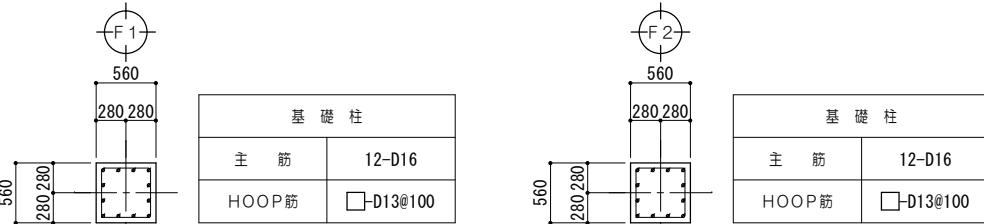
基礎梁リスト 1/50

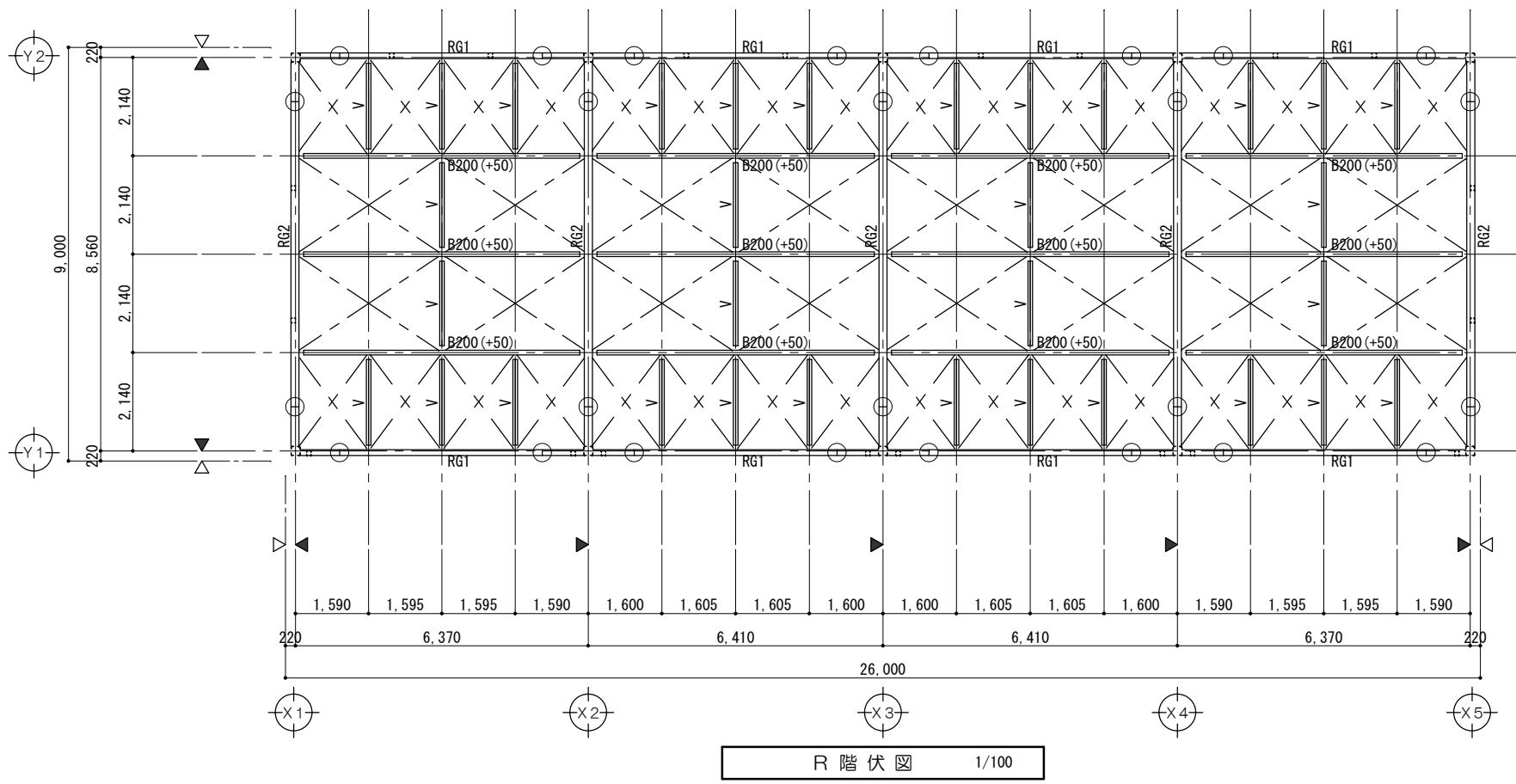
符 号		FG 1	FG 2		FG 3	
B × D		300 × 700	300 × 800		300 × 900	
位 置		全 断 面	端 部	中 央	端 部	中 央
△	170					
設計 G L						
断面図						
主 筋	上 端 筋	3-D19	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
	下 端 筋	3-D19	3-D22	2-D22 3-D22	3-D22	2-D22 3-D22
S T P		□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200	
腹 筋		2-D10	2-D10		4-D10	
巾止×筋		D10@1000	D10@1000		D10@1000	

基礎小梁リスト 1/50

符 号	F B 1	F B 2
B × D	250×750	250×500
位 置	全 断 面	全 断 面
△ 設計 G L 断面図		
主 筋	上 端 筋 2-D19	2-D16
	下 端 筋 2-D19	2-D16
S T P	□-D10@200	□-D10@200
腹 筋	2-D10	
巾止メ筋	D10@1000	

柱廻り立上詳細図 1/50





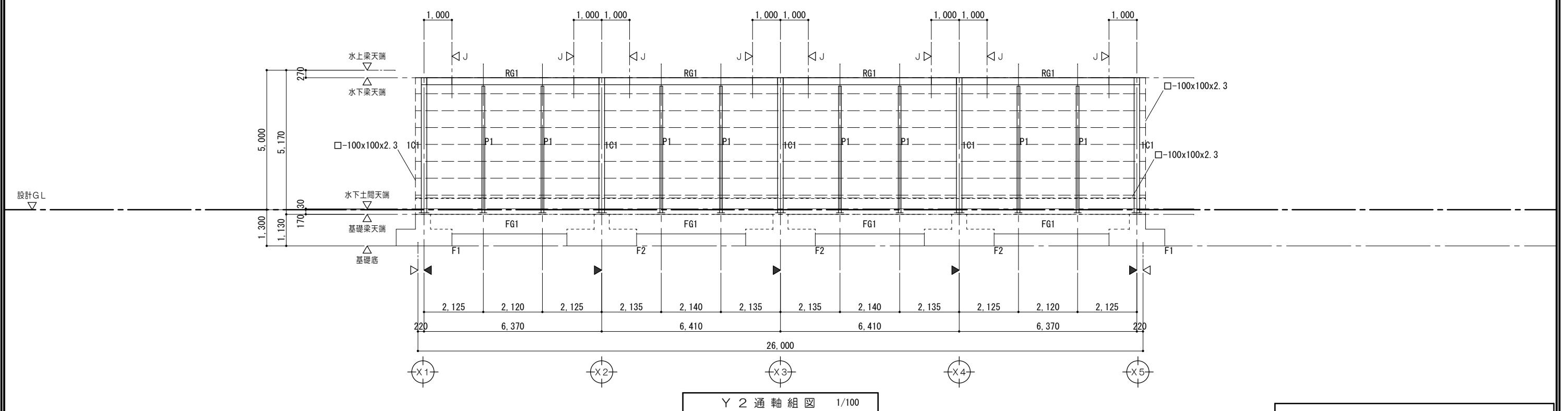
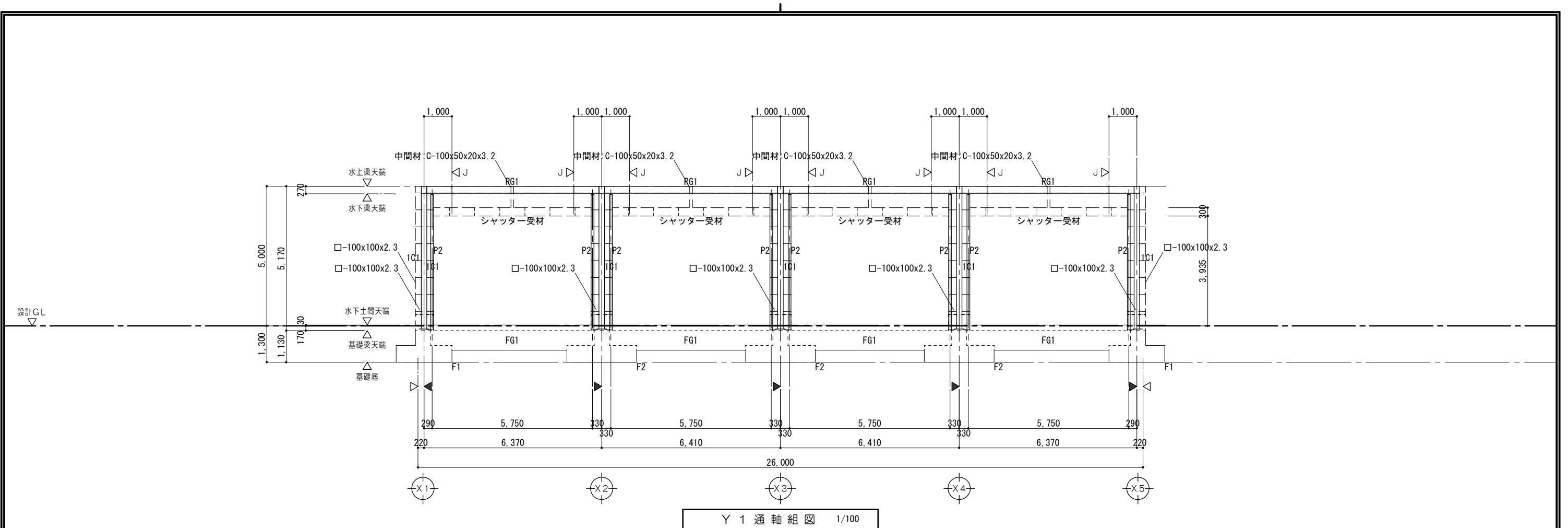
大 梁 リ ス ト			使用材料		H形鋼：SS400		
符 号	部 材	継手・端部接合部					備 考
		P (厚×幅、高さ×長さ)		HTB	TYPE	Pc	
RG1	H-250x125x6x9	F	2P-12x125x410	24-M16 L=55	B	75	
		W	2P- 6x170x290	8-M16 L=50	B	90	
RG2	H-244x175x7x11	F	2P- 9x175x410 4P- 9x 70x410	24-M16 L=60	C	105	
		W	2P- 9x170x290	8-M16 L=55	C	90	

小梁・雑部材リスト		使用材料	H形鋼：SS400、軽量形鋼：SSC400 角型管：STKR400			
符号	部材	締手・端部接合部				備考
		凡 (厚×幅、高さ×長さ)	HTB	TYPE	Pc	
P1	□-100x100x3.2	GP-6	2-M16 L=40	N	60	柱頭
		BP-260x120x12	2-M16 L=400			柱脚 アンカーボルトSS400
P2	□-100x100x4.5	GP-6	2-M16 L=40	N	60	柱頭
		BP-260x120x16	2-M16 L=400			柱脚 アンカーボルトSS400
B200	H-200x100x5.5x8	GP-6	2-M20 L=50	J	60	
V	2C-100x50x20x3.2	GP-9	2-M20 L=55	K	60	
胴縁	C-100x50x20x2.3	GP-4.5	2-M12 L=35	K	50	@606 中ボルト
ヨコ開口補強1	C-100x50x20x3.2	GP-6	2-M12 L=35	K	50	中ボルト
タテ開口補強1	C-100x50x20x3.2	GP-6	2-M12 L=35	K	50	中ボルト
シャッター受材	上弦材 □-100x100x4.5	GP-6	2-M16 L=40			上下弦材芯間距離H250 腹材ピッチ@900
	下弦材 □-100x100x4.5					
	腹材 C-100x50x20x3.2		端部すみ肉溶接			
水平プレース	1-M16	GP-9	2-M16 L=40			JIS規格品

凡 例	
▶	柱芯を示す
▷	壁芯を示す
—①—	継手位置を示す
— — —	水平フレースを示す
XXX (000)	一般梁天端からの高さを示す 特記なき場合、一般梁天端+0とする

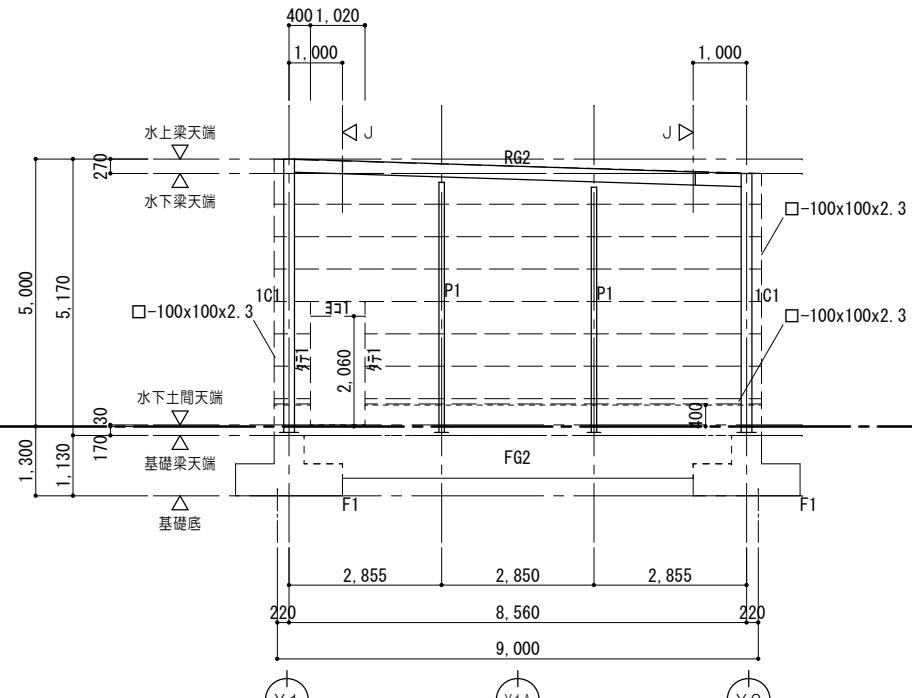
柱リスト 1/100

使用材料	角型钢管：BCR 295
符号	1C1
断面	
部材	□-200x200x9
細長比 (最大値)	$\lambda_x = 81.3$ $\lambda_y = 80.0$
備考	
柱脚	
ベースプレート	R-360x360x28
アンカーボルト	4-M30
備考	ベースパック 20-09V

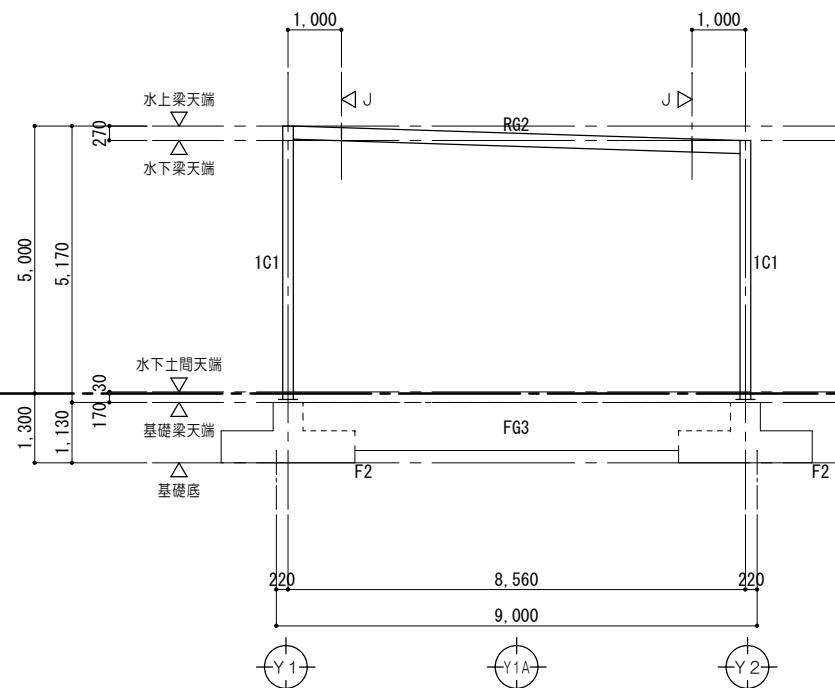


凡 例	
►	柱芯を示す
▷	壁芯を示す
J ▷	継手位置を示す
— — —	胴縁、開口補強を示す

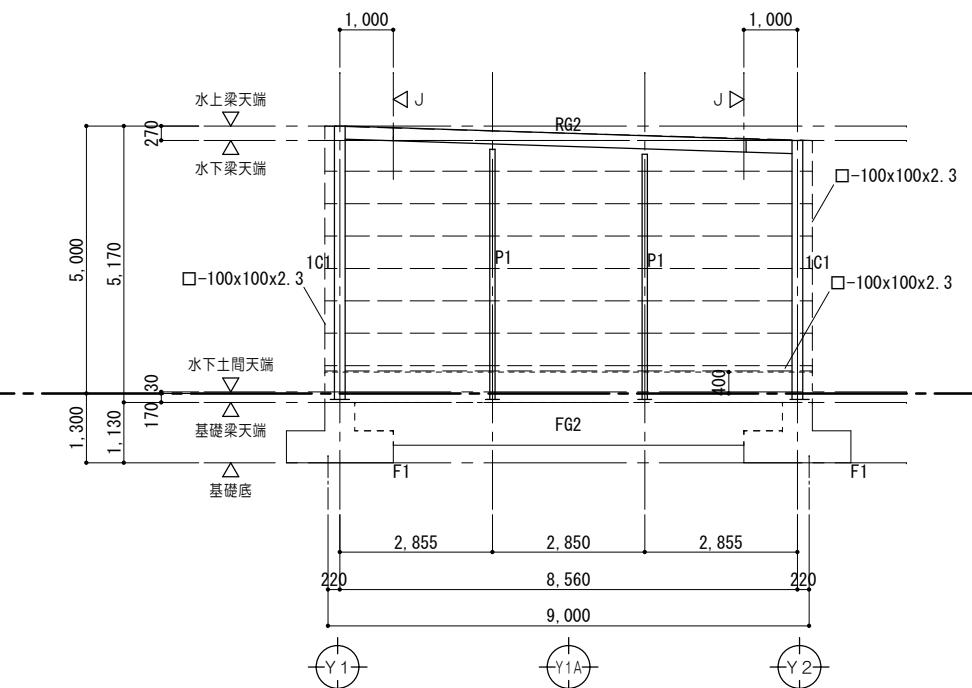
特 記 事 項	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号			代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	法適合確認 作図 検査 監査	工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事			設計日 A2:1/100 A3:1/141 (原図:A2)						
	株式会社 前野建築設計								図面名称 【③サッカーゴール等収納庫】軸組図No.1									
	管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝								縮尺 A2:1/100 A3:1/141 (原図:A2)									



X 1 通 軸 組 図 1/100



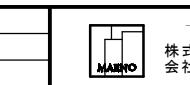
X 2 ~ X 4 通 軸 組 図 1/100



X 5 通 軸 組 図 1/100

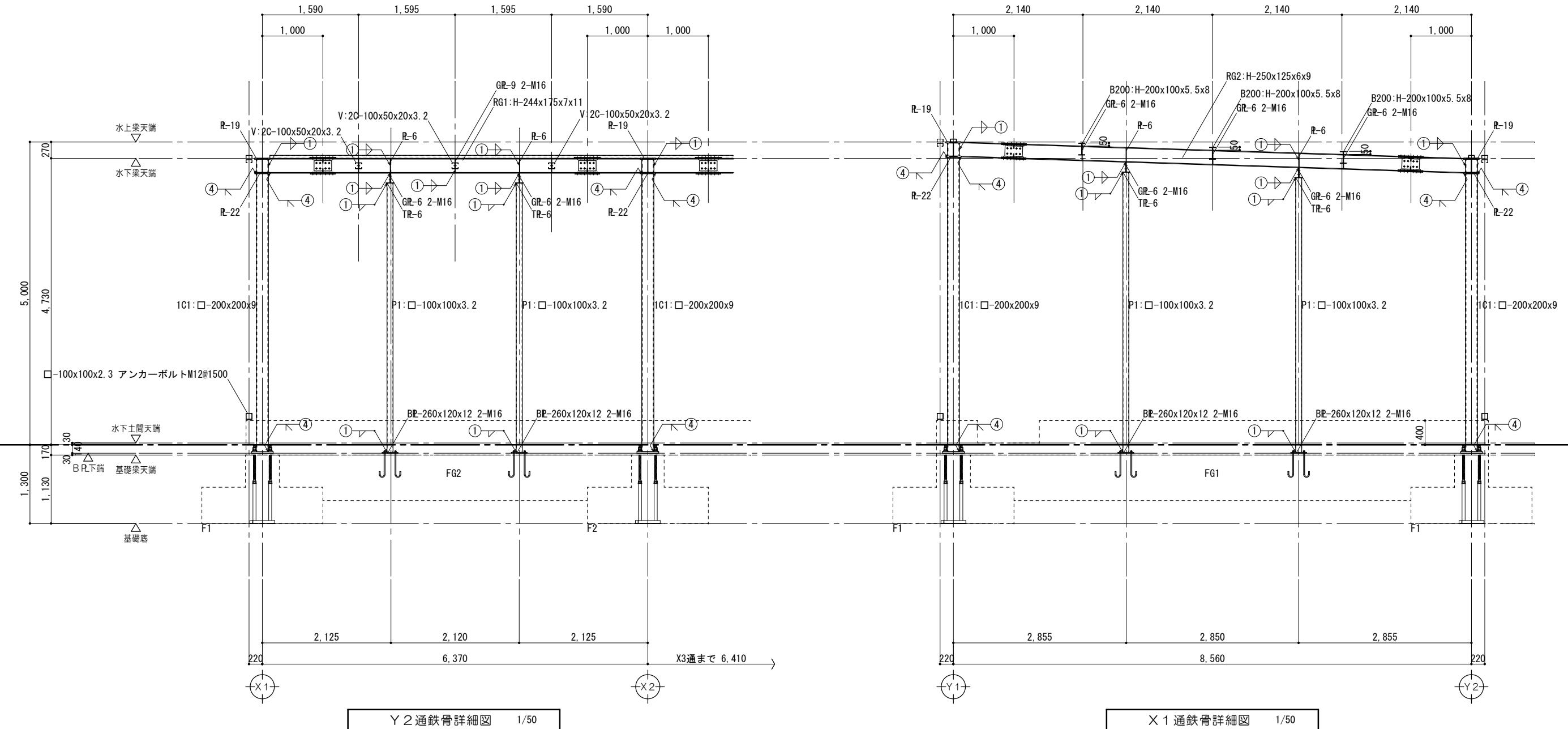
凡 例	
▶	柱芯を示す
▷	壁芯を示す
J ▷	縦手位置を示す
— — —	胴縁、開口補強を示す

特 記 事 項	



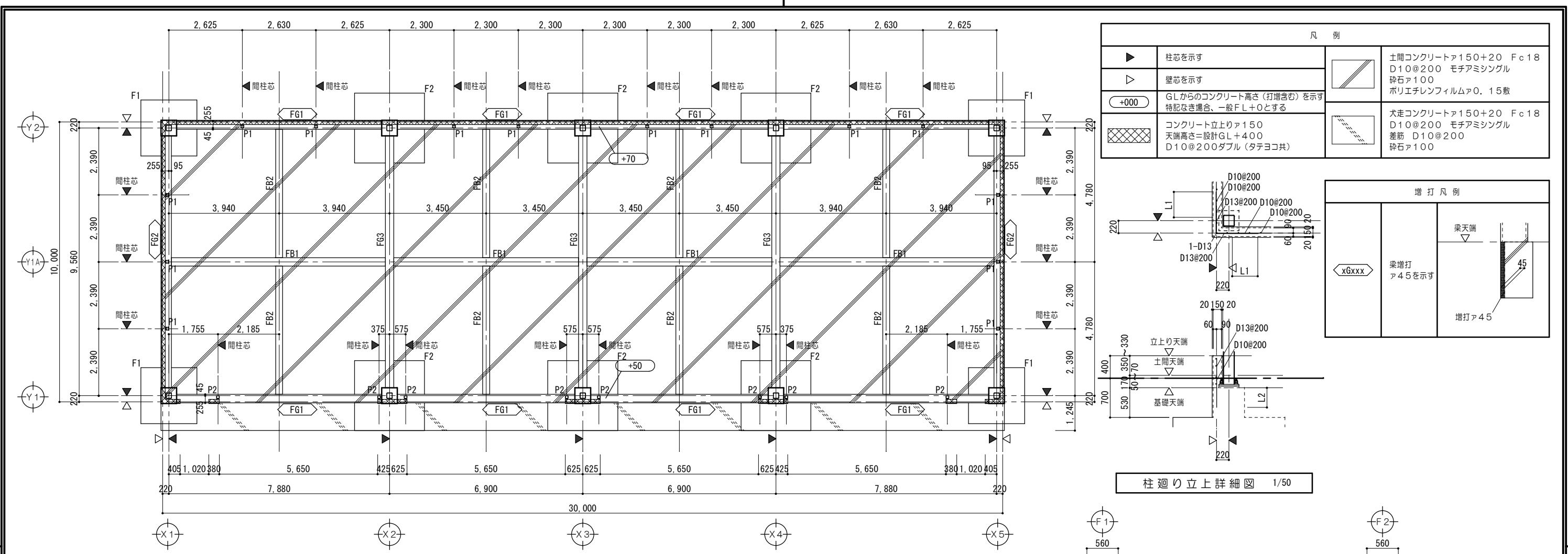
一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号  
株式会社 前野建築設計  
管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	法適合確認 ○	作図 前回 検査 三橋 計 神野	工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事 図面名称 【③サッカーゴール等収納庫】軸組図No.2	設計日 A2:1/100 A3:1/141 (原図:A2)
-------------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	------------	---------------------------------	---	--



凡 例	
▶	柱芯を示す
▷	壁芯を示す
△ ▷	継手位置を示す

特 記 事 項		一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号 株式会社 前野建築設計 管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝	代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	法適合確認 作図 検査 監査 監修 監理	工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事		設計日
									規格	規格	
									A2:1/50	S033 【③サッカーゴール等収納庫】鉄骨詳細図	A3:1/71 (原図:A2)



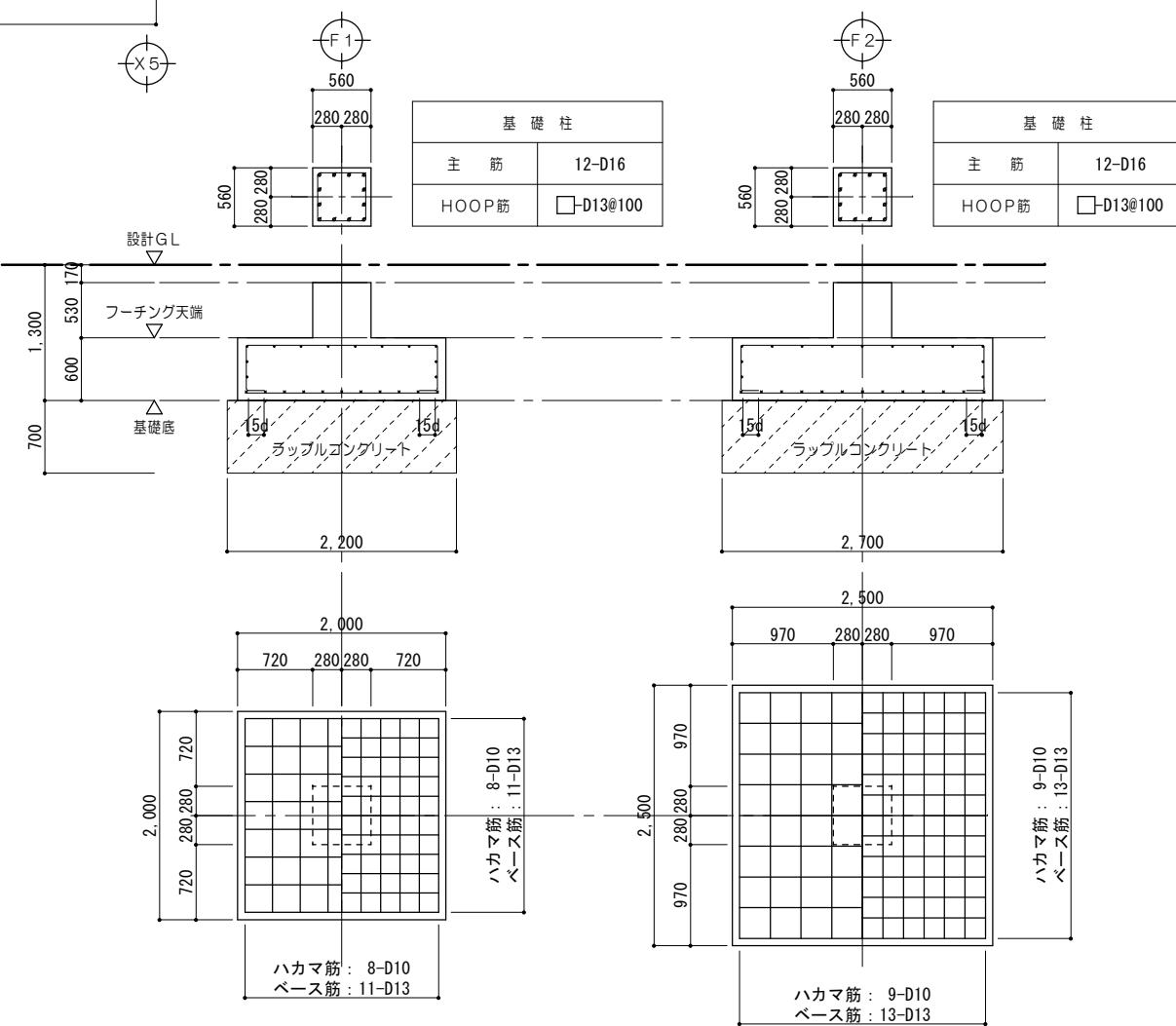
※工事着手前に当該敷地内で平板載荷試験を行い、設計地耐力以上を確認すること。（試験位置はGL-2,000とし、監督員と協議すること）

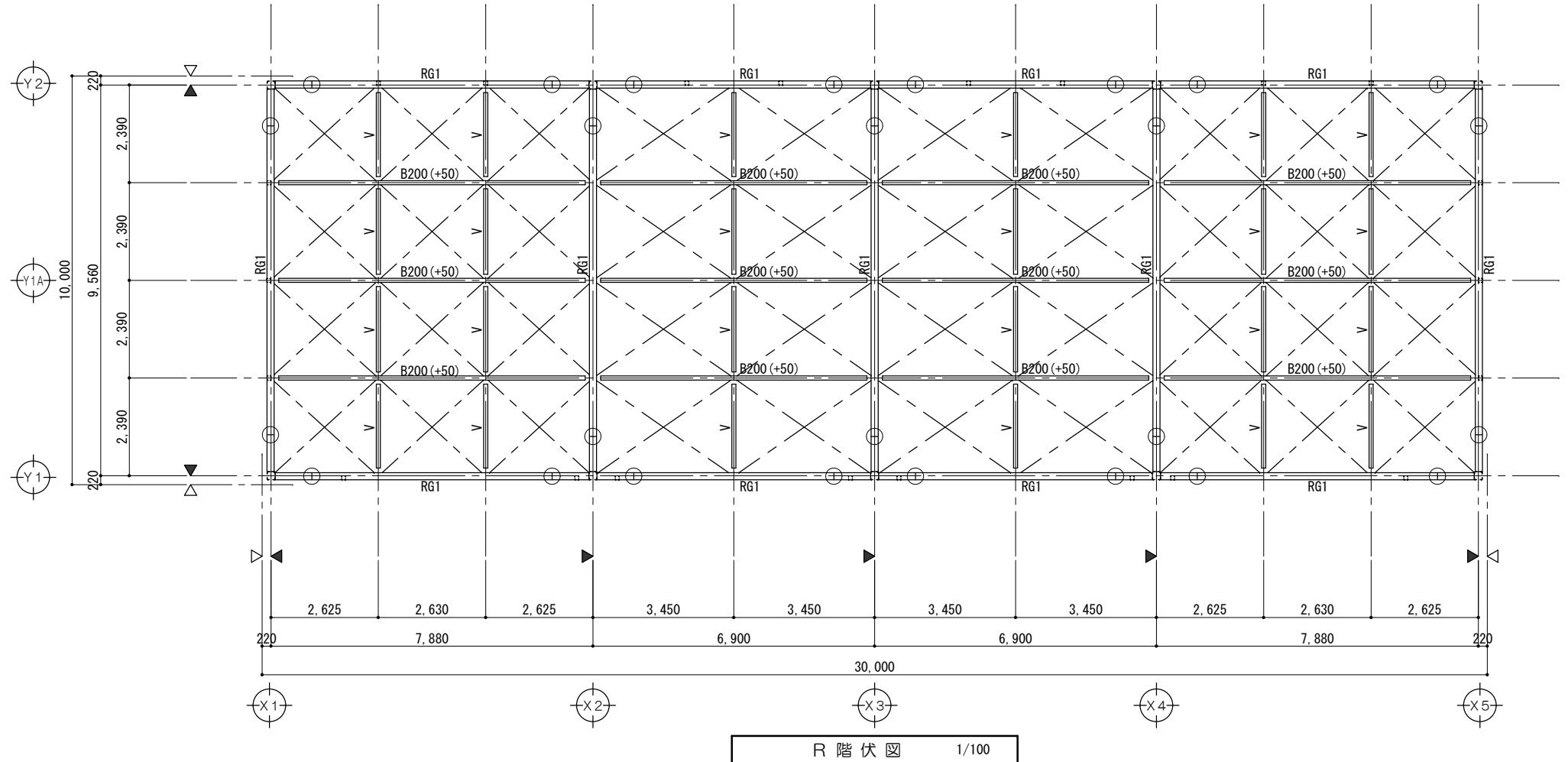
基礎梁リスト 1/100

符 号		FG 1	FG 2		FG 3	
B × D		300 × 750	350 × 1000		300 × 1000	
位 置		全 断 面	端 部	中 央	端 部	中 央
△	75					
設計 GL						
断面図						
主 筋	上 端 筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D25	3-D25
	下 端 筋	3-D22	4-D22	2-D22 4-D22	3-D25	2-D25 3-D25
S T P		□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200	
腹 筋		2-D10	4-D10		4-D10	
巾止X筋		D10@1000	D10@1000		D10@1000	

基礎小梁リスト 1/100

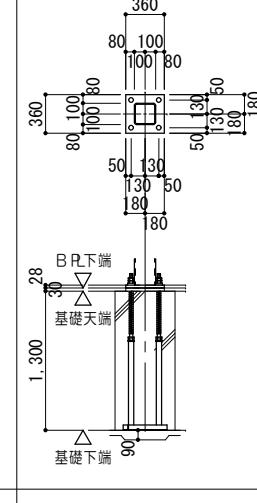
符 号	F B 1	F B 2
B × D	300 × 700	250 × 500
位 置	全 断 面	全 断 面
△ 設計 G L		
断面図		
主 筋	上 端 筋	3-D22
	下 端 筋	3-D22
S T P	□-D10@200	□-D10@200
腹 筋	2-D10	
巾止又筋	D10@1000	

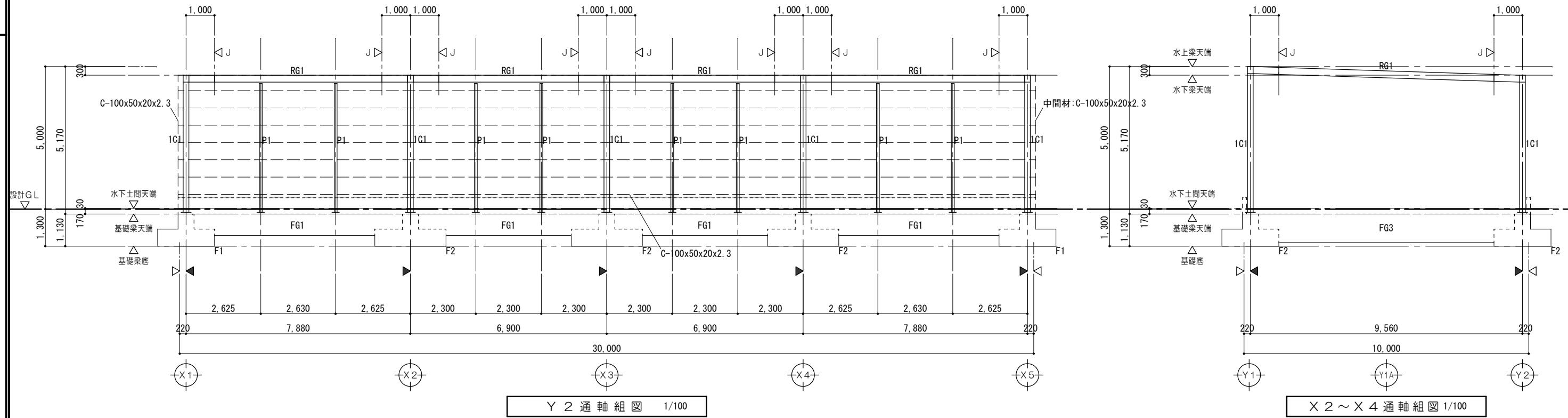
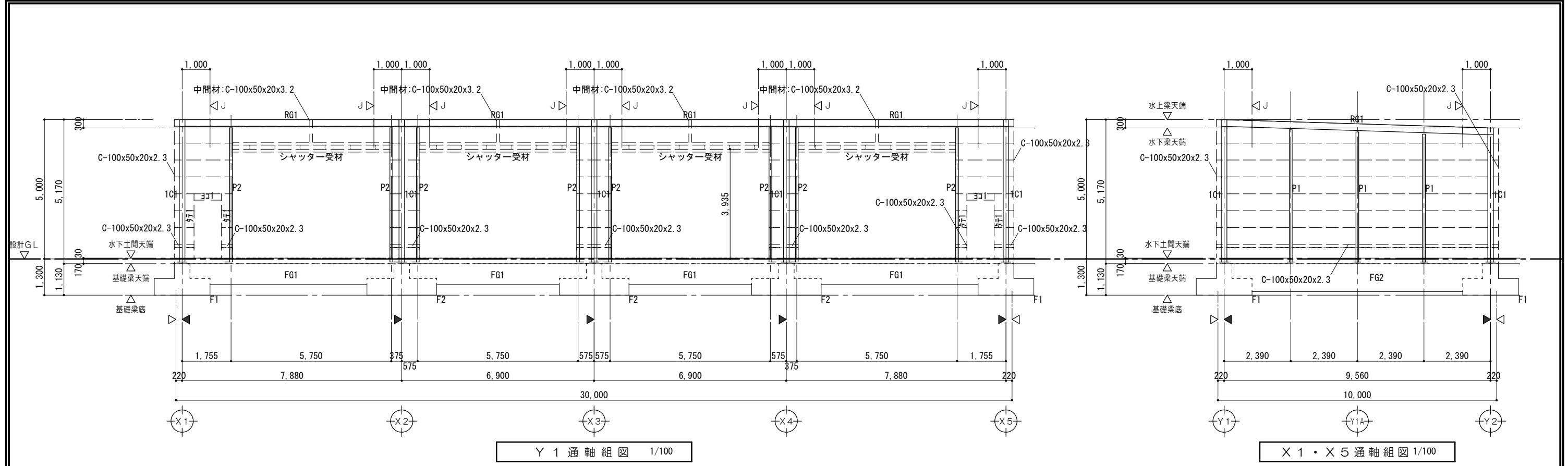




大梁リスト		使用材料	H形鋼:SS400				
符号	部材	継手・端部接合部				備考	
		(厚×幅、高さ×長さ)		HTB	TYPE	Pc	
RG1	H-244x175x7x11	F	2E- 9x175x410 4E- 9x 70x410	24-M16 L=60	C	105	
		W	2E- 9x170x290 8-M16 L=50	8-M16 L=50	C	90	

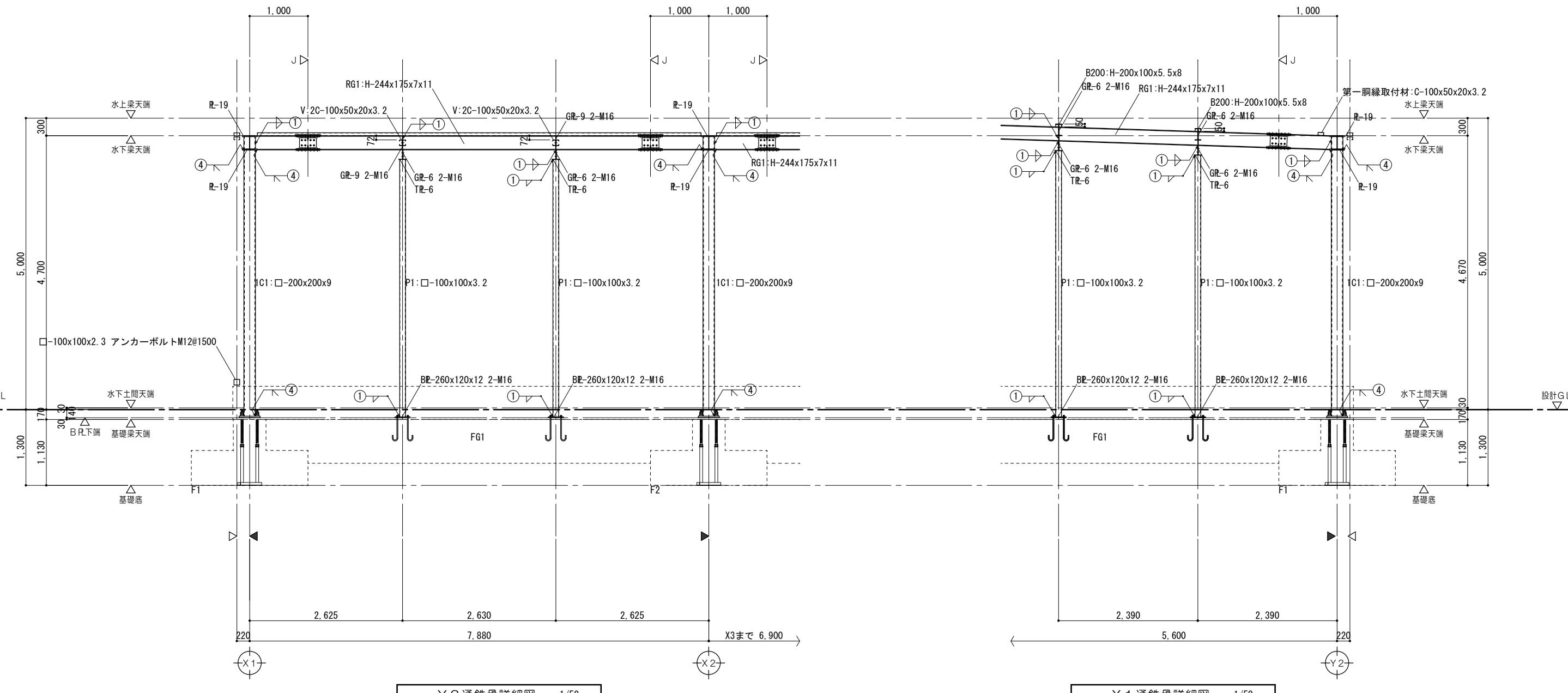
小梁リスト		使用材料	H形鋼：SS400、軽量形鋼：SSC400 角型钢管：STKR400			
符号	部材	継手・端部接合部				備考
		巾 (厚×幅、高さ×長さ)	HTB	TYPE	Pc	
P1	□-100x100x3.2	GP-6	2-M16 L=40	N	60	柱頭
		BR-260x120x12	2-M16 L=400			柱脚 アンカーボルトSS400
P2	□-100x100x4.5	GP-6	2-M12 L=140	N	60	柱頭 中ボルト
		BR-260x120x16	2-M16 L=400			柱脚 アンカーボルトSS400
B200	H-200x100x5.5x8	GP-6	2-M20 L=50	J	60	
V	2C-100x50x20x3.2	GP-9	2-M20 L=55	K	60	
胴縁	C-100x50x20x2.3	GP-4.5	2-M12 L=35	K	50	@606 中ボルト
ヨコ開口補強1	C-100x50x20x3.2	GP-6	2-M12 L=35	K	50	中ボルト
タテ開口補強1	C-100x50x20x3.2	GP-6	2-M12 L=35	K	50	中ボルト
シャッター受材	上弦材 □-100x100x4.5	GP-6	2-M16 L=40			複材ピッチ@900
	下弦材 □-100x100x4.5					
	腹材 C-100x50x20x3.2		端部すみ肉溶接			
水平プレース	1-M16	GP-9	2-M16 L=40			JIS規格品

符 号	1C1
断 面	
部 材	□-200x200x9
締 長 比 (最大値)	$\lambda x=75.8$ $\lambda y=77.5$
備 考	
付 圖	
ベースプレート	R-360x360x28
アンカーボルト	4-M30
備 考	ベースパック 20-09V



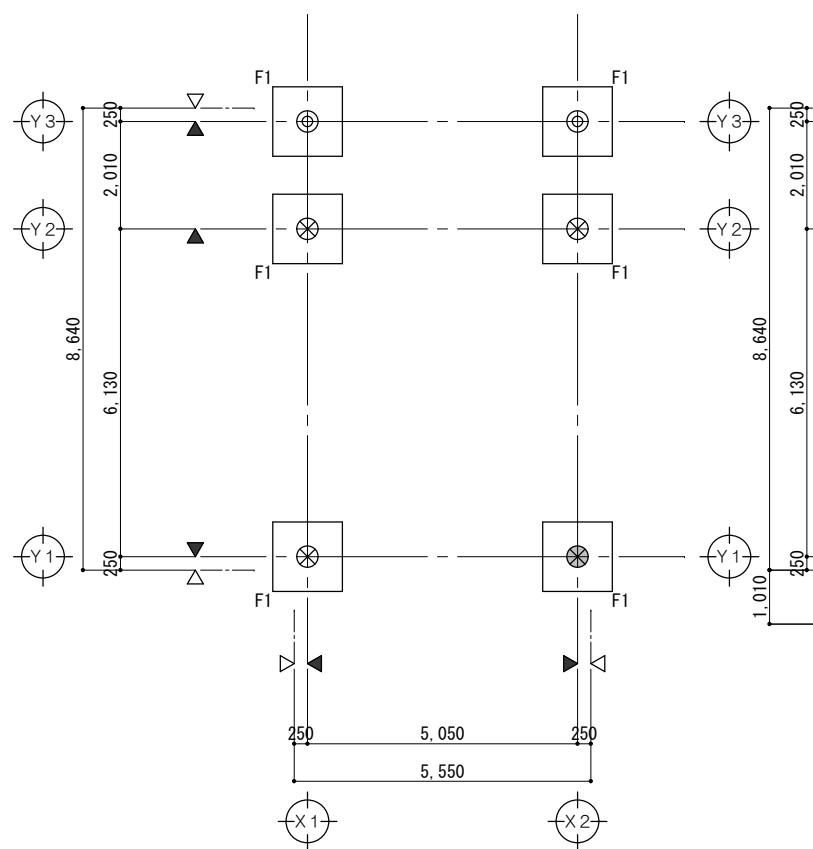
凡例	
►	柱芯を示す
▷	壁芯を示す
○▷	縦手位置を示す
— — —	胴縁、開口補強を示す

特 記 事 項					一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号 株式会社 前野建築設計 代表建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝 管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計日		

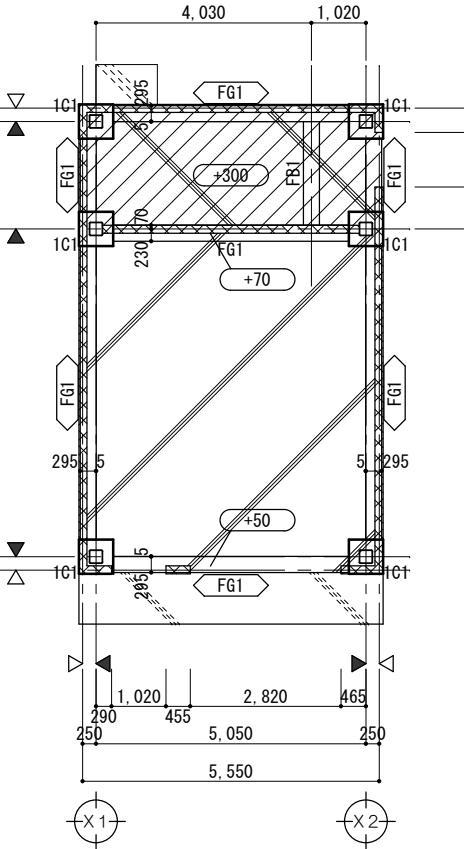


凡例	
▶	柱芯を示す
▷	壁芯を示す
J ▷	継手位置を示す

特 記 事 項		 <b>株式会社 前野建築設計</b> <small>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</small>	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号		代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当 一級建築士 第320204号 前野 将輝	法適合確認 	工事名称 <b>海浜公園内陸上競技場改修工事</b>		設計日			
									縮尺 A2:1/50		圖面番号 S037 (原図:A2)				



杭・基礎伏図 1/100

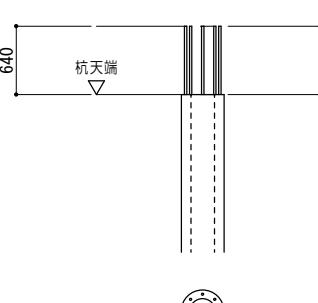


基礎梁伏図 1/100

基礎梁リスト		1/50
符 号		F G 1
B × D		300×600
位 置		全断面
設計 G.L.	△ 250	
断面図		
主 筋	上 端 筋	3-D22
	下 端 筋	3-D22
S T P		□-D10@200
腹 筋		2-D10
巾 止 × 筋		D10@1000

基礎小梁リスト		1/50
符 号		F B 1
B × D		300 × 600
位 置		全断面
設計GL	△ 250	
断面図		
主筋	上端筋	3-D16
	下端筋	3-D16
S T P		□-D10@200
腹筋		2-D10
巾止メ筋		D10@1000

杭頭補強筋詳細図 1/50					
杭符号	杭サイズ	L	主筋径	主筋本数	主筋材
	外径				
P1	400	40d	D16	8	KSW4
P2	400	40d	D16	8	KSW4



---

P 1

Technical drawing showing the cross-section and reinforcement details of a square foundation column.

**Top View:**

- Overall width: 640 mm
- Inner width: 320 mm (each side)
- Inner height: 320 mm (each side)
- Reinforcement: F1

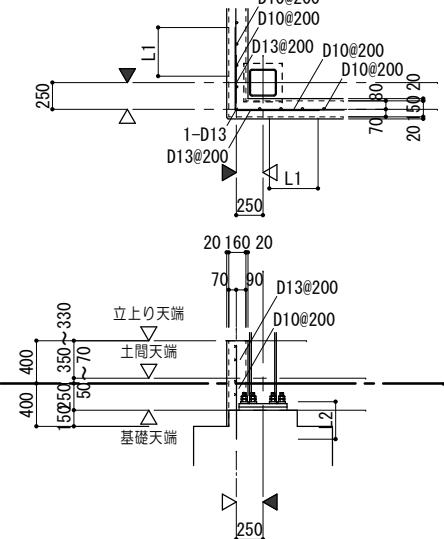
**Vertical Section:**

- Overall height: 1,300 mm
- Base thickness: 400 mm
- Column height: 900 mm
- Top thickness: 150 mm
- Top width: 250 mm
- Bottom thickness: 110 mm
- Bottom width: 100 mm
- Reinforcement: 2-D10 at top, P1:  $\phi 400$  at bottom
- Foundation thickness: 20d
- Base thickness: 400 mm
- Labels: 基礎天端 (Foundation Top), 桁天端 (Pile Top), 基礎底 (Foundation Bottom)

**Bottom View:**

- Overall width: 1,300 mm
- Inner widths: 330, 320, 320, 330 mm (each side)
- Inner height: 330 mm (each side)
- Reinforcement: 小カマ筋: 5-D10, ベース筋: 8-D13

凡 例	
▶ 柱芯を示す	
▷ 壁芯を示す	
⊗ 試験杭位置を示す	
P1 : $\phi 400$ L = 35m 上杭 : PHC杭 A種 8m 中杭1 : PHC杭 A種 9m 中杭1 : PHC杭 A種 9m 下杭 : PHC杭 A種 9m プレボーリング拡大根固め工法 (各係数は特記による) 杭支持力 1000kN /本 (長期) 2000kN /本 (短期) 杭引抜力 600kN /本 (短期) 継手 機械式継手 杭頭接合部 スタッド溶接 : 8-D16 支持層 土質柱状図による 許容施工誤差 $\leq 150$ mm	⊗
+000	G.Lからのコンクリート高さ(打増き含む)を示す 特記なき場合、一般F.L+0とする
	一般土間と異なるレベルの土間を示す

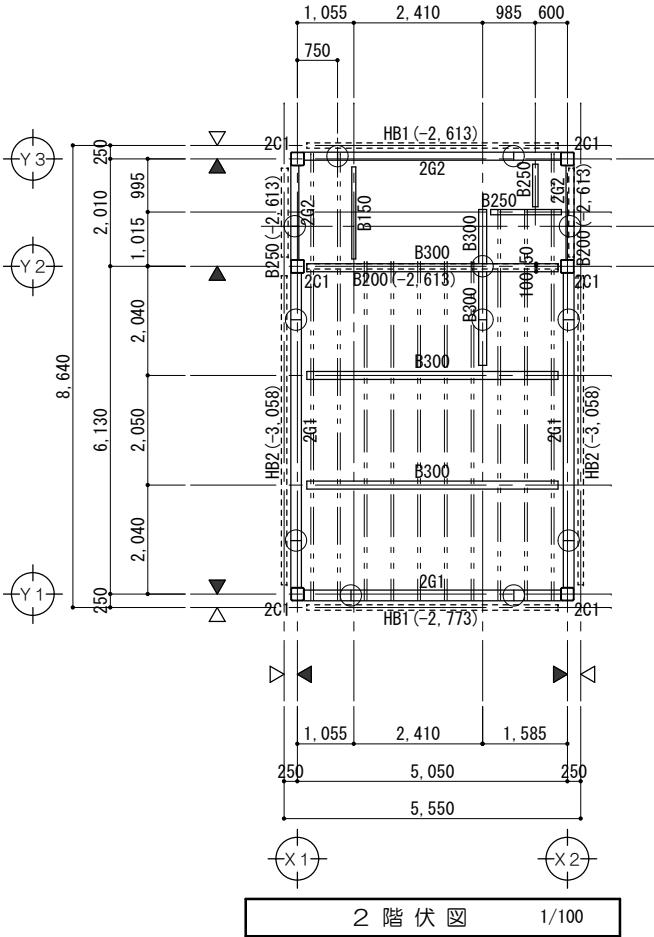


柱廻り立上詳細図 1/50

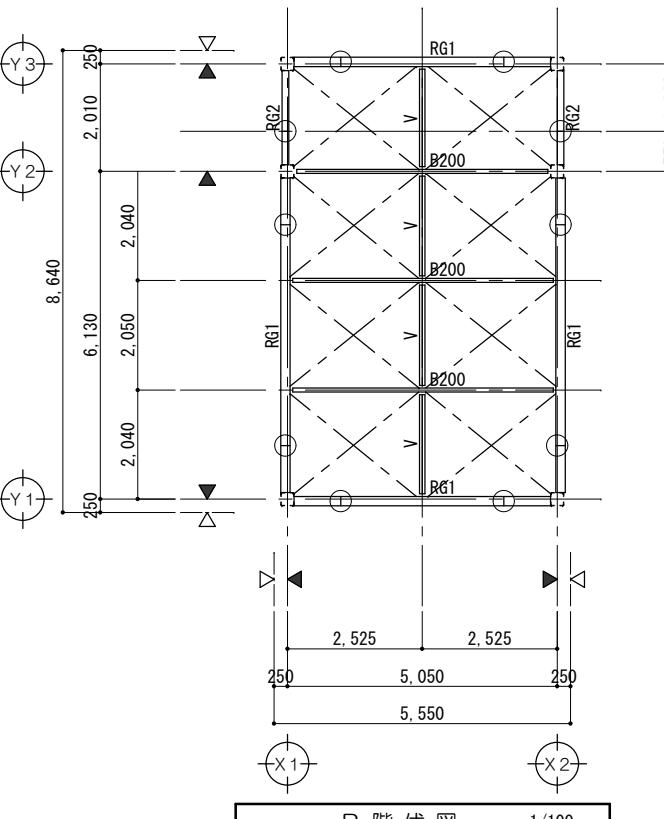
増打凡例		
↖ xGxxx ↘	梁増打 ア45を示す	

基礎 詳 細 図 1/50

特記事項



2 階 伏 図



R 階 伏 図 1/100

凡 例	
▶	柱芯を示す
▷	壁芯を示す
(I)	縦手位置を示す 特記なき限り柱芯より1000mmとする
H	小梁基礎剛接合を示す
— — —	水平フレースを示す
	合成スラブ ティッキ: QL-99-50-12 同等品
	コンクリートア80 Fc24 溶接金網 $\phi 6 - 150 \times 150$ 焼抜き鉄溶接 @600 ※ 原則として連続梁とする
XXX (000)	一般梁天端からの高さを示す 特記なき場合、一般梁天端+0とする

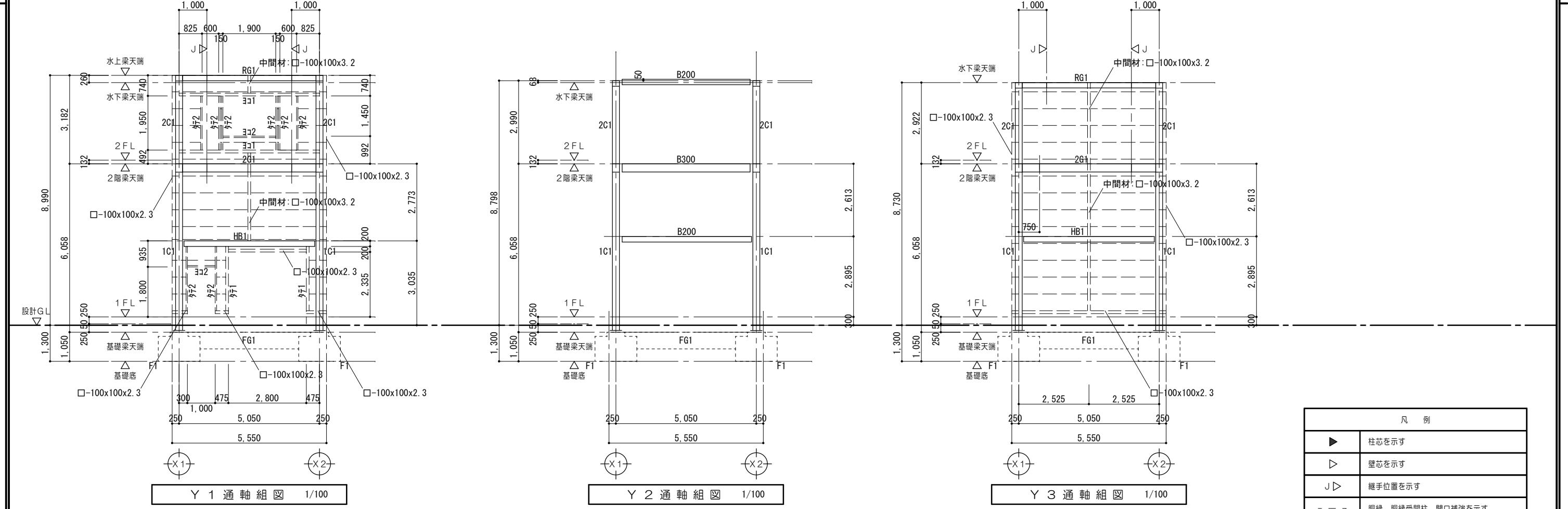
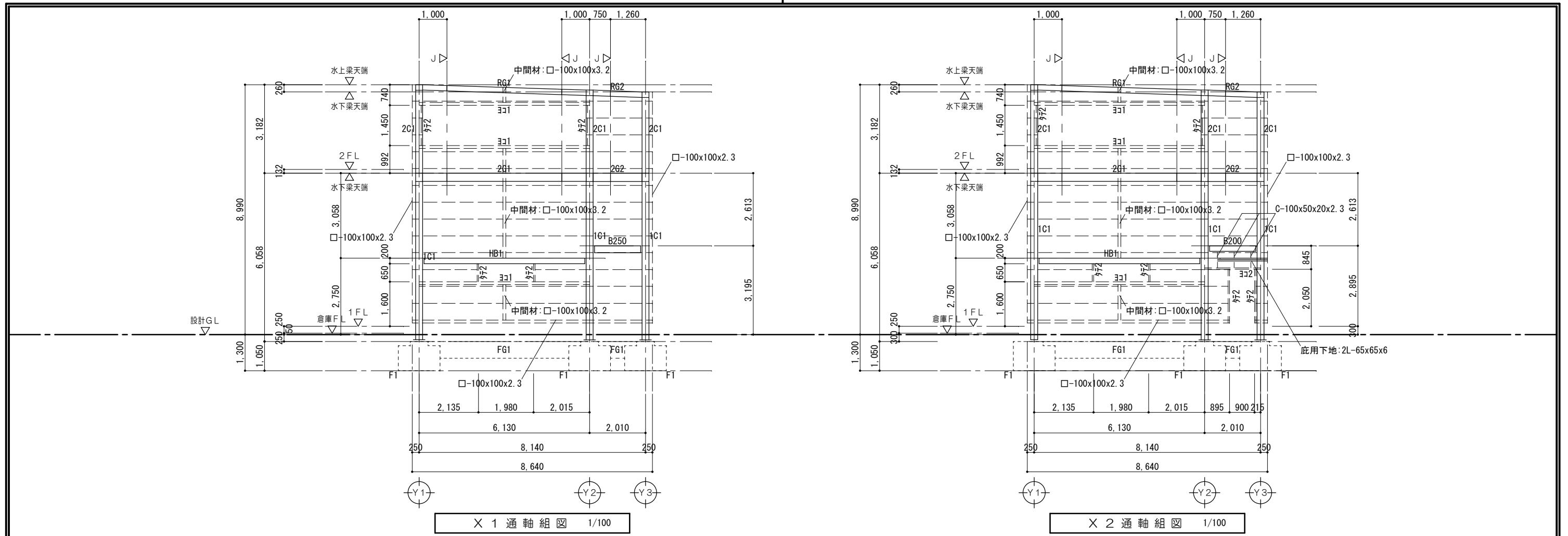
/50

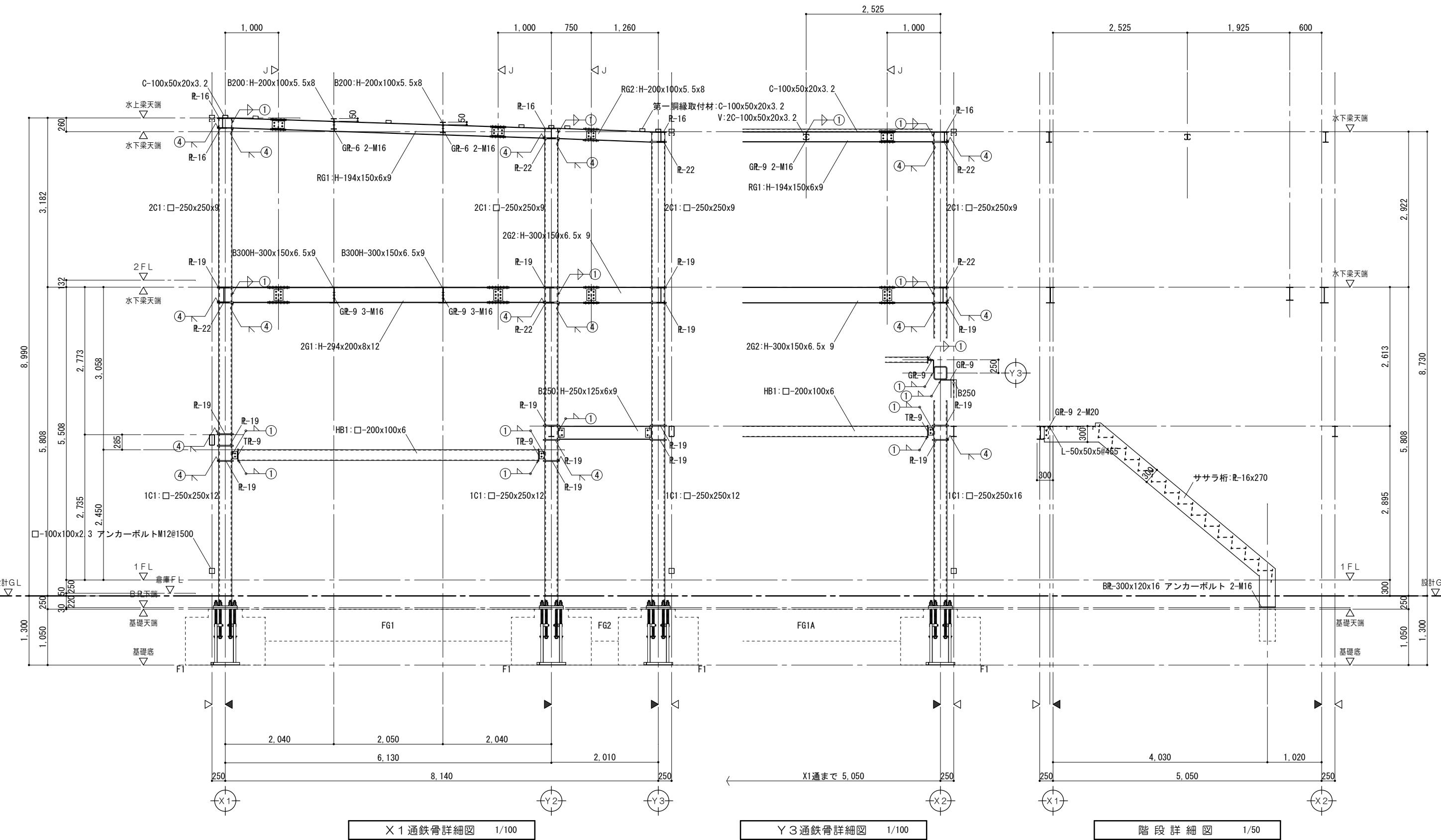
型鋼管：BCR295

符 号	2C1
断 面	
部 材	□-250x250x9
細 長 比 (最大値)	$\lambda_x = 93.8$ $\lambda_y = 66.0$
備 考	
符 号	1C1
断 面	
部 材	□-250x250x12
細 長 比 (最大値)	$\lambda_x = 107.9$ $\lambda_y = 85.9$
備 考	
柱 脚	<p>柱脚</p> <p>450</p> <p>100 125 100</p> <p>100 125 100</p> <p>450</p> <p>100 125 100</p> <p>100 125 100</p> <p>50 95 80</p> <p>80 95 80</p> <p>50 95 80</p> <p>50 95 80</p> <p>225 225</p> <p>1,050</p> <p>32</p> <p>B PL下端</p> <p>基礎天端</p> <p>△ 基礎下端</p>
ベースプレート	P-450x450x32
アンカーボルト	8-M33
備 考	ベースパック 25-16V 特C

大梁リスト		使用材料	H形鋼：SN400B			
符号	部材	継手・端部接合部				備
		圧 (厚×幅、高さ×長さ)	HTB	TYPE	Pc	
RG1	H-194x150x6x9	F 2R- 9x150x290 4R- 9x 60x290	16-M16 L=55	C	60	
		W 2R- 6x140x230	4-M16 L=50			
RG2	H-200x100x5.5x8	F 2R-16x100x290	16-M16 L=55	C	60	
		W 2R- 6x140x170	4-M16 L=50			
2G1	H-294x200x8x12	F 2R- 9x200x410 4R- 9x 80x410	24-M20 L=65	C	60	
		W 2R- 9x200x170	6-M20 L=65			
2G2	H-300x150x6.5x9	F 2R- 9x150x290 4R- 9x 60x290	16-M20 L=65	C	60	
		W 2R- 9x200x170	4-M20 L=60			

小梁・雑部材リスト		使用材料	H形鋼：SS400、軽量形鋼：SSC400 角型管：STKR400			
符号	部材	継手・端部接合部				備考
		R (厚×幅、高さ×長さ)	HTB	TYPE	Pc	
B300	H-300x150x6.5x 9	GR-9	3-M16 L=50	J	60	
		基端溶接				片持ち梁基端
		F 2R- 9x150x290 4R- 9x 60x290	16-M20 L=65	C	60	片持ち梁中間継手
		W 2R- 9x200x170	4-M20 L=60			
B250	H-250x125x6 x 9	GR-6	2-M16 L=45	J	90	
B200	H-200x100x5.5x 8	GR-6	2-M20 L=45	J	60	
B150	H-150x 75x5 x 7	GR-6	2-M16 L=45	J	60	
V	2C-100x50x20x3.2	GR-9	2-M16 L=50	J	90	部材芯二大梁芯
HB1	□-200x100x6	GR-9	2-M20 L=50	M	60	鉛直方向強軸
胴縁	C-100x50x20x2.3	GR-4.5	2-M12 L=35	J	50	@ 6 0 6 接合部：中ボルト
ヨコ開口補強1	□-150x100x4.5	GR-6	2-M12 L=140	J	50	鉛直方向強軸 接合部：中ボルト
ヨコ開口補強2	C-100x50x20x2.3	GR-4.5	2-M12 L=35	K	50	接合部：中ボルト
タテ開口補強1	□-100x100x2.3	GR-6	2-M12 L=140	J	50	鉛直方向強軸 接合部：中ボルト
タテ開口補強2	C-100x50x20x2.3	GR-6	2-M12 L=35	K	50	接合部：中ボルト
ササラ柾	R-300×16	GR-9	2-M20 L=55		90	
段床	R-6	基端溶接				
水平プレース	1-M16	GR-9	2-M16 L=40	K	60	JIS規格品





X 1通鉄骨詳細図 1/100

Y 3通鉄骨詳細図 1/100

階段詳細図 1/50

## 凡例

柱芯を示す

壁芯を示す

継手位置を示す

電気設備工事特記仕様書	
I. 工事概要	
1. 工事名称	海浜公園内陸上競技場改修工事
2. 工事場所	津市 末広町 地内
3. 建物概要	1. 管理棟 RC造 2階建 延べ面積 448.00m <sup>2</sup> 用途区分(1) 項  3. サッカーゴール等収納庫 S造 平屋建 延べ面積 234.00m <sup>2</sup> 用途区分(14) 項  4. 陸上器具庫 S造 平屋階建 延べ面積 300.00m <sup>2</sup> 用途区分(14) 項  5. 写真判定棟 S造 2階建 延べ面積 95.90m <sup>2</sup> 用途区分(15) 項  6a・6b. 屋外トイレ RC造 平屋建 延べ面積 12.67m <sup>2</sup> 用途区分(※) 項  7. スタンド 棟 RC造 2階建 延べ面積 568.26m <sup>2</sup> 用途区分(1) 項  用途区分は消防法施行令別表第一による表記
4. 工事種目	下記において●印を付した工事を対象とする。 ●電力設備 ●受電設備 ●電力貯蔵設備 ●発電設備 ●通信・情報設備 ●中央監視制御設備 ●医療関係設備 ●構内配電線路 ●構内通信線路 ●その他
II. 共通仕様	
前面及び特記仕様書に記載されていない事項については下記による。	
・国土交通省大臣官房官庁營繕部監修 「公共建築工事標準仕様書」(建築工事編・電気(機械)設備工事編 各令和4年版) 「公共建築改修工事標準仕様書」(建築工事編・電気(機械)設備工事編 各令和4年版) 「公共建築設備工事標準図」(電気設備工事編・機械設備工事編 各令和4年版)	
・電気設備に関する技術基準を定める省令(電気設備技術基準) ・電気工事業の業務の適正化に関する法律 ・電気工事士法 ・労働安全衛生法 ・消防関連法規(条例・所轄署指導要領を含む。) ・電力会社供給約款 ・その他関連法令、関連諸基準	
III. 一般共通事項	
下記の該当する項目を適用する。また、選択する項目は、●印のついたものを適用する。	
1. 一般事項	
(1)工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各施工基準に準拠し監督指示の下に入念かつ誠実に施工すること。 (2)設計図書に定められた内容、現場の納まり・取り合い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑惑、設計図書のとおりに施工することで将来不具合が発生しうると予想される場合については、その都度、監督員と協議すること。 なお、設計図書のとおりの施工であっても使用上の不具合が発生した場合は、協議のうえ改善策を講じること。 (3)他工事との取合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。調整不足による意匠的な仕上がり不備や不具合が発生した場合は、監督員の指示により手直し施工を行うこと。	
2. 足場	
設置する足場について、「手すり先行工法等に関するガイドライン(厚生労働省平成21年4月)」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり据置き型式又は(3)手すり先行工法による足場方式により行うこと。	
外部足場の種別(参考) : 脚立・棚足場・その他( ) 外部足場の種別(参考) : 手摺先行設置枠組本足場・移動足場・高所作業車・その他( ) 外部足場設置範囲(参考) : 外部改修部・設備改修部・昇降用・転落防止防護シート等による養生・適用する・適用しない	
・足場の組立て後、足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行い記録を保存すること。 つり足場、張出し足場又は高さが10m以上の足場で、組立てから解体までの期間が60日以上ものについては、組立て後市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。 なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とす。	
1) 足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者 2) 勤務する労働安全コンサルタント(区分が土木又は建築である者や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等第88条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参考者」に必要な資格を有する者 3) 全国建設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1)又は2)に掲げる者と同等の知識、経験を有する者	
3. 三重県産業廃棄物税	
本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には、完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に、別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して、当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。 なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表(マニフェストの数量の集計)を超えて請求することはできない。	
4. 電気工事の種類	
・一般電気工事 ●自家用電気工事	
5. 電気工事士	
電気工事士法の区分により施工するものとし、契約電力が500kW以上の電気工事物においても、第一種電気工事士により施工するものとする。	
6. 電気工事業の業務の適正化に関する法律	
電気工事の施工場所ごとに、その見やすい場所に、氏名又は名称、登録番号その他の経済産業省令で定める事項を記載した標識を掲げなければならない。	

7. 電気保安技術者  
電気工作物に係る工事は電気保安技術者を配置し、工事期間中の電気工作物の保安業務を行う。  
また、電気主任技術者が選任されている施設においては、電気主任技術者に工事内容の説明を行い、工事の調整にあたる指導を受けるものとする。  
・受注者負担 ●不要 ●その他( )

8. 品質管理  
工事施工に関して、着手前・施工途中・施工後の自主検査を実施すること。  
チェックリスト等を作成し、管理を行うこと。

9. 出来形管理  
以下の項目について、出来形管理の対象として管理を行うこと。  
① 各種盤据付  
耐震強度(設計標準震度、アンカーの種類・サイズ確認・埋め込み深さ)  
基礎寸法  
水平垂直  
② 配管・配線工事  
支持間隔  
③ スイッチ類の取付高さ

10. 測定機器の校正等  
試験に使用する計測器類は2年以内の校正証明書(写)又は有効期限内の精度保証書(写)等を提出する。  
また、照度計、騒音計、振動レベル計等の特定計量器を用いて計測する場合は、計量法に基づく検定に合格し、かつ検定有効期限内のものを使用する。

11. 施工計画等  
受注者は施工に先立ち、次の書類を提出し監督員と打合せを行う。  
なお、書類の作成においては、関連する関係者と十分に調整すること。  
① 総合施工計画書  
包含工事の場合は、電気設備工事施工計画書とする。  
② 工種別施工計画書(施工要領書)  
各種工種ごとに作成し、停電及び搬入計画書も作成する。  
③ 施工図(プロット図、平面図、展開図、各種詳細図)  
主要機器、重量機器、3kg超過吊具類等については、固定方法、吊り方法等の詳細図を作成し、十分な耐震性能を確保する施工方法を提案すること。  
④ 耐震計算書  
照度分布図

12. 機材等  
工事に使用する材料及び機器等については、次の書類を提出する。  
① 使用機材届出書  
② 機器明細図  
③ 各種計算書  
設計図書による他、監督員の指示による。

13. 完成図書  
作成する( ● 完成図 ● 保全に関する資料 ● ( ))  
完成図作図範囲(設計図を訂正)  
完成図はCADにより作成することとし、著作権(著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む)にかかる使用権は発注者に移譲する。また、製本2部(原図サイズ)により提出すること。

14. 工事写真  
営繕工事写真撮影要領(国土交通省大臣官房官庁營繕部監修(最新版))に従い、撮影すること。  
なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について(令和5年3月1日付け国営建技第14号)」による。

15. 施工条件  
監督員及び関係部局と協議調整し決定すること。  
(1)施工可能日  
・指定なし  
・一部指定あり(振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等)  
●指定あり  
指定日(・施設休業日 ● 打ち合わせ ● その他( ))  
(2)施工可能時間帯  
・指定なし  
・一部指定あり(振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等)  
●指定あり  
指定時間(・( )時~( )時 ● 打ち合わせ ● その他( ))  
(3)その他( )

16. 事故の発生時  
工事施工中に事故が発生した場合には直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出しなければならない。  
なお、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聽取調査、検証等に協力すること。

17. 建築副産物情報交換システムの利用  
受注者は工事着手前に「再生資源利用計画書」(建設資材の搬入がある場合)及び「再生資源利用促進計画書」(建設副産物の搬出がある場合)を作成し、施工計画書に含めて監督員へ写しを提出するとともに法令等に基づき、再生資源利用計画書及び「再生資源利用促進計画書」を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。  
また、工事完了後には「再生資源利用実施書」(建設資材の搬入があった場合)及び「再生資源利用促進実施書」(建設副産物の搬出があった場合)をすみやかに作成し、監督員へ写しを提出すること。  
なお、各計画書及び実施書の作成等は、JACICが運営する「建設副産物情報交換システム」に登録のうえ、行うこと。

18. 発生件の処理等  
・本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事である。  
分別解体等及び特定建設資材の再資源等の実施について適正な措置を講ずることとする。工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。

分別解体等の方法  
工種・新築・増築・修繕・模様替・解体・その他( )  
分別解体の方法・手作業・手作業・機械作業併用

(1)引き渡しを要するものは下記のとおりとし、それ以外は別途監督員の指示による。  
( )

(2)特別管理産業廃棄物  
・変圧器・コンデンサ・その他( )  
現場内の監督員の指定する場所へ保管するものとする。  
なお、施工に際してPCB等特別管理産業廃棄物及び疑わしき機器等を発見した場合は、監督員に報告し対応を協議するものとする。

(3)現場内において再利用を図るもの  
・発生土・その他( )

(4)再資源化を図るもの  
・コンクリート塊・アスファルトコンクリート塊・建設発生木材・( )

(5)水銀使用製品産業廃棄物として取り扱うもの  
●蛍光ランプ・HIDランプ(高輝度放電ランプ)・その他( )  
「水銀廃棄物ガイドライン 第3版」(令和3年3月 環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物規制課)に基づき適切に処理すること。

(6)引き渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、再生資源の利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他の関係法令に従い適正に処理し、監督員に報告すること。  
(マニフェストA、B2、D票を提示すること。)

19. 官公署への手続き  
工事の着手、着工、完成にあたり、関係官公署への必要な届出、手続き等を遅滞なく行う。なお、当該手続きに係る費用は受注者の負担とする。  
●消防設備関係 ●電気工作物関係 ●受電関係 ●通信関係 ●建設工事関係 ●その他( )

20. 消防法関係の手続き  
(1)消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成  
・本工事( ● 建築工事・電気設備工事・機械設備工事) ● 別途工事  
(2)防火対象物使用開始届出書  
書類の作成(電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入)を行うこと。

21. 工事用仮設物  
構内への設置 ●できる(施設管理者と協議) ●できない

22. 工事用電力  
構内既存の施設  
・利用できる(・有償・無償) ●利用できない  
本工事で新規受電した時からの電力料金は本工事に含まれる。また、本受電後、引渡しまでの電気主任技術者の選任及びこれに伴う費用負担も本工事に含まれる。

23. 工事用水  
構内既存の施設  
・利用できる(・有償・無償) ●利用できない

24. 工事中等の保安監理  
電気工作物の範囲が変更になった場合、工事着手から引渡しまでの電気保安管理等にかかる費用は本工事に含まれる。

25. 搬入計画  
大型機器、重量物等の搬入前に、搬入経路の有効寸法(扉、天井高さ、搬入経路上の曲がり等)、障害物(足場等)、養生方法、運送車両、揚重機械、搬入機械の種類、台数及び数量、雨天の場合の処置、受入検査の方法等を記載し監督員に提出する。

26. 製品確認  
発注者及び受注者の協議により仕様を決定し、製作するような規格品でない製品並びに監督員が指定する製品については、試験及び検査等を行う機器が整備された施設内において、監督員が製品の確認をするものとする。

27. 機材等の検査及び試験  
検査及び試験を行なうべき機材等は、設計図書によるほか、監督員の指示による。

28. 完成確認及び完成検査時等の電源確保  
機器の動作確認、電圧、極性、相回転等確認できるように電源を確保すること。

29. 完成時の操作説明  
総合盤等操作の必要な機器については、使用開始前に操作説明を行なうものとする。また、必要に応じて操作説明書、操作注意事項書を作成し、機側に備えるものとする。

30. 不正軽油の使用の禁止  
(1)工事現場で使用し、又は使用させる車両(資機材の搬出入車両を含む)並びに建設機械等の燃料として、不正軽油(地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう)を使用してはならない。  
(2)受注者は、県が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。  
(3)受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに正措置を講じなければならぬ。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに正措置を講じようとする。ただし、指定場所及びその他の建築意匠上、必要な箇所の露出ブルボックスは指定色焼付塗装とする。

31. 露出配管  
(1)雨線外など水気のある場所に施設する場合は、U字配管を行わない。  
(2)附属品は、ねじ込み形を使用する。  
(3)壁面配管で人が容易に触れるおそれのある部分(2m以下)の配管には、突起のない支持物又は保護カバーを使用する。  
(4)配路部分では床配管を避け、天井配管の場合は原則2.1m以上とする。  
(5)監督員の指示がある場合は、上記に係わらずその指示に従う。

32. 合成樹脂管  
(1)合成樹脂管の管端には、ブッシングを取り付ける。  
(2)原則として屋外の露出には使用しない。(PF管)

33. 予備配管等  
埋込型分電盤からの立上り予備配管は、予備回路が4回路以下は(PF22)を1本、5回路以上は(PF22)を2本施工する。スラブ天井の場合は、天井又は梁下2.00mmまで立上げ、位置ボックスを取付ける。

34. 鋼管の耐震処置  
建物引込部の配管の耐震処置  
建物のエキスパンションジョイント部の記録の耐震処置 ●行う ●行わない

35. 最上階の埋込配管  
最上階のコンクリート屋根スラブへの埋込配管は、原則として行わない。

36. 露出配管  
(1)雨線外など水気のある場所に施設する場合は、U字配管を行わない。

37. 附屬品  
壁面に特記なき場合は、溶融亜鉛メッキ鋼材製のボルト及びアームは塗装しなくてもよい。ただし、図面に指示がある場合はその指示による。

38. 防水処理  
溶融亜鉛塗料を十分に塗布すること。(監督員が指示した場所は除く。)

39. 金属製電線管等の塗装  
(1)露出配管、露出ボックス、鋼製ブルボックス等のうち下記の部分には、塗装を施す。  
1)屋外、屋内(電気室、機械室、EPS、居室、廊下)、その他建築意匠上必要な箇所。  
2)図面に特記なき場合は、溶融亜鉛メッキ鋼材製のボルト及びアームは塗装しなくてもよい。  
3)温湿度、水気のある場所及びコンクリート埋込みの金属製位置ボックスの内面には絶縁性防錆塗料を十分に塗布すること。(監督員が指示した場所は除く。)

40. 仮設貫通部の金属配管には錆止め塗装を施すこと。

41. ブルボックス  
(1)屋外形、特殊な形状又は一辺が800mm以上のものは、製作図を提出すること。  
(2)屋外形ブルボックスはボックス内に支持ボルトが突出しない構造とし、取付部にはコーキングを行う。

42. 予備スリーブ  
梁下に配管・配線スペースがない場合には、1スパンに2本程度を予備スリーブとして埋込む。  
なお、防火区画貫通スリーブは、防火区画処理を行うこと。

43. ポックスタイプ  
位置ボックス及びジョイントボックス類は、特記なき場合、原則として金属製とする。

44. 軽量簡易切のボックス  
軽量簡易切に位置ボックスを固定する場合は、ボルト等により堅固に固定する。

45. ブルボックス  
(1)屋外形、特殊な形状又は一辺が800mm以上のものは、製作図を提出すること。  
(2)屋外形ブルボックスはボックス内に支持ボルトが突出しない構造とし、取付部にはコーキングを行う。

IV. 施工仕様  
下記の該当する項目を適用する。また、選択する項目は、●印のついたものを適用する。

1. 既設設備等の調査  
既設設備等の改修を含む場合、他の設備、施設運営に影響をきたさないよう、現地工事着工前に十分な調査を行うこと。

(1)地中埋設管路  
1)項目 ●埋設配管 ●構造物 ●その他( )  
(2)調査範囲 ●埋設ルート ●その他( )  
(3)貫通及びはつり  
1)項目 ●鉄筋 ●配管 ●その他( )  
(4)既設との取合い  
1)項目 ●施工部分 ●その他( )  
2)調査範囲 ●接続箇所 ●増設箇所 ●その他( )

2. 施工前の測定等  
改修工事にあたっては、工事範囲の既設機器の動作確認及び絶縁測定等を着工前に、監督員に報告すること。

3. 耐震基準  
耐震措置の計算及び施工方法は、次の基準を適用する。  
(1)「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準 平成25年版」(国土交通省大臣官房官庁營繕部)  
(2)「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」

4. 耐震施工  
(1)想定される地震に施工する設備を対応させる。  
(2)耐震計算書を監督員に提出する。

5. はつり  
(1)穴開け及び補修 ●なし ●あり(貫通場所及び口径は別図による)  
(2)溝はり及び補修 ●なし ●あり(はつり深さは別図による)

6. あと施工アンカー  
性能確認試験及び施工確認試験 ●行う ●行わない

7. 基礎の記録ビット  
基礎に記録ビットを設ける場合、ビットの寸法は敷設するケーブルの曲げ半径、线条、将来増設時の作業性、事故時の対応、排水等に配慮する。

8. 配管・配線の耐震処置  
建物引込部の配管の耐震処置  
建物のエキスパンションジョイント部の記録の耐震処置 ●行う ●行わない

9. 最上階の埋込配管  
最上階のコンクリート屋根スラブへの埋込配管は、原則として行わない。

10. 露出配管  
(1)雨線外など水気のある場所に施設する場合は、U字配管を行わない。  
(2)附属品は、ねじ込み形を使用する。  
(3)壁面配管で人が容易に触れるおそれのある部分(2m以下)の配管には、突起のない支持物又は保護カバーを使用する。  
(4)配路部分では床配管を避け、天井配管の場合は原則2.1m以上とする。  
(5)監督員の指示がある場合は、上記に係わらずその指示に従う。

11. 合成樹脂管  
(1)合成樹脂管の管端には、ブッシングを取り付ける。  
(2)原則として屋外の露出には使用しない。(PF管)

12. 予備配管等  
埋込型分電盤からの立上り予備配管は、予備回路が4回路以下は(PF22)を1本、5回路以上は(PF22)を2本施工する。スラブ天井の場合は、天井又は梁下2.00mmまで立上げ、位置ボックスを取付ける。

13. 金属製電線管等の塗装  
(1)露出配管、露出ボックス、鋼製ブル

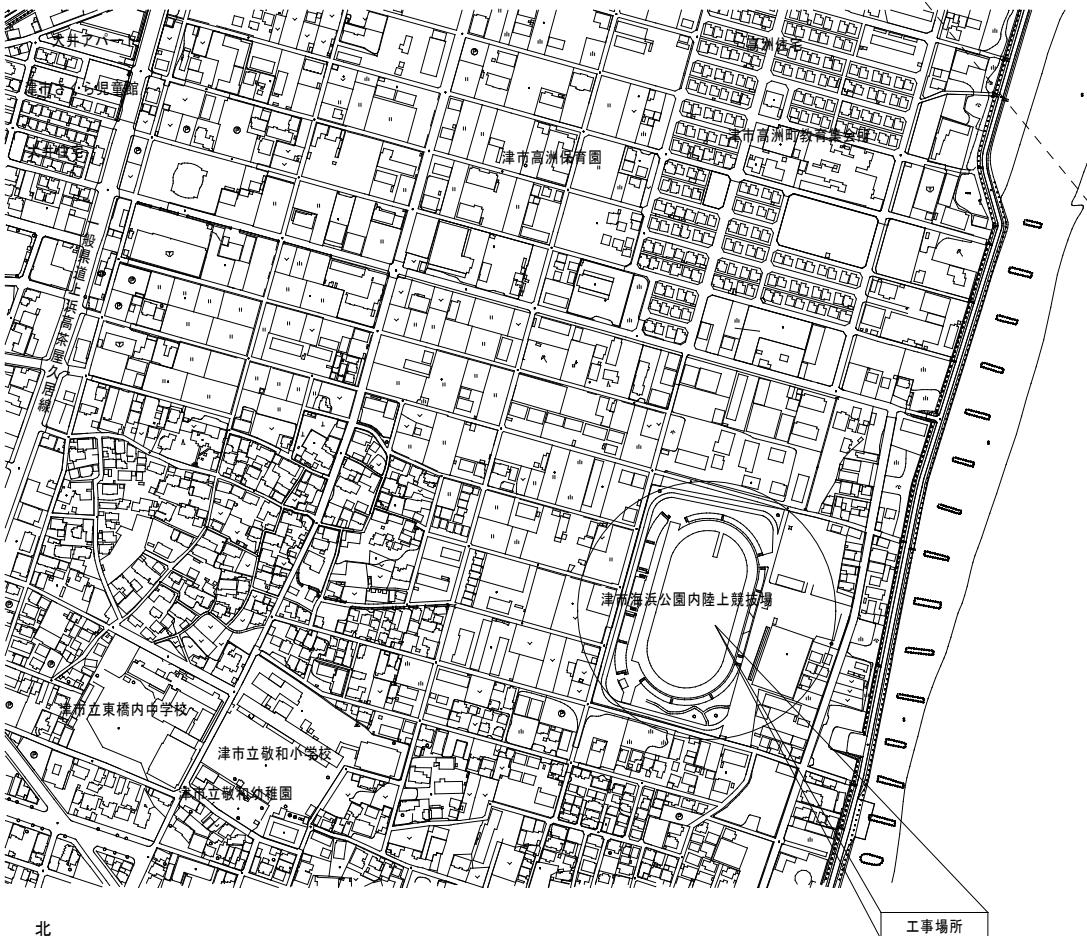
19. ポルト・ナット類 屋外に使用する支持金物及びポルト、ナット類で特記のないもの ●ステンレス ・溶融亜鉛メッキ仕上げ	V. 機器仕様 下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。 なお、詳細については図面による。	【受電設備】 5. 受電設備 (1)既設との取り合い (2)機器類 (3)盤類 (4)交流遮断器 (5)断路器 (6)負荷開閉器 (7)変圧器 (8)進相コンデンサ (9)直列リクトル (10)キューピクル等 (11)基礎 (12)配線ビット及び蓋 (13)設置場所 【電力設備】 1. 電灯設備 (1)既設等との取り合い (2)機器類 (3)一般照明器具 1) 形式 ●公共型 ●一般型 2) 灯具 ●LED灯 ●その他( ) 3) 用途 ●屋内用 ●屋外用・防災用 4) 環境 ●普通地域 ●塩害地域 5) 照明器具は、認証書又は認定書、試験成績書を提出すること。 1) センサ類 ●明るさセンサ ●人感センサ ●タイマ・調光スイッチ 2) 調光方式 ●連続調光・段階調光 ●ON/OFF制御 3) 制御方式 ●有線 ●無線通信 1) 照明用ボルト ①材質 ●アルミニウム製・鋼製・溶融亜鉛メッキ ●その他( ) ②配線用遮断器又はカットアウトスイッチ内蔵型とする。 2) 基礎 ●本工事・別途工事・既設利用 ●その他( ) 3) 灯具 ●LED灯 ●その他( ) 4) 電源 ●商用電源(60Hz) (・200V・100V) ●その他( ) 5) 制御 ●EISイッチ ●タイマ ●その他( ) 6) 接地 ●単接地 (・本工事・別途工事・既設利用) ●共用 ●その他( ) (6)コンセント等 ●一般型 ●防水型 ●バージョンアットリット (・固定型・上下動型(アップ式を含む)) 1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)に定める事項に加えて、施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上(キャビネットのサイズ等により取付できない場合を除く。)とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5) 総線抵抗測定用接地端子は盤内の作業のしやすい場所に設ける。 6) 配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。	【発電設備】 10. 燃料式発電設備 (1)用途 (2)設置場所 (3)機器 (4)発電装置 1) 用途 ●防災電源専用(防災認定品) ●防災電源兼用(防災認定品) 2) 区分 ●常用 ●非常用 3) 動作時間 (停電検出後) ●10秒以内 ●40秒以内 4) 連続運転時間 ●2時間以上 ●10時間以上 ●24時間以上 5) 発電機 ①電気方式 ●三相3線式 (・6.6kV・200V・( )V) ・単相3線式 (200V/100V) ・単相2線式 (・200V・100V・( )V) ②定格周波数 60Hz ③定格出力 ( ) kVA 6) 原動機 ①定格出力 ( ) kW以上 ●( ) ps以上 ②冷却方式 ●ラジエータ方式 ●その他( ) 1) 種類 ●軽油・灯油・A重油 ●その他( ) 2) 引渡時燃料 ●満タン ●指定なし ●その他( ) 6) 燃料槽 1) 形式及び容量 ●パッケージ搭載タンク ( ) リットル ●燃料小出槽 ( ) リットル ●主燃料槽 ( ) リットル ●屋外型 (・ステンレス製・鋼製) ●屋内型 (・ステンレス製・鋼製) 7) 給油ボックス 1) 材質 ●( ) 2) 油量指示計 ①電動ポンプ ●歯車ポンプ ●油中ポンプ ②手動ポンプ (ウイニングポンプ) ●有 ●無 3) 電動ポンプ水没防止カバー ●有 ●無 8) 燃料移送 1) 電動ポンプ (歯車ポンプ) ●油中ポンプ 2) 手動ポンプ (ウイニングポンプ) ●有 ●無 9) 基礎 ●( ) 11. その他 発電設備 【通信・情報設備】 12. 構内情報 通信網設備 13. 構内交換設備 (1)機器 ●端子盤類 ●アウトレット 1) 種別 ●構内交換装置 (・デジタルPBX・IP-PBX・VoIPサーバ) ●ボタン電話装置 ●その他( ) 2) 局線応答方式 ●局線中継台 ●分散中継台 ●ダイヤルイン ●ダイレクトインダイヤル ●ダイレクトインライン ●その他( ) 3) 保安用接地 ●本工事 ●別途工事 ●既設利用 ●その他( ) 4) 本配電盤(MDF) ●自立フレーム (・片面形・両面形) ●交換機一体型 ●壁掛け (・その他( )) 5) 電源装置 ①形式 ●別置型 ●一体形 ●その他( ) ②停電補償時間 ●30分以上 ( ) ●一般電話機 ●多機能電話機 (PHS方式) ●IPコードレス電話機 (無線LAN方式) ●その他( ) 6) 端子盤類 1) 端子盤 ●中継端子盤 (I DF) ●室内端子盤 2) 中継端子盤には実装数の20%以上、室内端子盤には10P以上の接続端子板スペースを見込む。 ●ローテーションハウジング (・固定型・上下動型(アップ式を含む)) ●壁コンセント ●その他( ) 7) アウトレット ●( ) 14. 情報表示設備 (1)設備 (2)リモコン装置 (3)出退表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置 1) 機器 ●表示盤 ●表示式 ●その他( ) 2) 表示盤 ①表示方式 ●表示窓式 ●その他( ) ②施工 ●本工事 ●別途工事 ●既設利用 ●その他( ) 3) 検出装置 ①検出方式 ●電極・無電圧接点 ●その他( ) ②施工 ●本工事 ●別途工事 ●既設利用 ●その他( ) 4) 図面に特記明示がない場合、検出装置への接続は本工事とする。 ●仕様詳細は別図による。
--	---	---	---

特 記 事 項	意見を聞いた建築設備士：エーエフ環境技術オフィス 水谷浩（建築設備士 第28D1-0077MT号）	MAENO 株式会社 前野建築設計 管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号 代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第378328号 三橋 五百子	設計担当 一級建築士 第360917号 加藤 早妃	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	法適合確認 作図 水商 検査 三橋 工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事 図面名称 電気設備 特記仕様書2	設計日 縮尺 A3:1/100 面番号 E002 (原図:A2)
------------------	---	--	--	----------------------------	---------------------------	---------------------------	---	---

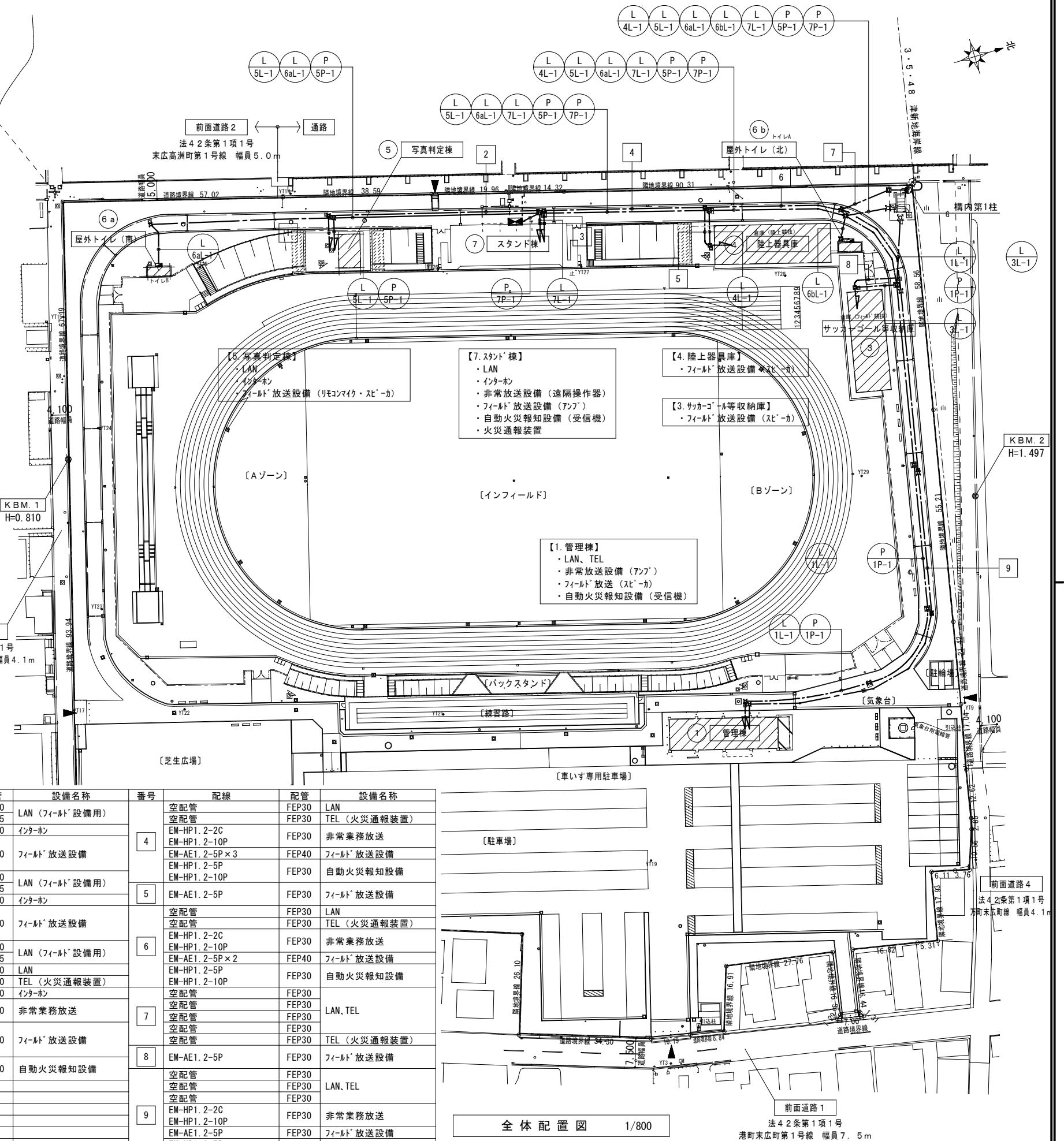
16. 拡声設備
(1)機器
(2)増幅器
(3)付属機器
(4)操作装置
(5)スピーカ
●増幅器・付属機器・操作装置 ●スピーカ・その他( )
●非常放送兼用(仕様は非常放送装置を参照)
・専用出力(360)W
・出カインピーダンス・Lo形・Hi形
・オーディオミキサー・リモコンマイク・電源制御器
・録音再生装置(・CD・メモリオーディオ・その他( ))
・アナウンスレコーダ(・チャイム・独自メッセージ・プログラムタイマ・その他( ))
・有線マイクロホン
・無線マイクロホン(・電波式(・アナログ・デジタル)・赤外線式)
・ラジオチューナ(・FM・AM・その他( ))
・スピーカ切替装置・その他の機器( )
・卓型・キャビネットラック型 ●壁掛型・その他( )
●非常放送兼用(仕様は非常放送装置を参照)
・専用結線 ●1W・3W ●(5)W
・インピーダンス・Lo形・Hi形
設置場所 ●屋内・屋外・その他( )
17. 誘導支援設備
(1)設備
(2)音声誘導装置
・音声誘導装置 ●インターホン ●トイレ等呼出装置
1)検出方式 ●磁気式・無線式・画像認識式・その他( )
2)設置場所 ●屋外(防雨形)・屋内
3)機能 ●自動火災報知設備より火災報知信号を受信した場合停止する
・タイムスケジュールにより停止及び開始を可能とする
4)機器・制御装置・送信機・受信機・その他( )
5)制御装置 ●壁掛型・卓上形・複合盤組込・その他( )
6)送信機 ●壁掛型・卓上形・埋込形・その他( )
7)受信機 ●スピーカ式・イヤホン式・その他( )
1)用途 ●内部受付用 ●外部受付用・夜間訪問用・身体障害者用
・保守用・その他( )
2)機能 ●音声通話 ●映像モニタ
3)通話網 ●親子式・相互式・複合式
4)通話方式 ●同時通話式・交互通話式・その他( )
5)機器 ●親機 ●子機・その他( )
6)親機
①形状 ●壁掛型・卓上形・複合盤組込・その他( )
②送受話器 ●電話機形・マイク形・その他( )
7)子機
①形状 ●壁掛型・卓上形・埋込形・その他( )
②送受話器 ●電話機形・マイク形・その他( )
1)用途 ●トイレ呼出・受付呼出・非常通報
・その他( )
2)機器 ●親機 ●呼出スイッチ ●警報装置・その他( )
3)親機 ●壁掛型・卓上形・複合盤組込・その他( )
4)呼出スイッチ ●押ボタン式 ●引紐式・その他( )
5)警報装置 ●光・音声 ●ブザー・ベル・その他( )
18. テレビ共同受信設備
(1)受信放送
(2)機器
(3)アンテナ
・UHF・BS・CS・FM・CATV・その他( )
・増幅器・混合器・分波器・分歧器・分配器・機器収容箱
・アンテナ・その他( )
1)放送 ●UHF・BS・CS・FM・その他( )
2)マスト ●地上波用(・壁面取付・自立・既設利用)
・衛星用(・壁面取付・自立・既設利用)
・その他( )
3)自立用基礎 ●本工事・別途工事・既設利用
・その他( )
19. 監視から設備
・仕様詳細は別図による。
20. 駐車場管理設備
・仕様詳細は別図による。
21. 防犯・入退室管理設備
・仕様詳細は別図による。
22. 自動火災報知設備
(1)機器
●受信機 ●副受信機(表示装置)・中継器・発信機・感知器
・光警報装置・その他( )
(2)受信機
1)型式 ●P型1級・P型2級・R型
2)回線数 ●(10)回線( )アドレス
3)試験機能 ●自動試験機能・遠隔試験機能
4)盤形式 ●複合盤組込・自立型 ●壁掛型
・その他( )
(3)副受信機(表示装置)
1)盤形式 ●自立型 ●壁掛型・その他( )
2)回線数 ●(10)回線( )アドレス
3)表示装置の仕様詳細は別図による。
試験機能 ●自動試験機能・遠隔試験機能
1)型式 ●アドレス付 ●P型1級・P型2級
2)消火栓ポンプ起動 特記なき場合は、発信機運動方式とし、発信機表面に「消火栓起動」等の文字を併記する。
3)設置 ●単独設置 ●機器収容箱に組込・その他( )
1)型式 ●アドレス付 ●一般型
2)種類 ●熱感知器・空気管式 ●煙感知器・炎感知器
3)試験機能 ●自動試験機能・遠隔試験機能
4)機器仕様 ●防水・防爆・防食・その他( )
1)機器 ●警報装置・制御装置・同期装置
2)警報装置 ●天井付・壁付
3)同期装置 ●自走同期式・外部同期式

23. 自動閉鎖設備
(1)機器
・連動制御器 ●感知器・自動閉鎖装置・自動開錠装置
・その他( )
(2)連動制御器
1)制御対象 ●防火戸・防火シャッター・防排煙ダンパー
・非常口等の扉・その他( )
2)回線数 ( )回線(遠方復帰機構( )回路)
3)設置 ●単独(・壁掛け・自立形)・火災受信機等との複合盤
1)型式 ●アドレス付 ●一般型
2)種類 煙感知器(・2種・3種)
3)試験機能 ●自動試験機能・遠隔試験機能
4)機器仕様 ●一般・防水・防爆・防食・その他( )
1)方式 ●電磁式・ラッチ式・その他( )
2)施工 ●本工事(建築工事・電気設備工事)・別途工事
(4)自動閉鎖装置
1)方式 ●電気錠・その他( )
2)施工 ●本工事(建築工事・電気設備工事)・別途工事
(5)自動開錠装置
1)方式 ●電気錠・その他( )
2)施工 ●本工事(建築工事・電気設備工事)・別途工事
・既設利用・その他( )
24. 非常警報設備
(1)設備
●非常放送装置・非常ベル
1)消防法基準適合マーク品とする。
2)機器 ●増幅器 ●スピーカ ●非常用リモコンマイク
・その他( )
3)増幅器
①出力 (90)W
②出カインピーダンス ●Lo形 ●Hi形
③形式 ●ロングラック型・スタンダードラック型 ●壁掛け
④機能 ●マイク放送 ●連動放送(●自火報設備・緊急地震速報設備)
・その他( )
⑤用途 ●拡声設備兼用・非常放送専用
4)スピーカ
①結線 ●1W・3W ●(5)W
②インピーダンス ●Lo形 ●Hi形
③設置場所 ●屋内・屋外・その他( )
④用途 ●拡声設備兼用・非常放送専用
5)非常にリモコンマイク
型式 ●壁掛け・ラック収納形・卓上形・その他( )
(3)非常ベル(自動サインを含む)
1)機器 ●起動装置・非常ベル ●表示灯・その他( )
2)設置 ●単独設置 ●機器収容箱に組込
・消火栓ボックス(別途)に組込・その他( )
25. ガス漏れ火災警報設備
(1)機器
・受信機 ●副受信機・中継器・検知器・警報器
・その他( )
(2)受信機
1)回線数 ( )回線
2)種類 ●都市ガス用・液化石油ガス用
3)設置 ●単独(・壁掛け・自立形)・火災受信機等との複合盤
・その他( )
(3)副受信機
・設置 ●単独(・壁掛け・自立形)・火災受信機等との複合盤
・その他( )
(4)検知器
1)動作 ●単独(単独動作)・連動(受信機に伝送)
2)定格電圧 ●AC100V・DC24V(受信機等から供給)
3)ガス検知出力信号 ●有電圧出力方式・無電圧接点方式
・仕様詳細は別紙による。
【中央監視制御設備】
【医療関係設備】
【構内配電線路】
26. 構内配電線路
(1)配線方式
●地中線式(・直埋 ●管路)・架空線式(・直接・ちょう架線添架)
・建築物等添架式(・露出配管・隠蔽配管・その他( ))
・その他( )
(2)建柱
1)施工 ●本工事・既設柱利用・その他( )
2)電柱 ●コンクリート柱・鋼管柱・パンザマスト
・その他( )
3)支持材
・根かせ・根はじき・根巻き・底板
・支線(保護ガード・有・無)
4)装柱機器
5)銘板
1)機器 ●開閉器・避雷器・カットアウト・碍子
・その他( )
2)耐環境性 ●一般用・耐塩用
3)開閉器 仕様は5. 受電設備(6)負荷開閉器による。
1)機器 ●開閉器・避雷器・カットアウト・碍子
・その他( )
2)耐環境性 ●一般用・耐塩用
1)形式 ●ブロック式・現場打ち
2)施工 ●本工事(建築工事・電気設備工事)・別途工事
・既設利用・その他( )
3)ケーブル支持金物の取付 ●2箇所・4箇所・( )箇所
4)重車両の通行
・有(破壊荷重200kN以上、衝撃係数0.1(走行速度制限箇所))・無
1)鉄蓋の刻印は「強電」、「電力」又は「高圧」とする。
2)雨水の流れ込みを防ぐため防水パッキン付とする。
1)種類 ●FEP・GLT(PEラミング管)・VE・HIVE・SGP
2)標示杭埋設 ●コンクリート製・鉄製(アスファルト部分)
3)埋設標識シート ●2倍長
4)埋設標識シートの表記は弱電用であることがわかるものとする。

【構内通信線路】
27. 構内通信線路
(1)用途
●電話 ●拡声・時刻表示 ●火災報知 ●非常警報 ●インターホン
・テレビ共同受信・防犯・制御 ●その他(構内情報通信網)
●地中線式(・直埋 ●管路)・架空線式(・直接・ちょう架線添架)
・建築物等添架式(・露出配管・隠蔽配管・その他( ))
・その他( )
(3)建柱
1)施工 ●本工事・既設柱利用・構内配電線柱に添架
・その他( )
2)電柱 ●コンクリート柱・鋼管柱・パンザマスト
・その他( )
3)支持材
・根かせ・根はじき・根巻き・底板
・支線(保護ガード・有・無)
4)装柱機器
5)銘板
・有・無
1)形式 ●ブロック式・現場打ち
2)施工 ●本工事(建築工事・電気設備工事)・別途工事
・既設利用・その他( )
3)ケーブル支持金物の取付 ●2箇所・4箇所・( )箇所
4)重車両の通行
・有(破壊荷重200kN以上、衝撃係数0.1(走行速度制限箇所))・無
1)鉄蓋の刻印は「弱電」又は「通信」とする。
2)雨水の流れ込みを防ぐため防水パッキン付とする。
1)種類 ●FEP・GLT(PEラミング管)・VE・HIVE・SGP
2)標示杭埋設 ●コンクリート製・鉄製(アスファルト部分)
3)埋設標識シート ●2倍長
4)埋設標識シートの表記は弱電用であることがわかるものとする。
【その他】
28. 消火器
1)設置 ●本工事(建築工事・電気設備工事・機械設備工事)
・別途工事
2)消火器 種別( )、数量( )本
3)消火器収納箱 材質( )、数量( )面
VI. 使用資機材の適用規格
(1)以下に定めるところとする。なお、以下に定めのない資機材については、日本産業規格(JIS規格)適合品の使用を原則とする。
●電気用品安全法に定める特定電気用品又は特定電気用品以外の電気用品
・電気用品安全法適合品
●耐熱・耐火線・耐熱・耐火ケーブル
・消防庁の登録認定機関として消防庁告示に規定された耐火・耐熱電線及び耐火バスタクトの適合性検査を行い合格したもの
・第三者認証機関として(一社)日本電線工業会規格(JIS規格)への適合性検査を行ったもの
●非常用照明器具
・建築基準法に定める国土交通大臣認定品
・(一社)日本照明工業会の自主評定を受け、JIL5501適合マークが貼付されたもの
●誘導灯
・登録認定機関(一社)日本電気協会(JEA誘導灯認定委員会)の認定を受け、認定証票が貼付されたもの
●制御盤
・(一社)日本配電制御システム工業会規格(JSIA規格)適合品
●消防用加圧送水装置・不活性ガス消火設備及びハロゲン化物消火設備の制御盤、火災報警装置・総合操作盤等の認定対象品
・登録認定機関(一財)日本消防設備安全センター(消防用設備等認定委員会)の認定を受け、認定証票が貼付されたもの
●不活性ガス消火設備等の操作箱、新ガス系消火設備制御盤、緊急通報装置、非常通報装置等の性能評定対象品
・(一財)日本消防設備安全センターの性能評定を受け、評定証票が貼付されたもの
●金属フレームスイッチ
・(一社)日本電機工業会規格(JEM規格)適合品
●高圧機器(遮断器・限流ヒューズ・負荷開閉器・避雷器・断路器、特定機器以外の変圧器・計器用変成器・保護絶縁器)
・(一社)電気学会電気規格調査会規格(JEC規格)適合品
●直流電源装置(防災電源用)
・登録認定機関(一社)日本電気協会(JEA蓄電池設備認定委員会)の認定をうけ、認定証票が貼付されたもの
●交流無停電電源装置
・(一社)電気学会電気規格調査会規格(JEC規格)適合品
●自家発電装置(防災電源用)
・登録認定機関(一社)日本内燃力発電設備協会の認定を受け、認定証票(長時間)が貼付されたもの
●自家発電装置(防災電源用でないもの)
・(一社)日本電機工業会規格(JEM規格)適合品
●太陽電池モジュールの支持物
・電気設備の技術基準の解釈第4.6条第2項又は第3項の規定に適合するもの
●電話用設備(電話交換機・電話機等)
・登録認定機関(一財)電気通信端末機器審査協会(JATE)等の技術基準適合認定を受け、適合表示が貼付されたもの
●非常用放送設備
・登録認定機関(日本消防検定協会)の認定を受け、認定証票が貼付されたもの
●テレビ共同受信機器
・優良住宅部品(BL部品)の認定を受けたもので、BLマーク証紙が貼付されたもの
・(一社)電子情報技術産業協会スーパー・ハイ・ビジョン受信マーク登録品の認定を受けたもので、SHマークが貼付されたもの
●自動火災報知設備
・登録認定機関(日本消防検定協会)の認定を受け、認定証票が貼付されたもの
・特殊仕様の資機材を使用する場合は、仕様・性能等を証明する書類を監督員に提出し、監督員の承諾を得るものとする。



付近見取図 1/5000



各棟面積表							
申請建物 (新築)	番号	棟名	建築面積 (m <sup>2</sup> )	延床面積 (m <sup>2</sup> )	構造	床面積 (m <sup>2</sup> )	
						1階	2階
	1	管理棟	286.82	448.00	RC造	224.00	224.00
	3	サッカーゴール等収納庫	234.00	234.00	S造	234.00	—
	4	陸上器具庫	300.00	300.00	S造	300.00	—
	5	写真判定棟	47.95	95.90	S造	47.95	47.95
	6a	屋外トイレ(南)	12.67	12.67	RC造	12.67	—
	6b	屋外トイレ(北)	12.67	12.67	RC造	12.67	—
	小計		894.11	1,103.24		831.29	271.95
改修	7	スタンド棟	340.67	568.26	RC造	253.85	314.41
	小計		340.67	568.26		253.85	314.41
	合計		1,234.78	1,671.50		1,085.14	586.36

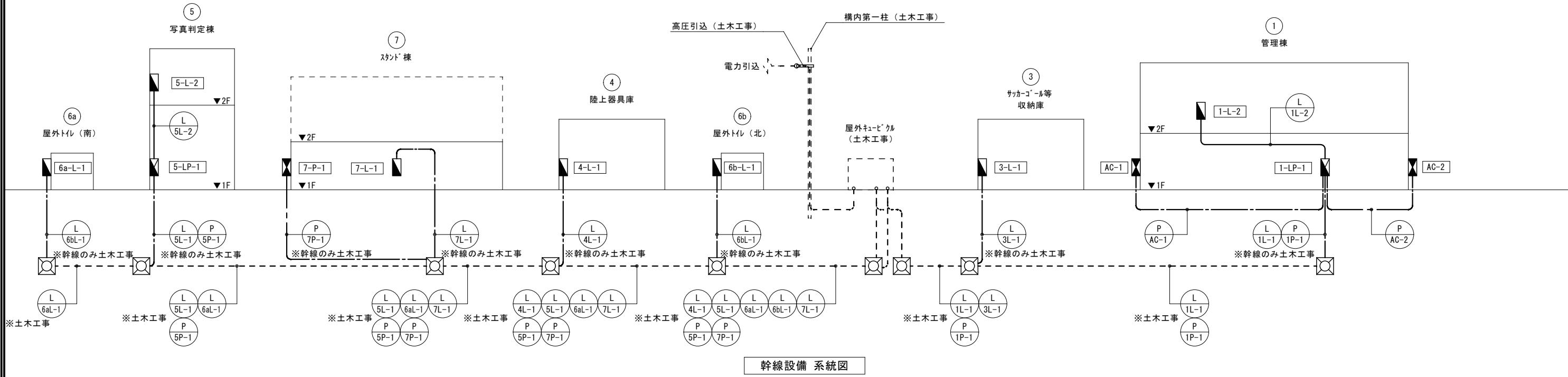
特記事項 意見を聞いた建築設備士：エーエフ環境技術オフィス 水谷浩（建築設備士 第28D1-0077MT号）

株式会社 前野建築設計  
代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝  
管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

設計担当 一級建築士 第307846号 三橋 五百子  
設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早妃  
設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作

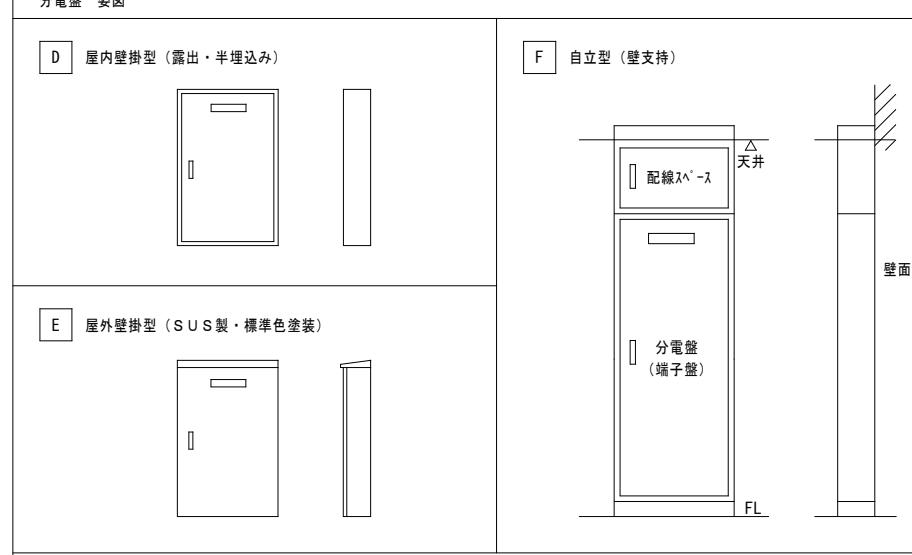
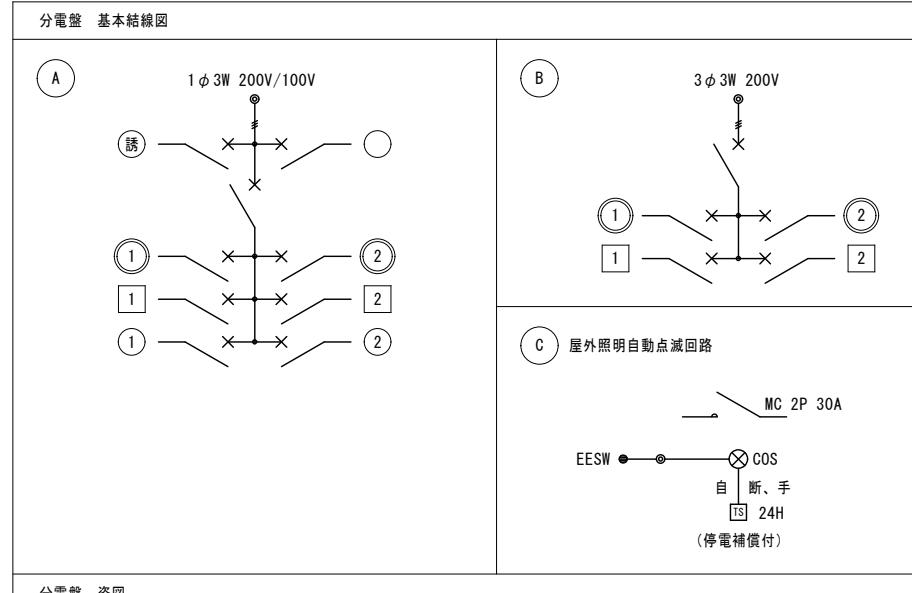
法適合確認 作図 水商  
検査図

工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事  
図面名称 【共通】電気設備工事 全体配置図  
縮尺 A2:1/600  
A3:1/845  
図面番号 E004  
(原図:A2)



## 幹線リスト

※キュービクル～各建物の分電盤のケーブルは全て土木工事、建物第一ハンドホール～分電盤の配管は工事対象

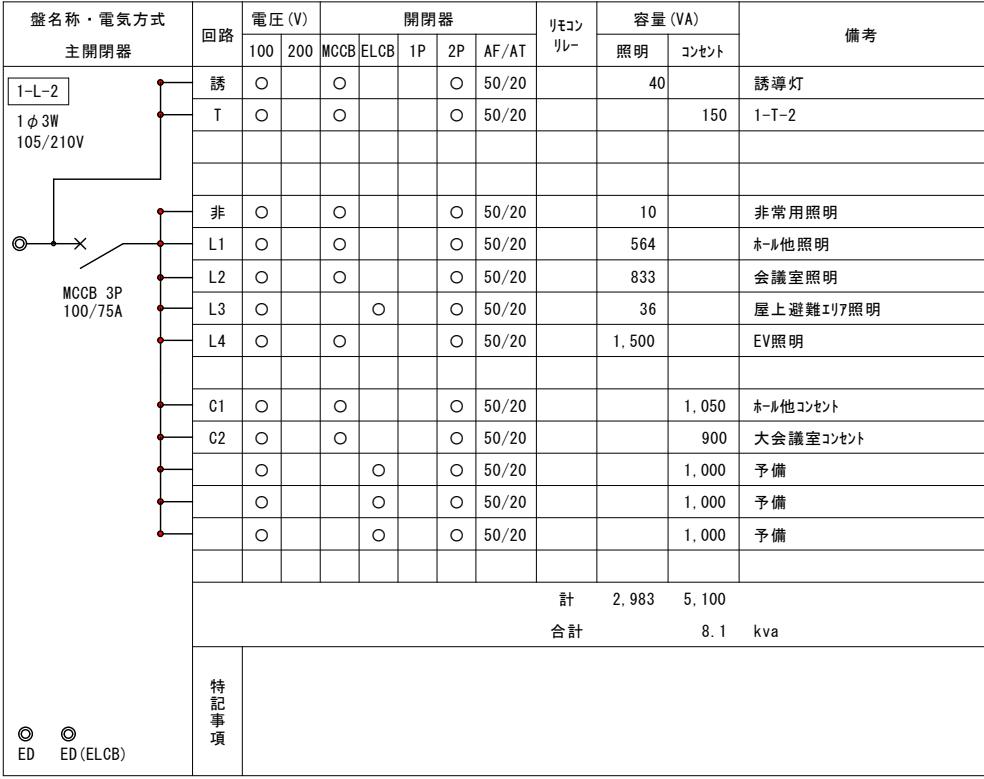


## 【特記事項】

1. 盤塗装は、標準色仕上げとする。
  2. 屏面のハンドルは、キー付きとする。
  3. 同一盤内に異種電源がある場合は、セパレーターを設ける。
  4. 盤内機器・遮断器・電磁接触器等には、回路番号と負荷名称を記入する。
  5. 中蓋の取付ビスは、脱落防止付きとする。
  6. 誘導灯・非常照明専用回路のブレーカーには、赤色ハンドルロックを取り付ける。

【回路記号】

<input type="checkbox"/>	電灯回路	100V	<input type="checkbox"/>	空調関係回路	100V
<input checked="" type="checkbox"/>	電灯回路	200V	<input type="checkbox"/>	空調関係回路	200V
<input type="checkbox"/>	コンセント回路	100V			
<input type="checkbox"/>	コンセント回路	200V			



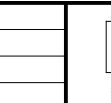
盤名称・電気方式 主開閉器	回路	電圧 (V)	負荷名称	設置場所	負荷容量 (kW)	配線遮断器			二次側配線
						MCCB	ELCB	AF/AT	
AC-1									
3φ 3W 210V									
○ — X									
MCCB 3P 225/150	1	200	PAC-4	外部西側	6.23	○	60/40	EM-CE8-4C(1C:E)	HI36
○ — X	2	200	PAC-4	外部西側	6.23	○	60/40	EM-CE8-4C(1C:E)	HI36
○ — X	3	200	PAC-4	外部西側	6.23	○	60/40	EM-CE8-4C(1C:E)	HI36
ED ED (ELCB)	合計			18.69 kW					
AC-2									
3φ 3W 210V									
○ — X									
MCCB 3P 225/125	1	200	PAC-1	外部西側	6.23	○	60/40	EM-CE8-4C(1C:E)	HI36
○ — X	2	200	PAC-2	外部西側	2.58	○	30/20	EM-CE3.5-4C(1C:E)	HI28
○ — X	3	200	PAC-3	外部西側	1.02	○	30/20	EM-CE3.5-4C(1C:E)	HI28
ED ED (ELCB)	合計			9.83 kW					

1-T-1	※総合盤内組込	1-T-2
構内情報通信	構内交換設備	拡声

### 【分電盤仕様】

- ・1-LP-1 : 総合盤内組込
  - ・1-L-2 : 屋内壁掛型（上部・下部ダブル付）
  - ・AC-1 : 屋外壁掛型（SUS製）
  - ・AC-2 : 屋外壁掛型（SUS製）
  - ・1-T-1 : 総合盤内組込
  - ・1-T-2 : 屋内壁掛型（上部・下部ダブル付）

特 記 事 項	意見を聞いた建築設備士：エーエフ環境技術オフィス 水谷浩（建築設備士 第28D1-0077MT号）



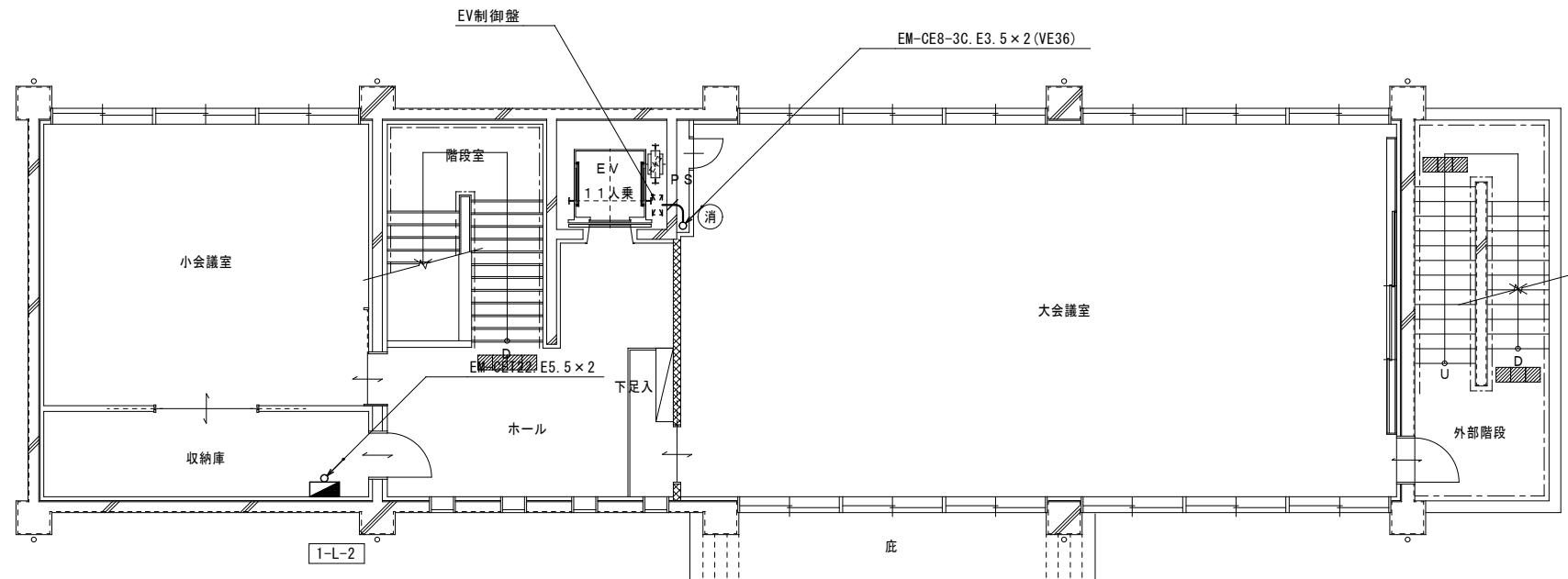
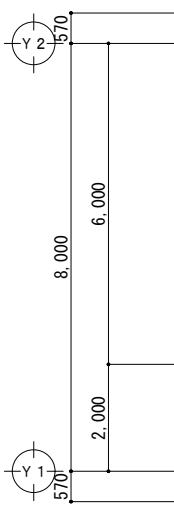
一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号  
株式会社 前野建築設計  
管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当
一級建築士 第320204号 前野 将輝	一級建築士 第307846号 三橋 五百子	一級建築士 第378328号 加藤 早妃	一級建築士 第360917号 前田 佑作



法適合確認	作図 	工事名称 海浜公園内陸上競技場改修工事
	検図 	図面名称 【①管理棟】分電盤図

	設計日
縮 尺 A2:NS A3:NS	図面番号 E006 (原図:A2)



特記なき配線は下記による。		
5.5	EM-CE5.5-3C(1C:E)(PF28)	

記号	名称	備考
■	電灯動力盤	
■	動力分電盤	
△ ED	接地極 (D種) 接地極埋設標共	
△ ED (ELCB)	接地極 (D種・ELCB) 接地極埋設標共	
□ HH	パンドホール HH : R8K-60 1200×1200×900	土木工事

【注記】  
・空調機盤、室外機への接続は金属製可とう電線管（ビニル被覆、防水）とする。

- 【AC-1】  
- PAC-4(3φ3W): EM-CE8-4C(1C:E)(H136)(F2WP38)  
- PAC-4(3φ3W): EM-CE8-4C(1C:E)(H136)(F2WP38)  
- PAC-4(3φ3W): EM-CE8-4C(1C:E)(H136)(F2WP38)

2階平面図 1/100

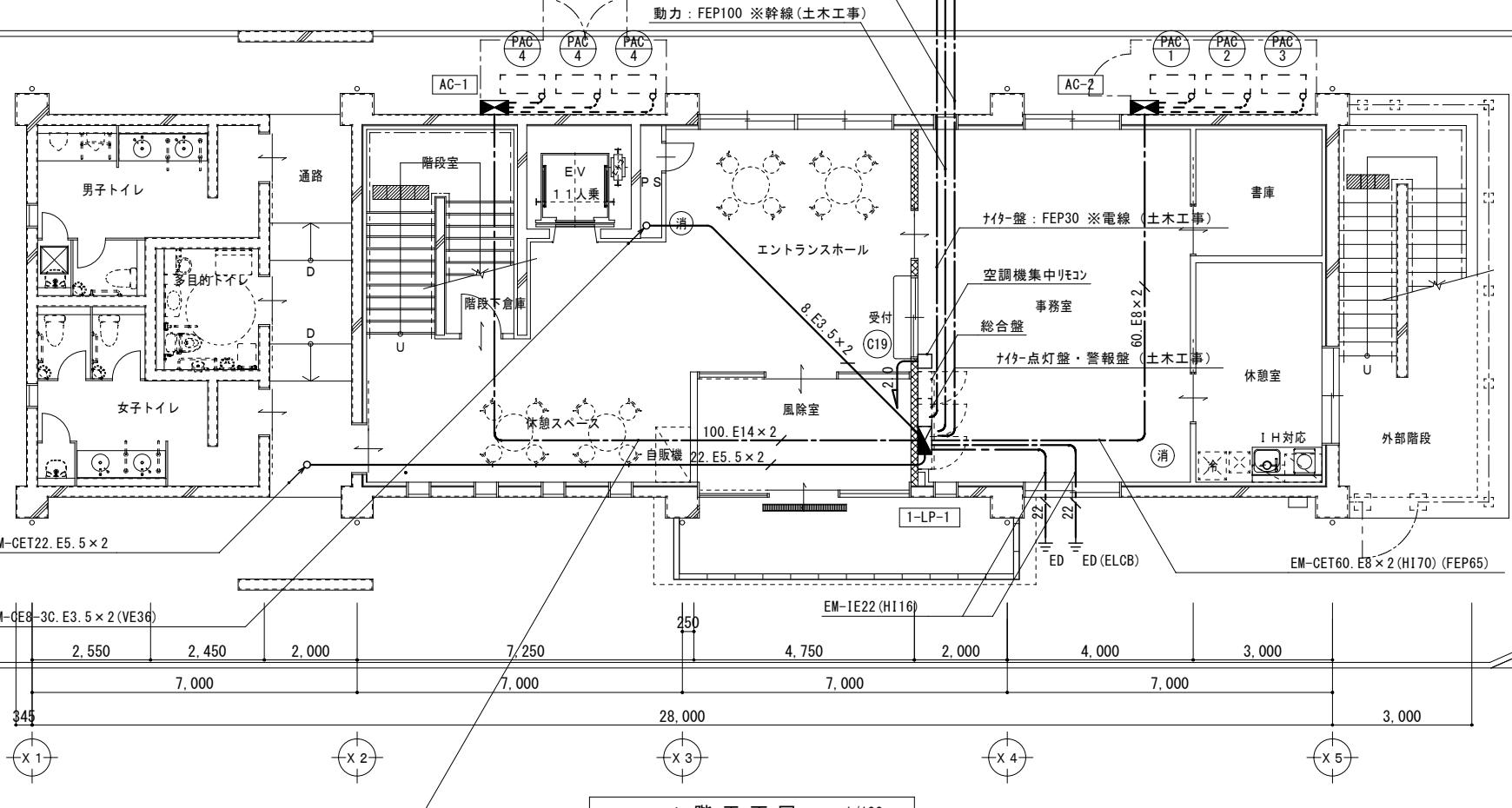
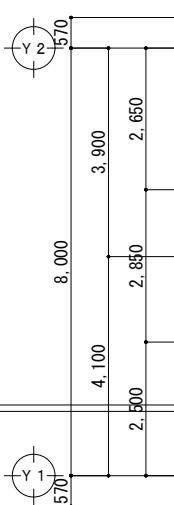
電灯: FEP100 ※幹線(土木工事)

動力: FEP100 ※幹線(土木工事)

- 【AC-2】  
- PAC-1(3φ3W): EM-CE8-4C(1C:E)(H136)(F2WP38)  
- PAC-2(3φ3W): EM-CE3.5-4C(1C:E)(H128)(F2WP30)  
- PAC-3(3φ3W): EM-CE3.5-4C(1C:E)(H128)(F2WP30)

総合盤（参考図）

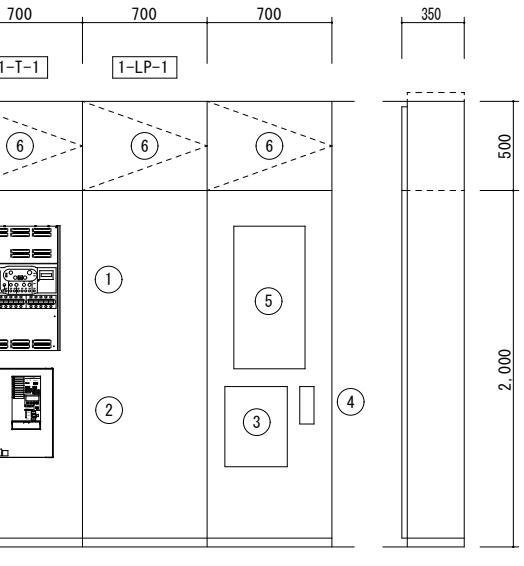
番号	名 称
①	非常業務放送アンプ
②	自動火災報知設備受信機
③	誘導灯信号装置
④	EVインターホン（EV工事）
⑤	ナイト点灯盤・警報盤（土木工事）
⑥	配線ダクト



1階平面図 1/100

【注記】  
1. 配線は天井裏ころがしとし、PS及び軽量鉄骨壁下地の立下部分はPF管にて保護すること。（立下露出部は金属線びにて保護する）  
2. 配線の接続はジョイントボックスを設けること。

総合盤 参照図（正面）



総合盤 参照図（側面）

器具参考姿図

A	LEDベースライト	B	LEDベースライト	C	LEDベースライト	D	LEDスクエアベースライト	E	LEDダウンライト
H f 3 2形高出力型2灯器具相当		H f 3 2形高出力型1灯器具相当		H f 3 2形高出力型1灯器具相当		F H P 3 2形3灯器具相当		F H T 3 2形1灯器具相当	
6900lm 43.1W 公共型番 : LSS9-4-65 パナソニック 直付XFX460AENLE9		3200lm 20.3W 公共型番 : LSS9-4-30 パナソニック 直付XFX430AENLE9		3040lm 20.6W 公共型番 : LSS9MP/RP-4-30 パナソニック 直付XLW433AENZLE9		6500lm 41.5W 公共型番 : LSS15-4-58 パナソニック 直付XLX160NENJLA9相当品		1630lm 11.6W 公共型番 : LRS14-12-40K パナソニック ダウンライトXND1567WWLE9	
F	LEDダウンライト	G	LEDミラーライト	H	LEDウォールライト	I	LED防犯灯／保安灯	J	LEDベースライト
F D L 2 7形型1灯器具相当		F L 2 0形1灯器具相当		H f 1 6形高出力型1灯器具相当		停電対応蓄電池内蔵防犯灯 融光灯F H P 3 2形相当		H f 3 2形高出力型1灯器具相当	
1005lm 7W 公共型番 : LRS14-08-40K パナソニック ダウンライトXND1067WWLE9		1320lm 11.7W パナソニック NNN13511LE1相当品		1480lm 14.9W 公共型番 : LBF3MP/RP-2-13 パナソニック NNFW21810CLE9		1040lm 9W 公共型番 : LBF3MP/RP-2-13 パナソニック パナソニック 防犯灯XY5547LE1		3200lm 20.3W 公共型番 : LSS1-4-30 パナソニック 直付XFX430NENLE9	
K	L D L 4 0 W × 2 業務用浴室灯	L	LED投光器						
H f 3 2形高出力型2灯器具相当		水銀灯1000形器具相当							
電圧 : 100 ~ 242V、防湿型 壁面（横向きのみ）・天井面取付兼用 本体・アクリル（ホワイト） グローブ・アクリル（乳白） 光束維持時間 40000 時間（光束維持率 95%） 適合ランプ：直管LEDランプ、素材：ガラス		LED内蔵、電源ユニット内蔵、防雨型・重耐塙害仕様、狭角タイプ 光束33200lm、消費電力203W、電圧200~242V 昼白色、5000K、Ra70光束維持時間60000時間（光束維持率85%） 本体・アルミニウム（ラウンド）、前面パネル：ポリカーボネート（透明） アーム・鋼（溶融垂鉛メタル）、保護等級：IP65、耐風速6.0m/s 落下防止ワイヤー付、耐雷サージ：15kV							
5320lm 62W パナソニック NNFW42500KLE9相当品 ランプ LDL40S-N/29/38-K相当品		33200lm 200V 203W パナソニック NYS35315LE2相当品							